

令和 7 年度使用中学校用教科用図書  
調査資料

深谷市教育委員会

# 参考資料

## 令和7年度使用中中学校用教科用図書 調査資料

第18採択地区教科用図書採択地区協議会

教科書発行者一覧

発行者の 番号・略称	発行者
2 東 書	東京書籍株式会社
4 大日本	大日本図書株式会社
6 教 図	教育図書株式会社
9 開隆堂	開隆堂出版株式会社
11 学 図	学校図書株式会社
15 三省堂	株式会社三省堂
17 教 出	教育出版株式会社
27 教 芸	株式会社教育芸術社
38 光 村	光村図書出版株式会社
46 帝 国	株式会社帝国書院
50 大修館	株式会社大修館書店
61 啓林館	株式会社新興出版社啓林館
81 山 川	株式会社山川出版社
104 教 研	数研出版株式会社
116 日 文	日本文教出版株式会社
224 学 研	株式会社 Gakken
225 自由社	株式会社自由社
227 育鵬社	株式会社育鵬社
229 学び舎	株式会社学び舎
232 あか図	あかつき教育図書株式会社
233 日 科	日本教科書株式会社
236 令 書	令和書籍株式会社

資料に記載している「QRコード」は、(株)デンソーウェブの登録商標です。

# 国語科調査資料

書名 項目	『新編 新しい国語』 発行者番号 2 発行者名 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「言葉の力」という設定で、3年間にわたり学習が発展しながら積み上げられることを意識できるよう工夫されている。</li> <li>○「学びを支える言葉の力」が関連のある3領域の教材の前後に配置されていることにより、各教材のつながりを意識して学習できるよう工夫されている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元ごとに学習の「てびき」が示され、「見通す」「つかむ」「読み深める」「考えを持つ」「振り返る」活動を明示し、三つの能力の育成に役立つよう工夫されている。</li> <li>○「情報と論理の学び」「文学の学び」「対話の学び」において三つの能力を育成するための具体的な方法が例示され、実践的に役立つ内容が紹介されている。</li> <li>○「未来を考えるための九つのテーマ」が示され、テーマと関連させて思考等が広げられるよう工夫されている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「てびき」で学習目標、学習内容や学習活動、学習の振り返りが示されており、見通しを持って学習できるよう工夫されている。</li> <li>○「未来への扉」に九つのテーマが示されており、それぞれの教材ごとに未来について考えられるよう工夫されている。</li> <li>○問題解決的な言語活動が多く設けられ、生徒どうしが互いの考えを生かしながら結論をまとめるなど、協働して学びが深められるよう工夫されている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○九つのテーマに沿って教材文が配置され、学習者がこれからの未来について課題を持ち、自分なりの解決方法が探れるよう工夫されている。</li> <li>○「言葉」の学習において、「日本語探検」「漢字道場」などの表現を工夫し、基本的な言語事項について興味・関心を持って取り組めるよう工夫されている。</li> <li>○他教科のつながりや、現代の諸問題を扱うことで、社会や世界とのつながりが意識できるよう工夫されている。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○二次元コードを読み取ると、学習の流れが示されたり、思考のヒントや活動の具体例が示されたりして、学びを手助けするコンテンツとなっている。</li> <li>○デジタルコンテンツが豊富に示され、自学自習や授業での学習に関連資料や動画等が参考にできるよう工夫されている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○オリジナルキャラクターを設定し、教科書の随所に登場させることで、問題意識を共有し、教材等に親しみやすくするよう工夫されている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年で「読書への招待」の内容が多彩で、学習者の読書への関心が深められるよう工夫されている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読み物教材の文字が大きめであり、字間や行間にもゆとりがあるため、読むことを苦手としている生徒にとっても読みやすいように工夫されている。</li> <li>○文学的文章、説明的文章、それぞれに挿絵や写真、図や表が示されており、それらを活用しながら読み進められるよう工夫されている。</li> </ul>
総 括	<p>3学年共に、本編8単元・資料編の2部構成である。巻頭には、前年までの既習事項と、当該学年で学ぶことが示されており、巻末の3年間の「言葉の力」は領域ごとに一覧になって掲載されている。生徒自身が、既習内容を振り返ることで、これまでの学習をより確かな学びにするよう工夫されている。また、今後どのようにして何を学ぶか見通しを持って取り組むことができるよう工夫されている。</p>

# 国語科調査資料

書名 項目	<div style="text-align: right;">           発行者番号 15 発行者名 三省堂         </div> <div style="text-align: center; font-size: 1.2em;">『現代の国語』</div>
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>            ○「語彙を豊かに」という設定で、言葉に興味・関心を深めながら言葉の特徴や使い方を理解することで、確かな学力の獲得につながるよう工夫されている。            ○「思考の方法」という設定が各教材にあることにより、情報を的確に捉え考えを深めて学習することが繰り返しできるよう工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>            ○各単元に「学びの道しるべ」が示され、「目標」「構造や内容を捉える」「読みを深める」「自分の考えを深める」「学びを振り返る」「学びを広げる」が明示され、三つの能力の育成に役立つよう工夫されている。            ○巻頭に「思考の方法一覧」があり、思考ツールが例示されている。関連ページが案内され、目的をもって、工夫して考えることができるよう工夫されている。            ○大單元ごとに「読み方を学ぼう」というページがあり、読むための方略を理解し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材に示した「思考の方法」など、「学び方」を学ぶための工夫を凝らし、汎用的な力を身に付けられるよう工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>            ○「思考の方法」「読み方」が図式化して説明されており、「何をどう学んだのか」「何ができるようになったのか」を実感できるよう工夫されている。            ○「学びのみちしるべ」において目標や学習活動、振り返りが示されており、さらに、「学びを広げる」において、既習事項を生かした学習ができるよう工夫されている。            ○対話や考えの共有などの協働的な言語活動の場が設けられており、仲間と共に学ぶ意欲が高められるよう工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;特記すべき教材や教科の特性&gt;</b>            ○各学年の最初の説明文教材では、プレ教材として短い文章が折り込みの見開き3ページで示され、説明文の「読み方」を具体的に理解できるよう工夫されている。            ○伝統的に長く掲出されている教材に加え、現代の有名アーティストの歌詞を織り込むなど、生徒にとって親しみやすく「言葉」の力を感じることでできる教材がある。            ○「言語活動」が豊富に紹介され、それぞれの活動において具体的な方策が示され、目標をもって課題に取り組むことができるよう工夫されている。         </p>
資 料	<p> <b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b>            ○二次元コードを読み込むと、読み方の解説動画が見られたり、外部資料に接続されたりするため、主体的に学びが広げられるよう工夫されている。            ○「思考の方法一覧」が巻頭にあり、自ら生み出した問いに対して、どのように情報を可視化し、解決していったらよいかを示されている。         </p> <p> <b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b>            ○巻末の資料が豊富であり、読書や社会生活への活用、言語事項など国語の力を総合的に生かすことができるよう工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b>            ○巻末に「資料編」がまとめられていることで、「読書の広場」「社会生活に生かす」「参考資料」について活用しやすいようになっている。         </p>
表記・表現	<p>           ○読み物教材の文字が大きめであり、字間や行間にもゆとりがあるため、読むことを苦手としている生徒にとっても読みやすいように工夫されている。            ○挿絵や図版が適所に配置され、読みやすさや理解しやすさにつながっており、さらに、資料を活用しながら読む力をはぐくめるよう工夫されている。         </p>
総 括	<p>           1・2年生9単元、3年生8単元で構成され、巻末に資料編として、「読書の広場」「社会生活に生かす」「参考資料」が掲載されている。何を学んだかを実感できる教科書として、特に読む学習においては、読み方や「思考の方法」が図解され、「学び方」を学べるよう工夫されている。また、「読むこと」で学習した内容を「書くこと」に生かせる単元も随所に配置されている。二次元コードを読み込むことで、学習が広げられるよう工夫されている。         </p>

# 国語科調査資料

書名 項目	<div style="text-align: center;">『伝え合う 言葉』</div> <div style="text-align: right;">           発行者番号 17 発行者名 教出         </div>
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>            ○「学びナビ」が設定され、教材の読み方や読むときの観点、学習活動のポイントをつかみ学習に臨めるよう工夫されている。            ○「言葉の小窓」「文法の小窓」が設定され、学習する内容の導入となっていることで取り組みやすい構成となっている。         </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>            ○単元に「学びナビ」があり、考え方を自分の表現に生かせるようになっており、文学的文章や説明的文章を読解する際、生徒自身の思考の足掛かりとなるよう工夫されている。            ○掲出文章後の「みちしるべ」では、「内容を捉えよう」「読み深めよう」「自分の考えを伝え合おう」など、個の学習活動に加えて「学び合い」ができるよう工夫されている。            ○単元後に「振り返り」の項目が記されており、三つの能力それぞれを定着させることができるよう、主題の捉え直しやまとめ方、学習後の見直しなどが示されている。         </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>            ○「情報・メディアと表現」「SDGsを取り扱った教材」において現代の課題を捉え、活動を通して主体的に学ぶ教材が全学年に配置されている。            ○国語科で学んだ知識・技能を、他教科の学習や日常生活、社会生活の中で活用できるよう工夫されている。            ○協働的な活動の中で、コミュニケーション力を高め、互いの立場や考えを尊重し合える学習活動ができるよう工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;特記すべき教材や教科の特性&gt;</b>            ○教科書で伝統的に長く掲載されている題材に加え、最近の話題性のある題材も取り入れられ、一部SDGsとの関連も示されている。            ○言語活動では「話す」「聞く」「話し合う」それぞれの学習活動を通して、教科横断的な視点で活用できるよう様々な活動事例が示されている。            ○教科の特性上、数時間先のゴールを意識して、見直しを持った授業展開が求められるため、生徒は「言葉の地図」にて、授業展開について見取れるよう工夫されている。         </p>
資 料	<p> <b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b>            ○「まなびリンク」として教科書に二次元コードが示され、教育出版HPのデジタル資料を閲覧することで学習が補完できるよう工夫されている。            ○「学びナビ」で学習の見直しを持ち、「みちしるべ」で学習を深め、「振り返り」で学びを確かめるという学習の流れが統一されている。         </p> <p> <b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b>            ○読書意欲を喚起するために「読書への招待」「広がる本の世界」を掲載し、教科書教材から発展的に学習が進められるよう工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b>            ○各単元の最後に「広がる本の世界」が掲載されていることで、学習した内容に関連した読書に取り組むことができる読書案内となっている。         </p>
表記・表現	<p>           ○読み物資料の文字が大きめであり、字間や行間にもゆとりがあるため、読むことを苦手としている生徒にとっても読みやすいように工夫されている。            ○文章中の表記でイメージしにくいものについては、注釈や挿絵、写真等があり興味・関心を持ちながら読み進められるよう工夫されている。         </p>
総 括	<p>           生徒が主体的に学ぶことができるよう、各単元において「目標」「学びナビ」「学習活動・本文・みちしるべ」「振り返り」の流れで学習過程が統一されている。「SDGs（持続可能な開発目標）」との関連が示されており、自らの言葉で問いを持ち、考えを交流し、自分なりの意志を持つことができるよう工夫されている。二次元コードを適切に配置し、生徒がICT機器を用いて学びが深められるよう工夫されている。         </p>

# 国語科調査資料

書名 項目	<div style="text-align: center;">『国語』</div> <div style="text-align: right;">           発行者番号 38 発行者名 光村         </div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学習の見通しをもとう」が巻頭に示されていることで、各単元について具体的に学習の見通しをもって1年間学ぶことができるよう工夫されている。</li> <li>○各教材文の下部にある新出漢字・新出音訓、注意する語句、関連する学習、ICT機器の活用等の情報が整理されている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年とも、巻頭に「思考を広げる」「思考を整理する」「思考を深める」という目的に応じた思考の補助となるツールを、発達の段階に応じて示している。また、教科書の中程に、「情報整理のレッスン」「思考のレッスン」として、その図などの具体的な活用が示されている。</li> <li>○「学びへの扉」では、「見通しをもつ」「捉える」「読み深める」「考えをもつ」「振り返る」という項目が示され、各単元で三つの能力の向上に役立つよう工夫されている。</li> <li>○「学びのカギ」では、学習のポイントや前後の学習とのつながりを見取ることができ、三つの能力の系統性を確認し、学習活動において実際に役立てられるよう工夫されている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びへの扉」として、生徒自身が学習過程を見通し、自らの学習を調整し、既習事項を次の学習や日々の課題解決に主体的に活用していけるように図式化されている。</li> <li>○巻頭に「思考の地図」を設けるとともに、「思考のレッスン」と「情報整理のレッスン」があり、練習問題を通して実践的に知識や技能を習得できるよう工夫されている。</li> <li>○「学びのカギ」に教材で身に付ける資質・能力が図解されており、次の学びに生かせるよう工夫されている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書で伝統的に長く掲載されている題材に加え、最近の話題性のある題材も取り入れられ、一部SDGsとの関連やメディア等で話題の人物の言葉が紹介されている。</li> <li>○古典学習においては、本文に加え、その教材に親しめるよう関係の資料「絵巻」「関連図」「簡易な文学史」が示されている。</li> <li>○教材に関連する資料を豊富に掲載し、「季節のしおり」「○○のレッスン」「コラム」「○○名作選」など、「言葉」について深く考えることのできる項目がある。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○二次元コードが示されており、教材のポイントを押さえられ、教科書掲載の問題と発展問題をテスト形式で解くことで自分の学力を確かめられるよう工夫されている。</li> <li>○「話すこと・聞くこと」では動画や音声の視聴から始まる新しい学びが提案され、ゴールを意識しながら学習が進められるよう工夫されている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○読書意欲を喚起するために「広がる読書」などで関連する書籍を掲載し、教科書教材から発展的に学習が進められるよう工夫されている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末には、少し小さめの装丁となっている「語彙ブック」が挿入され、様々な「表現」について知り、それらを活用する場面が考えられるよう工夫されている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読み物資料の文字が大きめであり、字間や行間にもゆとりがあるため、読むことを苦手としている生徒にとっても読みやすいように工夫されている。</li> <li>○挿絵や写真、図・グラフは文章と合わせて情報として読み取るもの、理解を助けるもの、イメージを広げるものなど、目的に応じて効果的に活用できるよう工夫されている。</li> </ul>
総 括	<p>他教科との関連や「SDGs（持続可能な開発目標）」と関連するテーマを取り入れ、系統的に「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」が育成できるよう工夫されている。生徒が主体的に学ぶことができるよう、学習に際して「見通しをもつ」「実行する・試行錯誤する」「振り返る」学習の流れを明示している。これからの学習には欠かせないICTの活用方法が分かりやすく、生徒の興味・関心を引くよう工夫されている。</p>

# 国語科（書写）調査資料

書名 項目	『新編 新しい書写』 発行者番号 2 発行者名 東書
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>            ○「書写のかぎ」で基礎的・基本的な知識及び技能の習得が図れるように明確に提示している。            ○毛筆では、穂先の動きを朱墨と薄墨（2色の濃淡）で示し、穂先の位置がよりわかりやすい。また、筆の流れを点線でつなぐことでわかりやすくなっている。         </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>            ○「生活に広げよう」という単元が計6単元あり、身に付けた知識・技能を国語や他教科の学習、生活の中でどのように活用できるか、話し合ったり考えを記入したりする欄が設定されている。            ○日常生活での効果的な文字の書き方や横書きの書き方を扱っている。         </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>            ○各教材に「目標」を示し、「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「生活に広げよう」そして「振り返って話そう」の流れで見通しをもって主体的に学習できるようになっている。            ○単元末の「振り返って話そう」では、目標に対する評価をするとともに、対話を通して学んだことを振り返ることで、次の学習への意欲につながるようにしている。         </p> <p> <b>&lt;特記すべき教材や教科の特性&gt;</b>  <b>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</b>            ○硬筆文字を題材に導入を図り、毛筆で書いて確認し、硬筆で他の文字を書くことで定着を図っている。            ○硬筆による「まとめ」のページがあり、毛筆で身に付けた力を硬筆で生かす学習活動が設定されている。         </p>
資 料	<p> <b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b>            ○巻頭の「文字を書くってなんだろう」で、デジタル時代のなかの手書きの良さを再確認し、「学習の進め方」で書写学習の意義を確かめている。         </p> <p> <b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b>            ○巻末の「書写活用ブック」は様々な書式の詳細が紹介され、必要に応じて確認することができる。         </p> <p> <b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b>            ○行書の4つの基本的な運筆法を示し、確かめながら練習を進めることができる。         </p>
表記・表現	<p>           ○筆使いのポイントを「とん・すう・ぴた」と示されており、運筆の感覚を擬態語で表すことで捉えやすくしている。            ○単元の初めに「指でなぞって考えよう」と表示し、取り組みやすいように示している。         </p>
総 括	<p>           ○基本単元を「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」の3ステップで構成していて、「書写のかぎ」で基礎・基本のポイントを明確に示している。また、「指でなぞって考えよう」で取り組みやすいように示している。            ○毎学年末に「書写テスト」を設定し、学習してきた内容を確認できるようにしている。         </p>

# 国語科（書写）調査資料

書名 項目	『 現代の書写 』	発行者番号 15 発行者名 三省堂
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「書き方を学ぼう」でポイントをつかみ、お手本のどこに使われているのかを見つけることで、汎用性のある知識として身につくと思われる。</li> <li>○「書いて身につけよう」では、毛筆で学んだことを他教科や日常生活で活用できるようにするために、硬筆で繰り返し書いて学びを確かなものとする定着を図っている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○2年「楷書と行書の使い分け」で、いくつかの場面を設定し、目的や必要に応じた書体を選択して書くことについて考えさせる工夫がみられる。</li> <li>○「書いて身につけよう」の振り返りとして、学習したことを意識して文字を書く欄や、学んだことを自分の言葉でまとめられるようにしている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の構成が「書き方を学ぼう」「書いて身につけよう」「振り返ろう」となっており、学習手順をはっきりさせ、見通しをもって学習を進められるようになっている。</li> <li>○「書き方を学ぼう」では、どこに気を付けて、どのように書けばよいかという「学び方」をわかりやすく示すことで、学ぶ意義を自覚しつつ、自学等で活用できる。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <p>＜毛筆と硬筆との関連＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆学習が硬筆の書写力の基礎となっていることを踏まえ、毛筆学習後に硬筆で、学びが確かなものとなるようにしている。</li> <li>○毛筆の学習後、硬筆で繰り返し確認できる「書いて身につけよう」などの書き込みページを入れ、日常生活に生かせるようにしている。</li> </ul>	
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校生活や日常生活と文字とのつながりが紹介されている。</li> <li>○各教材がイラストや写真が多用され、目標やポイントがつかみやすい。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○習得したことを他の学習や生活に活用できよう書き込みページを多く設けている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材を見開き2ページで構成することで、何をどの順番で学習するのかわかりやすい。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「書き方を学ぼう」で、ポイントを明確にして、「書いて身に付けよう」で普段の文字に生かせるような学習の流れの工夫をしている。</li> <li>○行書と楷書の違いを文字を大きくして見やすく説明するなど、学習の中心事項が文章で示され、課題に結び付くような工夫がされている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本単元が「書き方を学ぼう」「書いて身につけよう」で構成され、「振り返ろう」で学習したことを意識して文字を書く欄や、学んだことを文章化して記録する欄を設け、定着しているかを確認している。</li> <li>○毛筆で学んだことを硬筆で生かせるよう書き込みページが設定されていて、生活に生かせるようにしている。</li> </ul>	

# 国語科（書写）調査資料

書名 項目	『 中学書写 』	発行者番号 17 発行者名 教出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆の基本の筆遣いは「考えよう」の中で朱墨、薄墨の二色で示されている。穂先の動きを筆の画像で示し、筆順・中心線・筆の動きの矢印も示されている。</li> <li>○「試し書き」「まとめ書き」で授業内での自分の変化に気づける他、教科書に硬筆で書き込む箇所が取り入れられている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「考えよう」で、思考力を伸ばす話し合い活動や気づいたことを書き込む欄が設けられており、「生かそう」で判断力や表現力に結びつけている。</li> <li>○「活字について知ろう」「書式の教室」など、習得した知識や技能を活用して書く学習内容が設定されている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」の学習過程によって、学習手順が明確化されており、見通しをもって主体的に取り組めるようになっていく。</li> <li>○基本単元に必ず「振り返ろう」を入れてあり、学習のねらいを意識し、何を身につけたのかを自己評価項目○△の記号で書き込み、自らの学びを確認できるようにしている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <p>○＜毛筆と硬筆との関連＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆単元の最初に「試し書き」で硬筆を書き、「生かそう」で再度硬筆の書き方を確認することで、字形や運筆等の特徴を捉えさせ、毛筆学習の成果が日常生活での硬筆における書く力を向上させられるような教材構成になっている。</li> </ul>	
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容や学習の手順が明示されており、自分の課題解決のための具体的な方策を知ることができる。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元で学習したことや話し合ったこと等を書き留める欄を設け、学習内容の定着をはかる工夫がされている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○A B版サイズで横幅が広く、半紙での書字の配置がイメージしやすくなっており、中心点が常に示されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行書の学習で「連続」「変化」「省略」のアイコンを示し、理解しやすい工夫をしている。</li> <li>○見開き（右側で文字をよく観察し、左側でポイントを確かめる）構成で統一され、使いやすくされている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」の学習過程により学習の見通しを明確にしてあり、「試し書き」「まとめ書き」で授業内での自分の変化に気づけるように構成されている。</li> <li>○基本単元が見開きで構成されていて、見やすく使いやすいレイアウトになっている。</li> </ul>	

# 国語科（書写）調査資料

書名 項目	<div style="text-align: center;">『 中学書写 』</div> <div style="text-align: right;">           発行者番号 38 発行者名 光村         </div>
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>            ○「学びのカギ」で学習のポイントがまとめられ、学習内容がひと目でわかるようになっている。            ○「確かめよう」で、毛筆の筆の動きや穂先の位置がわかるように2色で濃淡をつけた字が示され、運筆の説明文と始筆、止め、結びの筆の写真を用いて説明し、実際の筆使いの特徴をわかりやすく示している。         </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>            ○「考えよう」では、生徒が書き込んだり、話し合ったりして学習課題について考える時間を設定している。            ○「楷書と行書の使い分け」「文字の使い分け」では、目的や必要に応じた書体の選択について考えさせたり話し合わせたりする工夫が見られる。         </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>            ○「考えよう」「確かめよう」「生かそう」によって学習の見通しをもち、考えてから毛筆や硬筆で書いて日常に生かす学習に主体的に取り組むことができるようにしている。            ○「日常に役立つ書式」で、学校生活の中での活用場面や社会生活に必要な文書の書き方を扱い、身につけた書写力を日常生活に生かせるよう示している。         </p> <p> <b>&lt;特記すべき教材や教科の特性&gt;</b>  <b>&lt;毛筆と硬筆との関連&gt;</b>            ○「書写ブック」で、毛筆教材文字と同じ学習要素をもつ硬筆課題を設定し、練習できるようにしている。            ○毛筆学習後に「生かそう」で、硬筆で書いて日常生活に生かせるような教材構成となっている。         </p>
資 料	<p> <b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b>            ○「書き初めスタートブック」では書き初めの由来や全国の文化を紹介することで学習意欲を喚起している。         </p> <p> <b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b>            ○「トン・スー・トン」「ぴよん・ぴたっ」などリズムや運筆を示すことで、無理なく親しみやすい表現でわかりやすくしている。         </p> <p> <b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b>            ○半紙原寸大の手本を掲載して、大きくわかりやすい教材文字となっており、また、中心線を示す記号もあり、学びやすいよう配慮されている。         </p>
表記・表現	<p>           ○「考えよう」→「確かめよう」→「生かそう」という展開の流れがひと目でわかる構成にしている。            ○「行書スイッチ」で、行書を楽しく学べるよう書くポイントをわかりやすく示している。         </p>
総 括	<p>           ○「考えよう」で、生徒が書き込んだり話し合ったりする課題を設定し、主体的に学習に取り組めるようにしている。また、「学びのカギ」で、学習のポイントがまとめられている。            ○「書写ブック」で、毛筆で学んだことを普段使う硬筆で練習し、「書く力」を身に付けられるようにしている。         </p>

# 社会科（地理的分野）調査資料

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>『新編 新しい社会 地理』</p> <p>発行者番号 2 発行者名 東書</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校社会科で習得すべき知識や概念が過不足なく盛り込まれ、特に生徒がつまづきやすい事項は「もっと解説」で補足説明し、知識を確実に定着できるように工夫されている。</li> <li>○単元のまとまりを意識して深い学びにつなげることができるよう、単元を貫く探究課題が設定され、1時間ごとの学習課題と探究課題をつなぐ探究ステップが設けられている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○雨温図の読み取り方など、地理の学習に必要な基礎的・基本的な技能を身に付けられる「スキル・アップ」のコーナーが設けられ、二次元コードから解説動画を見たり、シミュレーションで練習したりすることができるようになっている。</li> <li>○地理学習で大切な視点を「位置や分布」「人と自然のかかわり」「場所」「結び付き」「地域」の5つで示し、地理的な見方・考え方を働かせた学習が無理なく進められるように構成されている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○持続可能な社会の実現を考えるヒントとなるコラム「未来にアクセス」が新設され、課題解決のための様々な取り組みを取り上げ、現代的な諸課題の解決のための意識と態度が育てられるように工夫されている。</li> <li>○小集団での参加型学習「みんなでチャレンジ」を活用することで、本文での学習内容の理解を確実にし、話し合いなどの対話的な活動を促すことができるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○過密地域（川口市）と過疎地域（東秩父村）の人口ピラミッド、内陸型の工業地域（久喜市）、高速道路沿いに広がる畑作地域（三芳町）、多くの観光客でにぎわう花畑（秩父市）など、県内の資料を取り上げている。</li> </ul>
<p>資 料</p>	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導入ページでは、学習内容をイメージできる「導入クリップ」や白地図データ、統計コンテンツなど、学習の入口に役立つQRコンテンツが用意されている。</li> <li>○「世界の諸地域」では、地域の様子を想像しながら学習を始められるよう、印象的な「一枚の写真」を掲載し、地域の姿を映し出す「世界の窓」が新設され、生徒の学習意欲を喚起するとともに、学びの見通しが持てるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○まとめのページでは、ベン図、マトリックス、ステップチャート、フィッシュボーンなど自らの思考を整理するさまざまなツールが用意され、紙の教科書とQRコンテンツを組み合わせることで、より多様な活動が展開できるよう工夫されている。</li> <li>○社会科の3分野や他教科でも扱う学習内容には、分野関連と教科関連を示すマークが付けられ、小学校社会科で学習した内容にもマークが付けられ、小学校との関連が図れるようになっている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題、本文、資料、「チェック&amp;トライ」等、紙面の要素を定位置に配置し、学習の流れが見えることで、すべての生徒にとって学習に取り組みやすいレイアウトになっている。</li> <li>○本時の内容の上に、生徒の興味・関心を誘うサブタイトルが設けられている。学習課題やタイトルの隣にQRコードが掲載され、迷わずにいつでもQRコンテンツが活用できるようなレイアウトに工夫されている。</li> </ul>
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カラーユニバーサルデザインに全面的に対応し、グラフや地図などでは色覚特性のある生徒でも見分けられる色を採用している。教科書のすべての文字に、字形を判別しやすく、読み間違えにくいユニバーサルデザインフォント(UDフォント)が採用されている。</li> <li>○敬体で平易な文章で書かれている。</li> </ul>
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○魅力的な写真や資料が豊富に掲載され、生徒の学習意欲を高め、地理の視点から課題に向き合い、持続可能な社会の実現に向けて「これからの社会を生き抜く力」を育むように編修されている。</li> <li>○小学校の学びを活かし、中学校の学びがスタートでき、学校でも、家庭でも、学びを支える多様なQRコンテンツが用意され、紙とデジタルで学びがアップデートできるように工夫された教科書である。</li> </ul>

# 社会科（地理的分野）調査資料

書名 項目	『中学社会 地理 地域にまなぶ』 発行者番号 17 発行者名 教出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1 単位時間を見開き 2 ページとし、文章や資料の読解を通して基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、習得した知識・技能を活用して自分の考えを表現する活動が促されるように構成されている。</li> <li>○個人やグループでの活動を通じて、地理の学習で身に付けたい技能を養う「地理の技」コーナーを設け、日本地図を描く、統計資料を使って表を完成させる、地形図から断面図をつくるなど、技能を磨く工夫がされている。また、二次元コードから技能の習得に有効な動画を見ることができるようになっている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時ページには、1 単位時間の授業ごとの追究課題が提示され、「確認！」で学習したことを整理し、「表現！」で学習したことを活用し、自分で考え、言葉で表現するように工夫されている。</li> <li>○学びを助ける三本の柱「LOOK!」「THINK!」「TRY!」が設けられ、「LOOK!」で追究のきっかけとなる視点を提示し、「THINK!」で追究に使う資料の読み取り・考察のポイントを提示し、「TRY!」で内容にもう一步踏み込んで、思考力・判断力・表現力を高める工夫がされている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「特設・クロスロード」のページを設け、世界や日本の事例を基に、歴史的分野や公民的分野と関連する話題などを取り上げ、生徒自らが社会を形成していく市民の一人であることを自覚させ、責任ある主権者として社会に参画しようとする意識や、持続可能な社会の創造を目指そうとする意欲を高める工夫がされている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国の機関や企業などが集まるオフィス街(さいたま新都心)、ブルーベリー狩りを楽しむ観光客(美里町)、首都圏外郭放水路(春日部市)など、県内の資料を取り上げている。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導入資料として、生徒の興味・関心を高め、学習のきっかけとなる写真・地図などを解説文である「LOOK!」とともに掲載している。また、学習から興味や関心を広げていくコラム「地理の窓」を設けている。</li> <li>○紙面に印刷された二次元コードから、各種のコンテンツにアクセスして学習に活用できるようになっている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○節の学習を言葉で振り返る「ワードチェック」コーナーが設けられ、二次元コードよりクイズ形式で確認することができるようになっている。</li> <li>○章・節の最後に「学習のまとめと表現」が設けられ、学習内容が身に付いたか確認し、基礎・基本の定着が図れるようになっている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き 2 ページ＝1 時間の構成で、見開きごとに「学習課題」と「確認／表現」を設け、生徒の主体的な学習を促すレイアウトになっている。</li> <li>○本時ページ以外にも記述を補い、生徒の興味・関心を引き付ける豊富な写真・図版などからなる資料ページが用意されている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文や注など、教科書中の文章にはユニバーサルデザインフォントが使用されている。</li> <li>○本文は敬体で記され、本文と資料をフォントやポイントの違いにより明確に区別したり、整理・パターン化し、視認性がより高まるように配慮されている。キャラクターの吹き出しの文章は、読みやすさを考慮して改行されている。</li> <li>○キャラクターのイラストは、性差や障がいの有無などにかかわらず、多様な生徒が互いに協力し合いながら学習に取り組む様子を描写するなど多様性への配慮がされている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「問い」を軸にして単元を通して課題解決的に学習が進められるように構成されており、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」をわかりやすく示し、基礎・基本が確実に身に付く紙面構成となっている。</li> <li>○社会への関心を高め、自ら行動していこうとする態度を涵養するページが充実しており、主権者として、社会参画の意識を高め、ともに生きる力を育む教科書となっている。</li> </ul>

# 社会科（地理的分野）調査資料

書名 項目	『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土』 発行者番号 46 発行者名 帝国
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文や図版から、学習上大切な事項を確認させる問いかけとして「確認しよう」を設け、正しく文章を読む力（読解力）を養い、知識の確実な定着を促すようになっている。</li> <li>○「地理的な見方・考え方」を働かせるのに適した写真・資料に「資料活用アイコン」を全53か所に掲載している。また、写真や地図、グラフを読み取る技能を着実に習得できるよう、「技能をみがく」コーナーを全21テーマ設置している。</li> <li>○まとめとして単元末に「学習を振り返ろう」を設置しており、学習した知識・技能を白地図を用いて確認できるようになっている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題を振り返り、習得した知識を活用して言語活動につなげる問いかけとして「説明しよう」を設け、思考力、判断力、表現力を育成するよう工夫されている。</li> <li>○単元末に設置された「学習を振り返ろう」で、マトリックス、ウェビング、ステップチャートなどの思考ツールを用いて学習事項を整理し、対話を通して「深い学び」ができるように工夫されている。QR コンテンツで思考ツールの紹介と活用手順を動画で説明している。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ハザードマップを使って避難先を考えよう」など対話を通して学びを深める「アクティブ地理」を新設し（全4テーマ）、対話を通して課題に粘り強く向き合う姿勢や、他者との意見交換を通して合意形成を目指す態度を身に付けられるようになっている。</li> <li>○地域的・地球的課題解決に取り組む視点を養う特設ページ・コラム「未来に向けて」を40か所に設置し、「持続可能な社会の実現」に向けた意識を育む工夫がされている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○最高気温を示す看板（熊谷市）、首都圏外郭放水路（春日部市）など県内の資料が用いられている。</li> <li>○生活を豊かにするための工夫や努力する人の姿など、さまざまな立場の人の考えを紹介するコラム「声」を22か所設置している。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○節の冒頭には「写真で眺める」を設置し、大きく鮮やかな写真から地域を概観する学習活動を通して、学習する地域に対する興味・関心を高め、学習の見通しを立てることができ、「主体的な学び」につながるよう工夫されている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「用語解説」「NHK for School」「他分野教科書リンク」「地域見える化 GIS ジオグラフ」「小学校の振り返り（クイズ付き）」など、個別最適な学びを支援する豊富なコンテンツが用意され、学習効果を高める工夫がされている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文ページは、見開き1授業時数とし、110時数分で構成され、年間の授業時数の中で無理なく学習を進められるように工夫されている。また、同じ地点の異なる時期（季節や時代）の写真に掲載するなど、比較を意識したレイアウトになっている。</li> <li>○「学習課題」を見開きに設置し、見通し・振り返り学習を積み重ねることで、「章・節の問い」にせまられるよう、「問い」を構造化するなどレイアウトを工夫している。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援教育の専門家からの助言をもとに、図版に背景色や囲み線をつけるなどして図版と本文を区別しやすくするなど、インクルーシブ教育へ配慮した編修がされている。</li> <li>○文字は、読みやすいユニバーサルデザインフォントを採用し、重要語句を示すゴシック体の太さやルビの見やすさにも配慮がされている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問いを軸にした単元構成の構造化によって、「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」が実現できるようにつくられている。また、理解しやすい本文と興味・関心を高める写真や資料により、意欲的に学びに向かう態度が育成されるように編修されている。</li> <li>○人権や環境・エネルギー、防災などの現代社会の課題解決に向けた取り組みを豊富に掲載し、持続可能な社会の形成に向けて主体的に取り組む態度を育成できる教科書である。</li> </ul>

# 社会科(地理的分野)調査資料

書名 項目	『中学社会 地理的分野』 発行者番号 116 発行者名 日文
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文ページは、1 授業時間を見開き 2 ページとし、見開きで「何を学ぶのか」を「学習課題」で明確に示し、「学習課題」と対応した「確認・表現」コーナーで、本文ページの学習を確かめるための問いを設けている。こうした工夫により、生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、教師も授業計画が立てやすく、毎時間の学習指導の改善に役立てることができるようになっている。</li> <li>○「まとめ・ふり回り」ページでは、STEP1 の穴埋め問題の文章と、STEP2 のキーワードを組み合わせて使うことで、知識の確実な習得に役立てることができるようになっている。QR コンテンツに単元全体の問いをランダムに出題する確認小テストが用意されている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「問い」に答える活動として「自分の考えをまとめよう」コーナーが設けられ、いくつかのステップに分けた活動を通して、思考力、判断力、表現力等を育成できるように工夫されている。</li> <li>○まとめの活動では、フィッシュボーンチャート、ダイヤモンドランキング、クラゲチャートなどさまざまな思考ツール使った活動を提案しており、端末上で操作できるコンテンツも Web サイトで公開している。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の州や日本の地方などを象徴するトピックスを取り上げ(全 16 テーマ)、そこに住む人々が、地域が抱える課題の解決のためにどのような取り組みを進めているかを学習することで、持続可能な地域づくりの実現に取り組む力を身に付けられるよう工夫されている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書内のすべての雨温図を自由に選択して重ね合わせたり、任意の数値を入力して作成した雨温図を教科書内の雨温図と重ね合わせたりできる QR コンテンツが用意されている。</li> <li>○地域事例として、気温が高い内陸の都市(熊谷市)、大規模なオフィス街(さいたま新都心)などが本文で紹介されている。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の興味を引き、授業設計に役立つ様々な最新のトピック(新型コロナウイルス感染症、ロシアによるウクライナ侵攻など)を教科書全体を通して紹介し、多様な地理的事象に対する理解を深められるよう工夫されている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個別最適な学びを実現するために、「イントロダクションムービー」「ポートフォリオ」「確認小テスト」「白地図」など、各自の学習進度やペースに合わせた様々な QR コンテンツが用意されている。</li> <li>○土地利用図、州・地方ごとのグラフ、地形地図、人口密度・交通地図、雨温図は、全州・全地方で統一した体裁・サイズ・配置で掲載されており、州・地方内で地図同士を対比したり、他の州・地方と比較することができる。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自然環境・人文環境にかかわる写真をバランスよく掲載し、大観ページで州・地方の概要をつかんでから、導入ページで「節の問い」を立てられるように工夫されている。</li> <li>○左上には、主題や考察の仕方に深くかかわる写真を大きく掲載し、キャラクターの問いかけと合わせて写真を読み取ることで、自然にその州・地方の主題や考察の仕方に焦点化できるように工夫されている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UD フォントを使用し、平易な表現、丁寧な記述で生徒の読み取りを支援している。小学 6 年生以上で学習する漢字の初出個所とすべての重要語句にルビを付けている。</li> <li>○特別支援教育やカラーユニバーサルデザインの観点から、地図やグラフなどは読み取りやすい配色にするとともに、形や模様によって色に頼らない読み取りを可能にしている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○持続可能な社会に関連する内容が各所に掲載され、教科書全体を通して持続可能な社会について考えられるように工夫されている。</li> <li>○指導と評価の計画に基づいた教科書、教科書 QR コンテンツが充実した教科書、新しい時代を担う主権者を育てる教科書、教師・生徒がわくわくする教科書である。</li> </ul>

# 社会科（歴史的分野）調査資料

書名 項目	『新編 新しい社会 歴史』 発行者番号 2 発行者名 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き1ページの内容を、導入資料→学習課題→本文→チェック&amp;トライの流れで構造化しており、学習内容を確実に定着させようとしている。</li> <li>○歴史学習の基礎的な知識・技能を系統的に習得させる「スキルアップ」が設けられており、学習に必要な技能を確実に定着させようとしている。</li> <li>○本文等の抽象的な用語を解説する巻末の用語解説が設けられており、基礎・基本を確実に理解できるようにしている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各見開きページの終末に設けられた、説明、要約等で学習内容を振り返る「トライ」に繰り返し取り組むことで、思考力・判断力・表現力を身に付けられるように工夫されている。</li> <li>○各章の終末では、ウェビングやステップチャート等の多様な思考ツールを活用して学習内容を考察するまとめの活動を通して、生徒の思考の整理をサポートし、学びを深める工夫が見られる。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭で、持続可能な社会の実現に向けて歴史から学ぶことの重要性を取り上げるとともに、最終章では歴史の学習を踏まえて自分なりの考えをまとめる活動を充実させることで、よりよい社会の形成に主体的に参画する意識を高める工夫が見られる。</li> <li>○各章の導入ページでは、資料を読み取る活動を通して単元を貫く問いの設定や、単元の学習の見通しをもてるように構成されている。</li> <li>○各章末のまとめのページでは、学習内容を確かめ、振り返り、深め、探究課題の解決へと段階的に取り組めるようになっていたり、キャラクターのセリフによってポイント等を掴むことができ、活動に取り組みやすくなったりしている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「未来にアクセス」により、歴史的な経緯を踏まえながら現代社会においても継続的な課題である社会事象を意識できるようになっている。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導入や展開、まとめといった学習段階に応じて、それぞれ適したQRコンテンツが用意されており、個別最適な学びや協働的な学びの実現につなげることができる。</li> <li>○各章の導入ページでは、資料に対し、キャラクターによる豊富な発問が設けられており、生徒が資料を読み取る際の手助けになっている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文を補完する資料を大きく掲載し、資料に付した図番号を本文にも付し、効果的に学習を進められるようになっている。</li> <li>○小さな資料は実物大で掲載し、大きな資料にはサイズを明記することで、生徒が具体的なイメージをもって学習できるようになっている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料掲載部分に背景色が入れているため、本文部分との区別が視覚的につきやすくなっている。</li> <li>○QRコードの掲載は学習課題の横を定位置としており、生徒がいつでも迷わずにデジタルコンテンツを活用できるようになっている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○立体感や陰影のある表現を省いた「フラットデザイン」を採用しており、生徒が学習に必要な情報に集中できるよう配慮されている。</li> <li>○グラフや地図等では、凡例を使用せず図中に直接示すようにしたり、読み取りづらい破線や点線を極力減らしている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタルコンテンツが全体として豊富に用意されている。特にまとめの活動等で、生徒が自分で選択して活用できる思考ツールがデジタルコンテンツとして多数用意されており、個別最適な学びの実現につながる。</li> <li>○1時間の学習の流れや各章のまとまりが構造化されており、生徒にとっても教師にとっても扱いやすくなっている。</li> </ul>

# 社会科（歴史的分野）調査資料

書名 項目	『中学社会 歴史 未来をひらく』 発行者番号 17 発行者名 教出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1時間の学習の見開き1ページごとに、学習したことを整理しながらまとめる「確認」のコーナーが設けられ、学習事項の確実な定着が図られるように構成されている。</li> <li>○本文内に適宜設けられた「歴史の技」のコーナーは、小学校社会科の振り返りにあたる内容から中学校社会科で身に付けておくことが適切な技能の習得まで、幅広い学習内容の定着に役立つ。また、二次元コードを読み取ると、技能習得のための関連動画を視聴することができる。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きページごとに、「確認」を受けて学習したことを基に表現する「表現」のコーナーが設けられ、学習事項の定着だけでなく、活用が図られるように構成されている。</li> <li>○学習の流れに即して「THINK!」や「Q」のコーナーが適宜設けられ、地図・グラフ・絵・図解等の資料を読み取って考察する学習活動が重視されている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業のはじめに位置づけた「学習課題」を受けて、「THINK!」や「確認」、「表現」の問いに取り組むことで、生徒が自ら学び、自ら考える学習が展開できるようになっている。</li> <li>○「確認」、「表現」や章末の「学習のまとめと表現」のコーナーに、グループによる学習活動が取り入れられており、協働学習をもとに、多角的に理解したり考察を深めたりすることによって、新たな知識の習得や生徒の学習意欲を向上させる工夫が見られる。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が自分達と歴史のつながりを意識できる「私たちにつながる歴史」や、各章の導入で生徒が実感をもちやすい人々の暮らしに焦点を当てた「学習のはじめに」等により、歴史を身近に感じさせる工夫が見られる。</li> <li>○「歴史を探ろう」や「歴史学習の終わりに」のページは、社会的な課題を多面的・多角的に捉え、考察する教材や内容になっており、公民の学習や普段の生活に接続していけるように工夫している。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○二次元コードから、まなびリンクというウェブサイトへ接続して、様々なコンテンツを利用できるようになっている。</li> <li>○各章のとびらページや「学習のはじめに」には、図版を大きく掲載し、資料の読み取りを行いながら、章の学習内容を見通すことができるようになっている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章のとびらのページでは、資料の読み解きを通して時代と時代を大まかに比較し、変化の理由を考えさせる活動により、「見方・考え方」を働かせたり、時代を体感したりする活動の定着を図っている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前単元のまとめのページに掲載された資料と、新たな単元のとびらのページが見開き1ページになるように配置されており、時代の変化を読み取りやすいように工夫している。</li> <li>○各章の導入のページでは、用意された発問の内容に合わせて、注目すべき箇所は拡大して示している。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地名・人名などの固有名詞や社会科特有の用語等には、見開きごとにふりがなを付けている。側注には用語解説を掲載している。</li> <li>○巻末のさくいんは、人名と事項に分けて引きやすくする等の工夫が施されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○章ごとの内容のまとまりを踏まえ、各章の導入のページでは、資料を活用しながらこれから学習する章全体の内容を見通せるようになっている。これと対応する各章末の「単元のまとめと表現」では、図や語句を用いて整理する活動や章全体を貫く問いに応答する活動を通して、歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりできるように工夫されている。</li> <li>○歴史を身近に感じられる資料や内容を通して、生徒が社会的な課題を歴史の流れを踏まえて考察することができるページが充実している。</li> </ul>

# 社会科（歴史的分野）調査資料

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <h2>『中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き』</h2> </div> <div style="text-align: right;">           発行者番号 46 発行者名 帝国         </div> </div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き1ページで1時間の授業の流れが構造化されており、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるよう工夫されている。</li> <li>○本文側注及びQRコンテンツの中に用語解説が用意されている。</li> <li>○14か所設けられた「技能をみがく」のコーナーでは、歴史的な見方・考え方を働かせる上で必要な基礎的技能を習得できるよう配慮されている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文のページの見開き右下の「説明しよう」には本時の学習内容を活用して思考を促し、自分なりに表現する問いが設けられている。</li> <li>○各章末の「学習を振り返ろう」では、章の学習で得た知識・技能を生かして、歴史的な見方・考え方を働かせつつ、単元を貫く問いに対して思考・判断・表現する課題が設定されている。その際、思考ツールを用いて自分の考えを整理したり構造化したりすることができるよう配慮されている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○時代の冒頭には、その時代を生きた人々の様子が生き生きと描かれた「タイムトラベル」のページが、また、世界とのつながりが重視される單元には「世界とのつながりを考えよう」のページが設けられており、時代への興味・関心を高める工夫が見られる。</li> <li>○「アクティブ歴史」のコーナーでは、正解のない課題解決型学習の中で意見交換や発表等の活動を通して課題に粘り強く向き合い、様々な立場を踏まえて合意形成を目指す態度を身に付けられるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「環境・エネルギー」「情報・技術」「人権・多文化」「平和・安全」「伝統・文化」「防災」といった、現在及び将来の社会が直面する課題の歴史的経緯を取り上げたコラム「未来に向けて」が63か所設けられており、公民的分野への接続が考慮されている。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「世界とのつながりを考えよう地図編」では、地図中からイラストを探す活動を通して、視覚的に世界の中の日本を捉えられるよう工夫されている。</li> <li>○391の豊富なQRコンテンツにより、個別最適な学びを支援する工夫が見られる。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「タイムトラベル」は異なる時代どうしを比較したり、同じ時期の「世界とのつながりを考えよう」と比較したりしながら考察できるようになっている。</li> <li>○「タイムトラベル」、「世界とのつながりを考えよう」には「見方・考え方」が設けられ、歴史的な見方・考え方を働かせながら時代の特色を考察することができる。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「タイムトラベル」は見開き1ページで掲載されているが、記号を使って位置を確認しやすくしている。</li> <li>○特に文化に関する資料が大きく掲載されていて多くの作品に触れることができるようになっている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容に関連する事項についての参照ページ、参照資料の図番号、「タイムトラベル」への参照記号等のリンク機能が設けられ、資料の活用を促している。</li> <li>○文章だけでは理解しづらい用語には、図解や写真が添えられ、視覚的に理解が深まるように工夫されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な今日の課題を、歴史学習を通して掘んだり、考察したりできるようなコラムや資料が充実しており、公民的分野との接続や、持続可能な社会の実現に向けての意識を高めることができる。と考える。</li> <li>○各時代の、様々な立場の人々の営みを大観することができる大判のイラストは、生徒にとって興味をもって眺め、考えることにつながり、各時代の学習に意欲的に取り組む契機になるだろう。</li> </ul>

# 社会科（歴史的分野）調査資料

書名 項目	『中学歴史 日本と世界 改訂版』 発行者番号 81 発行者名 山川
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の1時間当たりの内容が「学習課題→本文→ステップアップによる振り返り」という流れで統一され、この流れに沿って学習を進めることで基礎的な知識・技能を身に付けられる構成になっている。</li> <li>○豊富な用語解説や注釈により、生徒の理解を助ける手立てとしている。</li> <li>○第1章には「歴史との対話」と題した歴史学習に必要な不可欠な基礎知識と歴史学習における調査方法を示し、基礎的な知識・技能の習得を助ける工夫がなされている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○豊富な資料と様々なパターンの発問により、生徒が歴史的な見方・考え方を働かせ、多面的・多角的に考える場面を多く設定している。</li> <li>○各章のまとめのページでは、図表にまとめたり、他の時代と比較して考察したりする問いに答える等の活動を通して、時代の特色を捉えることができるように工夫されている。</li> <li>○ある事象に対して価値観の異なる資料も取り上げる等、様々な立場を考慮した内容の配慮が見られる。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○美術作品や史料を読み解く力を養う「歴史を考えよう」と題したページでは、現代の我々にも深い関わりのある憲法や選挙等についても取り上げられており、どのように社会と関わるべきかを考える契機の一つになる。</li> <li>○資料を見やすく掲載し、発問によってどこに注目すべきかの示唆を与えることで、生徒が主体的に学習に取り組む手助けとなっている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「歴史へのアプローチ」と題したページでは、時代を通した視点・グローバルな視点で見たテーマ等を扱い、問いを追究することで多面的・多角的に考察する力を養うとともに、幅広い知識と教養が身に付くように工夫されている。</li> <li>○世界の歴史に関する内容を充実させており、現在の国際情勢を意識したコラムを掲載する等、現代の諸課題への興味・関心を高める工夫が見られる。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文字史料は原文ではなく、現代語訳のものが掲載されているため、内容を理解しやすくなっている。</li> <li>○「○世紀の世界」と題した見開きのページが古代～近世まで配置されており、イラストと地図で世界の様子を大まかに掴めるようになっている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○二次元コードから拡大図や詳細な解説を見られる資料も多数掲載されており、資料を基に生徒がより深く考察することができる工夫が見られる。</li> <li>○資料には歴史的な見方・考え方を働かせるための発問が様々なパターンで設定されており、資料を見て生徒自身が考える場面が豊富になっている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文の内容に関連する資料の番号が明記されており、どの資料を見ればよいのかわかりやすくなっている。</li> <li>○資料はすべて本文の外側に配置されていて、注目させたい箇所等は拡大して示している。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文はユニバーサルデザインフォントを使用し、難読漢字や固有名詞、歴史用語にはすべてふりがなが付されているため、誰にとっても読みやすいものになっている。</li> <li>○高等学校との接続に配慮し、高等学校の教科書の文体に合わせて「ですます」調ではなく、「である」調になっている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特に「高等学校との接続」を強く意識した内容・構成の工夫が見られた。歴史学習における史資料の重要性に気付かせるために多くの史資料を扱ったり、世界とその中の日本という視点を持たせるために、世界史の内容を充実させたりする工夫がなされていた。</li> <li>○因果関係を重視した詳細な記述により、本文の内容が多くなっているため、1時間の授業と家庭学習とですべてを網羅して理解させることには工夫が必要になると考える。</li> </ul>

# 社会科（歴史的分野）調査資料

書名 項目	『中学社会 歴史的分野』 発行者番号 116 発行者名 日文
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時間の終末に活用できる「確認」のコーナーによって、本時の学習で習得した知識・技能を振り返ることができる。</li> <li>○毎時間、「見方・考え方」のコーナーが設けられており、学習課題の解決に向けての手がかりとなる主な歴史的な見方・考え方の例を示している。</li> <li>○「スキル UP」によって、社会的事象等について情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けられるようにしている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「資料活用」や「表現」、「チャレンジ歴史」等、随所で生徒が自分の考えをまとめる活動を促すコーナーが豊富に用意されている。</li> <li>○各時代のまとめでは、習得した知識を活用し、歴史的な見方・考え方を働かせて時代の特色を探り、生徒が各時代の特色を自分の言葉で表現する活動を盛り込んでいる。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の導入ページ「学習のはじめに」では、資料を読み取る活動を通して単元を貫く問いを立てたり、学習を見通したりすることができるようになっている。また、何を学ぶかを捉えるための教材として、時代の前後を比較できる資料や年表・世界地図を読み取る活動である「トライ」を設けている。</li> <li>○QR コンテンツの一つとして、章の導入や章末で活用できるポートフォリオが用意されており、ICTを活用しながら生徒が自分の学びの状況を整理したり、振り返ったりすることができるようになっている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各時代の学習を通して、「人物コラム」や「先人に学ぶ」等から、先人が直面した社会的課題に対し、その解決に向けてどのように取り組んできたのかを知ることができるようになっている。そして、3年間の歴史学習のまとめとして、よりよい未来を作るために何が大切か、現代の諸課題について歴史を踏まえて考えることができるように構成されている。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○動画や小テスト、思考ツール活用のための解説等、QR コンテンツが合計 437 個用意されており、授業内だけでなく、家庭学習にも活用できる。</li> <li>○各章の導入ページでは、見開き 1 ページに前後の時代を比較したり、その推移を読み取ったりできる資料を掲載しており、新しい章の学習内容への疑問や見通しをもたせることができるようになっている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○適宜、「資料活用」のコーナーが設けられており、必要な情報の読み取り等の資料活用能力の向上をサポートしている。</li> <li>○資料には適宜、人物名や建物の名称等を文字で示しており、資料の読み取りをサポートしている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○特に文化に関するページでは本文の分量は少なくなっており、その分資料が多数、大きく掲載されていて、様々な作品やその細部に触れることができるようになっている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文字はユニバーサルデザインフォントを使用し、ふりがなは大きめのゴシック体で視認性を高める工夫をしている。</li> <li>○地図・グラフ等はカラーバリアフリーに配慮するほか、形や模様、線の種類等、色以外の情報でも識別できるようになっている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○QR コンテンツが豊富で、生徒が興味をもって授業や家庭学習の様々な場面で活用することができるよう配慮されている。</li> <li>○QR コンテンツには、章の導入や節ごとのまとめ、章のまとめに活用できるポートフォリオが収録されており、単元の構想の参考になるだけでなく、評価にも活用できるようになっている。</li> </ul>

# 社会科（歴史的分野）調査資料

書名 項目	<div style="text-align: center;">『新しい歴史教科書』</div> <div style="text-align: right;">           発行者番号 225 発行者名 自由社         </div>
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>            ○各見開きページの終末にある「チャレンジ」の発問により、毎時間の学習内容を振り返らせる工夫が見られる。            ○各章末の「復習問題のページ」と「時代の特徴を考えるページ」では、一問一答形式で基本的な知識を問う問題や、基本用語の意味を説明する問題等が複数用意されている。         </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>            ○各章末の「時代の特徴を考えるページ」では、別の時代との相違点等を、ポイントをしばってまとめさせたり、時代の特徴を一言でまとめさせたりする等の活動を多く取り入れている。また、どの問いにもまとめ方の例を示してあるため、誰でも取り組みやすくなっている。            ○「人物クローズアップ」や「もっと知りたい」等のコラムのページにも発問が用意されており、様々な内容について考えたり、まとめたりする機会の一つになっている。         </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>            ○各章の導入のページには、予告編として簡単にまとめた年表が掲載されており、生徒が各章の学習に見通しをもって取り組めるようになっている。            ○各章の終末には、単元の学習内容に関連する事柄をさらに詳しく追究できる「コラム」、「調べ学習」のページが設けられている。         </p> <p> <b>&lt;特記すべき教材や教科の特性&gt;</b>            ○郷土の偉人である渋沢栄一の生涯や、信条を深く知ることができる特集ページが設けられている。            ○「外の目から見た日本」のページでは、我が国の様子を記した外国人により作成された資料の記述内容等から当時の日本の功績等を分析し、紹介することで、我が国や郷土を愛する態度の育成を図っている。         </p>
資 料	<p> <b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b>            ○古代の学習を終えた後に、「修学旅行で行く奈良と京都」という特集ページが設けられており、教科書本文に出てきた東大寺の大仏や平等院鳳凰堂について、さらに詳しく知ることができるように工夫されている。            ○キャラクターのセリフでは、資料についての様々な発問や豆知識等が示されており、資料を読み取る際の助けとなっている。         </p> <p> <b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b>            ○各章の終末には調べ学習のページが設けられており、各章の学習内容に関連する事柄を様々な資料を基に追究することができるようになっている。            ○書物や和歌等の作品が比較的豊富に掲載されているため、様々な内容を具体的に知ることができる。         </p> <p> <b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b>            ○どの資料も比較的大きく掲載されている。また、多くの資料に詳細な解説がついているため、資料の内容を掴みやすい。            ○すべての資料やコラム等には見開きページごとに通し番号が付されており、本文の関連箇所とリンクしている。         </p>
表記・表現	<p>           ○文字はユニバーサルデザインフォントで、固有名詞や難読漢字には読みがなが付されており、誰でも読みやすくするための工夫が見られる。            ○見開きで学習している時期を示すスケールが入れられている。また、地理や公民の学習と関連が深い内容には、関連マークが付けられている。         </p>
総 括	<p>           ○学習内容をさらに深めるコラムや特集ページが豊富で、我が国の歴史に強い興味・関心を抱いている生徒にも対応している。            ○日本という国名のおこりや、古事記・日本書紀の神話、天皇という称号が持つ意味、外国から見た日本の様子等を多く扱うことによって、特に我が国の伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度の育成に力を入れている。         </p>

# 社会科（歴史的分野）調査資料

書名 項目	<div style="text-align: center;">『新しい日本の歴史』</div> <div style="text-align: right;">           発行者番号 227            発行者名 育鵬社         </div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の1時間当たりの内容が「つかむ→調べる→まとめる・表現する」という流れで統一され、この流れに沿って学習を進めることで基礎的な知識・技能を身に付けられる構成になっている。特に「確認」の活動により、基礎的な学習内容の定着を図っている。</li> <li>○各章末の「学習のまとめ」では、各時代に活躍した人物や基礎的事項を年表で確認する作業を通して、生徒が時代の流れを掴めるようにしたり、学んだことを生かして資料の読み取りに挑戦したりする活動が設定されている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各見開きページの終末に学習した内容を確認するための「確認」・「探究」のコーナーにより、レポートや論述形式でまとめたり、自分の考えを発表したりする等、多様な言語活動に取り組めるようになっている。</li> <li>○各章末の「学習のまとめ」では、生徒が各時代の政治、産業、社会、文化等を他の時代との共通点や相違点に着目しながら文章や図で表す等の活動を盛り込んでいる。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章および各単元の導入には問題提起となる資料と発問を掲載し、生徒の興味や関心を高めると共に、単元のまとまりを意識した課題を掲示することで、生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにしている。</li> <li>○国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物を取り上げた「人物クロズアップ」のコーナーでは、その生き方や人間的魅力等も学べるようにしている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史的な見方・考え方についてポイントを生徒に掴ませるためのページが設けられており、資料を基にどのような点に注目して読み取ればよいのかを示している。</li> <li>○「日本の美の形」と題したページでは、見開き2ページにわたり、時代ごとに日本で生み出された美術作品等の写真を掲載し、文化を尊重し、継承していこうとする態度を養おうとしている。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目次と各章の冒頭にある二次元コードからウェブサイトへ接続すると、学習内容に関連する動画の視聴や様々な情報を収集することができ、家庭での学習にも役立つ。</li> <li>○各章の導入のページには歴史の流れを大観できる「歴史絵巻」が掲載されており、キャラクターの豊富な問いにより、学習意欲の喚起につながるようになっている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容の理解を深める「歴史ズームイン」、多面的・多角的に考える視点を提示する「歴史ビュー」等のコラムにより、学習に発展性をもたせる工夫をしている。</li> <li>○歴史的な見方・考え方を働かせるための発問や資料活用の着眼点等が示されており、資料を見て生徒自身が考える場面が多数設定されている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文の内容に関連する資料の番号が明記されており、どの資料を見ればよいのかわかりやすくなっている。</li> <li>○見開き1ページの冒頭に節ごとの課題が明示されており、生徒が常に単元のまとまりを意識して学習を進められるようになっている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文字の大きさや資料の見やすさに配慮し、教育外漢字や固有名詞には適宜ふりがなを付している。また、難解な歴史用語等には補足を付けている。</li> <li>○地図やグラフは、色分けだけでなく模様を入れる等、色以外の情報からも読み取れるように工夫されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業改善の助けになるように、単元のまとまりや1時間の授業の流れを意識した構成になっている。</li> <li>○神話や和歌、建築、彫刻、浮世絵等、日本の伝統文化や現代に伝わる文化遺産に関する題材を豊富に取り上げており、日本の伝統文化や歴史を尊重する態度の育成を特に重視していると考えられる。</li> </ul>

# 社会科（歴史的分野）調査資料

書名 項目	『ともに学ぶ人間の歴史』 発行者番号 229 発行者名 学び舎
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きを1単位時間とし、導入資料→学習課題→本文→学習のまとめという課題解決型の学習を促す構成になっている。また、欄外には資料の補足があり、理解を深める工夫が見られる。</li> <li>○「学習内容の構造化と焦点化」が図られ、歴史の具体的場面や時代を生きる人々の姿を通して各時代の特色への理解を深めることができるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「章をふりかえる」では、学習した歴史的な知識を活用して表現できるように、設問が用意されている。</li> <li>○「学習のまとめ」では、時代の特色と時代の転換を振り返りながら大観し、各時代の特色を多面的・多角的に考察して自分の言葉で表現させる工夫がある。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○指導的な人物の紹介だけでなく、様々な分野、階層の人々の生活、社会的な業績を紹介し、市井の人々の労働について、また、生き方を学べるように工夫されている。</li> <li>○生産に取り組み、懸命に働く人々、生活の困難を乗り越えようとする人々の姿を描き、沖縄やアイヌの人々の取組も具体化して描いており、生徒が正義と責任を重んじ、公共の精神に基づいて主体的に社会の形成に参画しようとする態度を養う工夫がされている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○埼玉県に関する教材として、稲荷山古墳出土の鉄剣、渋沢栄一、秩父事件を取り上げている。</li> <li>○現代史の学習では、21世紀までテーマを設定し、歴史的な事象を今日の社会と結び付け、よりよい日本の社会と世界の実現を視野に、様々な社会の課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養えるように工夫されている。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章の扉に北極を中心とした世界地図を掲載し、章のテーマに基づいたその時代の各地の様子を表す写真やイラストを配置して、生徒の興味・関心を引き出す工夫がされている。</li> <li>○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○特設ページ「歴史を体験する」を設け、火おこしや糸紡ぎ等の体験を詳しく紹介したり、インターネットや博物館等を利用した調べ学習、体験者からの聞き取りやまとめ方、討論の方法等の学習の仕方を丁寧に説明したりしている。</li> <li>○側注・グラフ・資料等から、歴史的な事象や課題について多面的・多角的に考えられるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ページごとに写真、地図、系図、統計、組織の仕組み等が掲載されており、資料には、出典や所蔵が掲載されている。</li> <li>○巻末の年表には「日本の社会・政治・経済の動き」「日本の文化・宗教」「世界の動き」の欄を設け、大きな流れや出来事の関連を掴めるように工夫されている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地図やグラフは、色覚特性に配慮し、色・線・マーク等を見やすく工夫している。</li> <li>○本文は敬体で記され、学年に応じた文章表現や漢字が使用されている。また、資料には、見開きで通し番号が付けられている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な世界史教材があり、世界各地の人々の営みに目を向け、共存や連帯の意識を生み出すとともに、自国や地域を主体的に認識しようとする姿勢を培えるように工夫されている。</li> <li>○全体を通して、疑問や問いが生まれやすいように図版や記述が工夫されている。また、主体的な学習を妨げないよう、本文の中の太字をなくす配慮がされている。歴史の中の女性に光を当てる、世界や東アジアから歴史を見る等、多様な視点で歴史を学ぶことができるように配慮されている。</li> </ul>

# 社会科（歴史的分野）調査資料

書名 項目	『国史 教科書』 発行者番号 236 発行者名 令書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文を中心に豊富な情報量を盛り込み、コラムにおいてさらに補足する形で、我が国の連綿と続いてきた歴史や伝統を尊重する態度を育成できるように構成されている。また、基本的な知識や技能の習得と発展的な学習を手助けする内容をバランスよく配置している。</li> <li>○本文の最後に「政権担当者・出来事対照表」が掲載され、政権を担った主な人物を時系列で並べ、それぞれの名前の下には、主に補佐した人物が示され、人物の右側にはその時代の重要な出来事が書かれており、歴史の流れを把握する工夫が見られる。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章末には「まとめ学習」が設けられ、表にまとめたり、自分の言葉でまとめたりする活動を通して、時代の特色を捉えることができるように構成されている。</li> <li>○「対米戦争に勝算はあったのか」や、「蒸し返された韓国の請求権」等の歴史上の様々な事象に疑問をもち、自ら探究しようとするきっかけとなるようなコラムが随所に配置されている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界各国王朝略年表や歴代天皇の皇位継承図を掲載する等、基本的内容の列挙にとどまらず、より高い知的探究を手助けし、歴史の真理を追い求める姿勢を育成するように工夫されている。</li> <li>○「古事記の国譲り神話」等、学習内容に関連するコラムが配置され、我が国の歴史における話合いの精神や多様性の尊重等を喚起するように配慮されている。</li> <li>○福澤諭吉の母親などの日本人女性の活躍を取り上げ、また、御成敗式目で男女平等がうたわれていることから、日本社会で男女平等が意識されてきたことに着目させるようにしている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○埼玉県に関する資料として、「稲荷山古墳の鉄剣」、「男衾三郎絵詞」を取り上げている。</li> <li>○天皇を軸として語ることで、歴史の連続性をより実感できるように工夫されている。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の最後に「歴史小説・歴史漫画を読むときの注意」が設けられ、歴史小説や歴史漫画を読んだり、歴史物のドラマや映画を観たりすることで、歴史に対する理解が深まると同時に、すべてが歴史の事実ではないこと等の注意点が丁寧に書かれている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「天皇と院の政治的地位の変遷」が権力と権威の模式図で描かれる等、皇室の政治的地位の状態を視覚的にわかりやすく紹介している。</li> <li>○「グループで歴史を調べよう」というコーナーを設け、「テーマを決める→疑問をもつ→調べる→まとめる→発表する→振り返る」と丁寧に紹介している。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末資料として、各時代の日本とアジアとの関係を表す地図や、国内の出来事に関連する地図が豊富に掲載されている。</li> <li>○資料として「日本美術図鑑」が設けられ、各時代を代表する日本の美術作品が大きく鮮明な図版で紹介されている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本書は縦書きが採用され、小見出しにも「いろは順」を用いるなど、ビジュアル面にも工夫が取り入れられ、読書をする楽しみを提示しようとしている。</li> <li>○本文ページの上下に注釈が設けられ、用語や本文の内容を補足する＋αの情報について、平易な言葉で解説されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本書は、我が国の光と影、その両面を学ぶことで我が国を愛し、他国を尊重することができる生徒が育つよう、また、自分自身こそが我が国の歴史の継承者であるということを感じさせ、現代と違うもの、変わらぬものを比較する力を養い、どの生活場面でも活かすことができるように構成されている。</li> <li>○少数説もフォローし、幅広い知識を習得するために、多くの事実を科学的根拠・データを用いて説明している。</li> </ul>

# 社会科（公民的分野）調査資料

書名 項目	『新編 新しい社会 公民』 発行者番号 2 発行者名 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元のまとめに用語を確認する「ワードチェック」が設けられており、重要語句の確実な理解を促している。また、重要語句を太字で明示し、他のページでも記載されている場合は語句の下にページ数が記載されており、知識の定着を図っている。</li> <li>○「もっと知りたい」「もっと解説」というコーナーでは、条例の補足や難しい用語の解説がされており、学習内容を深めたり、学習内容を補填したりする工夫がなされている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ほぼ全てのページに「トライ」が記されており、得た知識を使って思考させるツールとして、繰り返し活用することで思考力を高める工夫がなされている。</li> <li>○単元を通して、「課題をつかむ→課題を追究する→課題を解決する」構成になっており、課題解決的な学習を意図的に仕組み、現代社会の諸課題を捉える工夫をしている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「みんなでチャレンジ」というコーナーでは、対話的な活動で学びを深める工夫がされており、他者の意見を取り入れ、自分の意見を調整していくことで主体的に学習に取り組む態度を養う工夫がなされている。</li> <li>○「18歳へのステップ」というコーナーでは、身近で具体的な場面から憲法・政治・経済をとらえ、主体的に社会に参画する態度を養う工夫がなされている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○持続可能な社会の実現に向けて、「環境・エネルギー」「防災・安全」「情報・技術」「伝統・文化」「人権・平和」の5つのテーマを重点課題とし、諸課題の解決に主体的に取り組む態度を育成する構成になっている。また、掲載資料に5つのテーマのマークが記載されており、単元内の学習内容と結び付けられている。</li> <li>○持続可能な社会の実現に向けて、各地で見られる様々な取り組みを紹介する「未来にアクセス」が新設された。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「現代社会と私たち」の単元では、身近な街のイラストからスムーズに公民の学習が始められるようになっている。</li> <li>○「導入の活動」では、単元を貫く探究課題の場面設定を対話形式で分かりやすく提示している。「まとめの活動」では、単元の探究課題を再提示し、課題を解決させるような工夫がなされている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「参考法令集」「社会科用語マスター」「スキルアップ動画」など多彩なQRコンテンツで学びをサポートする工夫がなされている。</li> <li>○資料に付いている「図番号」を本文にも付け効果的に学習ができるようになっている。また、漫画やイラストなどを豊富に掲載し、興味を高める工夫がなされている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料掲載部分に背景色を入れて本文部分との区別を明確にすることで、資料と本文を視覚的に分かりやすくする工夫がなされている。</li> <li>○QRコードが全てのページの学習課題の隣に掲載されている。定位置に掲載することで、迷わずにQRコンテンツを活用できる工夫がなされている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○色覚特性のある生徒でも見分けられる色の組み合わせや文字のフォントになっており、ユニバーサルデザインが取り入れられている。</li> <li>○「課題をつかむ」「課題を追究する」「課題を解決する」という学習段階を進めていくことで、段階を踏んで探究課題を解決できる構成になっている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元を通して、「課題をつかむ→課題を追究する→課題を解決する」構成になっており、課題解決的な学習を意図的に仕組み、段階を踏んで学習を進める工夫がなされている。</li> <li>○持続可能な社会の実現に向けて、5つのテーマを重点課題とし、掲載資料に関連づけている。生徒が現代社会の諸課題と向き合い、主体的に解決に取り組む態度を育成することが期待できる。</li> </ul>

# 社会科（公民的分野）調査資料

書名 項目	『中学社会 公民 ともに生きる』 発行者番号 17 発行者名 教出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「確認」では、学習したことを整理することができ、学習事項の定着が図られる工夫がなされている。また、重要語句を太字で明示し、他のページでも記載されている場合は語句の下にページ数が記載されており、知識の定着を図っている。</li> <li>○「公民の技」というコーナーでは資料の読み取り方を補填することができ、公民の学習で身に付ける技能を養う工夫がなされている。「公民の技」の中にあるQRコードを読み取ることで、資料を詳しく見ることができ学習の補填もできる。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「THINK」や「Q」のコーナーでは、地図やグラフ資料を読み取って考察する学習活動が設定されており、思考力を育成する工夫がなされている。</li> <li>○「確認」を受けて学習したことをもとに表現する活動として「表現」というコーナーが設けられており、学習事項を活用できる工夫がなされている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタルコンテンツ「まなびリンク」はQRコードを読み取ることで、学習内容を補填する動画や知識の確認ができるクイズを視聴することができ、主体的な学習に活かすことができる。</li> <li>○「学習の窓」というコーナーでは、学習内容を補填したり、現代社会の様子を紹介したりするコラムが設けられている。本文内容から視点を変えられる内容となっており、生徒の興味・関心を喚起する工夫がなされている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○持続可能な社会の実現に向けて、SDGsとの関連を重点テーマにしている。17の目標の紹介だけでなく、「本質的な問い」を公民学習の中で関連付け考えさせる工夫をしている。本時の各時間には関連する「SDGsマーク」が付けられている。</li> <li>○終章では、これまでの学習を活かし、SDGsの視点をもって地球規模の課題と向き合い、解決方法を考察する「私の提案」を作成する場面が設けられている。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒にとって親しみやすいキャラクターが各ページに配置され、発問や気づき、学習の手がかりを掲示することで学習意欲を喚起する工夫がある。</li> <li>○「進化する人工知能」や「society5.0」のような時事的な話題や最新の社会的事象を取り上げて生徒の興味・関心を高める工夫がなされている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導入資料・中心資料が「LOOK!」の解説文とともに紹介しており、本時の重要な資料を読み解くサポートになっている。</li> <li>○本時の学習内容と関連を図りながら、学習を一步進める今日的な課題をテーマにした特設ページが設けられている。社会の諸課題を多面的・多角的に考察できる資料提示になっている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き2ページで「導入資料」・「学習課題」・学習課題と対応した「確認/表現」といった学習の流れが分かりやすい本時ページとなっている。</li> <li>○資料掲載部分に背景色を入れて本文部分との区別を明確にすることで、資料と本文の違いを視覚的に分かりやすくする工夫がなされている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グラフ・地図などの資料には、色覚特性をもつ生徒も識別しやすい色や模様が使用され、カラーユニバーサルデザインに配慮がなされている。</li> <li>○見開きページ右側に示したインデックスには、章の学習内容が記載されており、一目で学習している単元が分かるような配慮がなされている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SDGsとの関連を意識した構成になっている。学習の視点となるSDGsについて紹介するページが設けられているほか、ページ下部に本時に関連するSDGsマークが付いている。</li> <li>○デジタルコンテンツが充実している。「まなびリンク」は動画やクイズ、問題集など学習場面に応じて様々なコンテンツから選んで学習に活かすことができる。</li> </ul>

# 社会科（公民的分野）調査資料

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: center;"> <p>『社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して』</p> </div> <div style="text-align: right;"> <p>発行者番号 46 発行者名 帝国</p> </div> </div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○重要語句を太字で明示し、他のページでも記載されている場合は語句の下にページ数が記載されており、知識の定着を図っている。また、本文に記載されている法令の下に日本国憲法何条かが記載されており、憲法との結び付きも意識されている。</li> <li>○「技能をみがく」というコーナーではディスカッションや資料分析の方法などが掲載されており、学習する上で必要な基礎的な技能習得の工夫がなされている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「確認しよう」と「説明しよう」が本文のページに設けられている。「確認しよう」では基礎的な知識の確認をし、「説明しよう」では得た知識をもとに思考を促し、思考力・判断力・表現力を育成できる工夫がなされている。</li> <li>○各章末に「学習を振り返ろう」が配置されている。単元を貫く問いに対して思考力を高める課題が設けられている。また、思考ツールを用いて自分の考えを整理・構造化できる工夫がなされている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「公民プラス」というコーナーでは、実社会の動きや新しい事例が紹介されており、実社会につながる学習を進めることができる。</li> <li>○単元の導入として「学習の前に」が設けられており、学習内容と生活との関連を見出し、興味・関心を高めてから学習に入る工夫がなされている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「未来に向けて～よりよい社会を目指して」では、SDGsに対する各地の具体的な取組が紹介されており、持続可能な社会の考え方について深めることができる。</li> <li>○「18歳の準備」では契約やライフプランなど18歳に向けて習得すべき実践的な知識を学べ、主権者としての社会参画の意義を高めさせる工夫がなされている。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「アクティブ公民」というコーナーでは、現代社会の諸課題を考察し、解決への取組を考えるパフォーマンス課題が設定されている。</li> <li>○生徒にとって親しみやすい中学生のキャラクターが各ページに配置され、発問や気づき、学習の手がかりを掲示することで学習意欲を喚起する工夫につながっている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「対話」「見方・考え方」「小・地・歴」などのアイコンが本文に記載されており、学習活動に活かすことができ、学びを深める工夫がなされている。</li> <li>○本文と資料の関連する箇所には、図・写真や他ページへの適切な参照指示が記載されており、学習効果を高める工夫がなされている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文、資料、側注などが統一されたレイアウトで配置され、見開きページが見やすくなっている。</li> <li>○写真やグラフ資料などが大きく見やすく記載されており、資料からイメージを喚起しやすくする工夫がなされている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グラフ・地図などの資料には、色覚特性をもつ生徒も識別しやすい色や模様が使用され、カラーユニバーサルデザインに配慮がなされている。</li> <li>○見開きページ右端のインデックスには、章の学習内容が記載されており、一目で学習している単元が分かるような配慮がなされている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「単元を貫く課題」「本時の課題」「問いの振り返り」が単元ごとに一貫して作られており、単元を通して課題解決的な学習ができる構成になっている。</li> <li>○18歳選挙権を行使する生徒がいることをふまえ、主権者としての社会参画の意義をさまざまな面から理解できる資料が多く使用されている。</li> </ul>

# 社会科（公民的分野）調査資料

書名 項目	『中学社会 公民的分野』 発行者番号 116 発行者名 日文
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>            ○「語句の意味を確認しよう」というコーナーでは、章の学習全体のしくみ図を使って知識の整理を行い、重要語句の定着を図る工夫がなされている。            ○全ての見開き本ページに、重要語句の整理をする「確認」が設けられている。1時間ごとの重要語句を定着させる工夫がなされている。         </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>            ○「章の問いに答えよう」というコーナーでは、章全体の問いに対して段階的に問いを考える構造になっており、思考力・判断力・表現力を高める工夫がなされている。            ○全ての見開き本ページに、学習課題の解決に向けて手がかりとなる主な「見方・考え方」の例が示されている。全ての学習課題に対して、課題を追究するための視点や方法を示すことで、思考力を育成するための手助けとなっている。         </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>            ○「章の学習をふり返ろう」というコーナーでは、学習を始める前と比べて考えが変わったことや考えが深まったことを記述させている。自らの学びを自己調整したり、変容を見取ったりする工夫がなされている。            ○「アクティビティ」というコーナーでは、具体的な事例や資料を読み取り、対話的な活動で課題を解決する工夫がなされている。         </p> <p> <b>&lt;特記すべき教材や教科の特性&gt;</b>            ○「明日に向かって～私たちの社会参画」というコーナーでは、地域社会への参画や消費者教育などについて考えるコラムが設けられており、生徒の社会参画を促す工夫がなされている。            ○巻頭ページでSDGsの目標が示されており、関連する内容が学習の随所に登場している。教科書全体を通してSDGsについて考えられる工夫がなされている。         </p>
資 料	<p> <b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b>            ○生徒にとって親しみやすいキャラクターが各ページに配置され、発問や気づき、学習の手がかりを掲示することで学習意欲を喚起する工夫がある。            ○「新型コロナウイルス感染症」「ロシアのウクライナ侵攻」「AI」など最新のトピックに関する資料を随所に扱っており、学習意欲を喚起する工夫がある。         </p> <p> <b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b>            ○QRコードが全てのページの学習課題の隣に掲載されている。「ポートフォリオ」「イントロダクションムービー」「確認小テスト」のコンテンツが277個用意されており、生徒の学習効果を高める工夫につながっている。            ○「公民+α」というコーナーでは、学習内容をさらに深めるコラムが設けられており、授業を広げる教材としての役割になっている。         </p> <p> <b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b>            ○「単元を貫く問」→「学習課題の追究」→「単元を貫く問の解決」という流れで教科書が作られている。見開きページで問いが捉えられる配置になっている。            ○まとめのページでは、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点が分かりやすい構成になっている。         </p>
表記・表現	<p>           ○グラフ・地図などの資料には、色覚特性をもつ生徒も識別しやすい色や模様の工夫がされており、カラーユニバーサルデザインの配慮がなされている。            ○単元で基本色となる「単元カラー」が設定されている。ページの右端にはインデックスを設け、学習している単元が把握できる工夫がなされている。         </p>
総 括	<p>           ○社会参画や持続可能な社会の実現に向けて、多面的・多角的に考察する教材が幅広く扱われており、主権者意識を高める作りになっている。            ○デジタルコンテンツが充実している。「ポートフォリオ」「イントロダクションムービー」「確認小テスト」のコンテンツが277個用意されており、生徒の学習効果を高める工夫がなされている。         </p>

# 社会科（公民的分野）調査資料

書名 項目	『新しい公民 教科書』 発行者番号 225 発行者名 自由社
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○重要語句は太字で記載されており、知識の定着を図っている。また、見開きの最後に「ここがポイント」というコーナーがあり、本文中の内容を端的に示すことで、本文の概要をつかみやすくしている。</li> <li>○各章の終わりに「学習のまとめ」というコーナーがある。最重要語句を再確認し、どの程度学習が身に付いているかを自己評価できる仕組みになっている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の終末にある「アクティブに深めよう」では、章の中で扱った特定のテーマについて、登場キャラクターの多面的・多角的な意見を参考にしながら、自分の考えを表現する活動ができるようになっている。</li> <li>○各章の終わりに「学習の発展」というコーナーがある。章の学習内容を発展させるための課題が示されており、思考力を高める工夫になっている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「もっと知りたい」というコーナーでは、現代社会の諸問題や本章で扱った事例を具体的に紹介し、発展的な学習につなげる工夫がみられる。</li> <li>○日本の伝統的工芸品や天皇の権威・国旗や国歌などを紹介するトピックがあり、地域社会の一員としての自覚や愛国心が高まる工夫につながっている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○最終単元で「持続可能な社会」についてレポートを卒業論文の形式で書く学習が設けられている。レポート作成の手順や考え方、論文の題材例などが記載されている。</li> <li>○持続可能な社会を創る担い手として、公民を学ぶ目的を教科書冒頭で記し、公民への興味・関心を高めている。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒にとって親しみやすいキャラクターが豊富（12名）に登場する。キャラクターが各ページに配置され、発問や気づき、学習の手がかりを掲示することで学習意欲を喚起する工夫になっている。</li> <li>○現代社会と私たちの章末にある「アクティブに深めよう」では、魅力あるまちづくりに最適なキャッチフレーズを考え、広報ポスターを作るという学習の形式を使って、自分たちのまちの課題を合意形成しながら解決をする工夫がされている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「やってみよう」というコーナーでは、本文中の事象について、生徒が身近な例を思い出しながら記述して、学習内容を整理できるようになっている。</li> <li>○「ディベートをやってみよう」では、ディベート・フローシートを活用しながら議論のしかたを学習することで、議論を進めて深い考えに基づき合意形成ができるようになっている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文の周囲に、本文中の用語の解説が多く載せられている。太字ではない用語の解説も多くしており、解説文は詳細に書かれている。</li> <li>○見開きページに載っている資料は多くはないが、その分余白が十分ありすっきりとした見開きページとなっている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1時間ごとの授業で取り扱う見開きには、一貫して通し番号がついている。教師にも生徒にも、本時がどのあたりの学習なのか把握しやすくなっている。</li> <li>○グラフ・地図資料は本文と識別がしやすいような色分けがされている。また、単元ごとに色分けがされており、学習している単元が分かりやすくなっている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○天皇や憲法など特定の話題に関して、資料と本文ともに深い内容が扱われている。愛国心を高めることが意識されている教科書である。</li> <li>○本文中の用語の解説が豊富に記載されているため、細かな用語の理解もできるようになっている。</li> </ul>

# 社会科（公民的分野）調査資料

書名 項目	<div style="text-align: center;">『新しいみんなの公民』</div> <div style="text-align: right;">           発行者番号 227            発行者名 育鵬社         </div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「確認」では、重要語句や概念を説明するための文章を本文から抜き出す指示が出されており、語句や概念を説明する力をつける工夫がなされている。また、重要語句は太字で記載されており、語句の定着が図れるようになっている。</li> <li>○「学習のまとめ」では、各章で学んだ学習内容の定着を確認することができる。重要な学習内容を、問題を解くことで再確認できる工夫がなされている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「やってみよう」のコーナーでは、小集団による話し合いや、ディベート、シミュレーション、体験学習などの参加型の学習を行うことで、思考力・判断力・表現力を高めることができる。</li> <li>○「探究」では得た知識をもとに思考力を働かせ表現をする活動を通して、思考力・判断力・表現力を高めることができる。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章の冒頭ページに「どうして学ぶの？」というコラムが設けられている。なぜ学ぶのかを丁寧に解説したコラムにより、章の学習内容が自らの日常生活や将来にどのように役立つかが理解でき、意欲を高めることができる。</li> <li>○「学びを深めよう」というコーナーでは、社会的事象を多面的・多角的に考え、今日的課題について話し合い、よりよい未来を構想する活動を通して学習意欲を喚起する工夫につながっている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科書の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「課題をつかむ」→「課題について調べる」→「課題についてまとめる・表現する」といった教科書の構成になっており、問題解決型の学習を進めることができる。</li> <li>○持続可能な開発目標（SDGs）の17のゴールが示しており、教科書の学習内容について、その中のどれに当てはまるかを考えながら学習を進めることができる。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○豊富な地域事例を通して、郷土の史跡、景観、特産物などを活用したまちづくりや村おこしなど、地域における様々な取り組みを紹介しながら、自らの住んでいる地域への興味や関心を高める工夫がなされている。</li> <li>○日本の伝統と文化に関心をもたせ、文化の継承と創造の意義に気付かせるよう、年中行事や伝統文化に関する資料が多数紹介されている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の冒頭にあるQRコードを読み取ることで、学習内容に関連する動画を閲覧したり、情報を収集したりすることができ学習効果を高めることができる。</li> <li>○「TRY!」というコーナーでは、国や地域の課題や問題点を話し合うための資料が提示されており、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた活動を促している。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○図版資料には、見開きごとに通し番号が付けられており、教師が示しやすく生徒も確認しやすいように工夫されている。</li> <li>○資料掲載部分に背景色を入れて本文部分との区別を明確にすることで、資料と本文の違いを視覚的に分かりやすくする工夫がなされている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グラフ・地図などの資料には、色覚特性をもつ生徒も識別しやすい色や模様が使用され、カラーユニバーサルデザインに配慮がなされている。</li> <li>○文字は、ユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を使用し、ふりがなには読み取りやすいゴシック体を用いている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「課題をつかむ」→「課題について調べる」→「課題についてまとめる・表現する」といった教科書の構成になっており、問題解決型の学習を進めることができる。教師も生徒も見通しをもって授業を進めることができる。</li> <li>○豊富な地域事例や日本の伝統・文化に関する資料が多く紹介されており、日本や自らの住んでいる地域への興味や関心を高めることができる。</li> </ul>

# 社会科（地図）調査資料

書名 項目	『新編 新しい社会 地図』 発行者番号 2 発行者名 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○地図帳の読み取り方や活用方法を説明するとともに、地図全般の読み取りや活用にも資するようにしている。また、国土地理院発行の地形図の読み取り方を解説し、練習問題に取り組むことで読み取りを実践できるようにしている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○資料活用コーナー「Bee's eye」では、地図の活用法や学習を深める「ヒントとなる問い」を提示している。1枚の図を見て取り組む問い、2枚以上の図を見て取り組む問い、図をもとに調べたり考えたりする問いなどを通じて、思考力、判断力、表現力を育成しやすくなっている。</p> <p>○日本で起こりやすい災害や過去の公害に関する資料を掲載し、災害にどのように備え、どのように向き合うべきかを考えることで、防災・安全の意識を高められるようにしている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○国際社会の結びつきや対立、環境問題、少子高齢化など、現代の社会情勢を意識した資料を積極的に掲載し、現代社会の諸課題の理解を促し、解決のために自分のできることを実践しようとする資質・能力を涵養しようとしている。</p> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <p>○紙面の二次元コードからアクセスできるQRコンテンツ「My Globe」は、一般図、衛星写真、地理院地図、夜景を、3D地球儀だけでなく平面地図としても見ることができる。拡大縮小、地球儀の回転、日本の大きさととの比較が可能である。</p>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <p>○関連する資料の参照ページを示す「ジャンプ」を設け、複数の資料を関連させて見ることを促す工夫がされており、学習の幅を広げたり、もっと知りたいと生徒が思えるようになっている。</p> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <p>○地理的分野をはじめ、歴史的分野や公民的分野の学習で活用できる主題図や資料を随所に掲載しており、3年間の社会科学習に活用できる。例えば、歴史に関連する場所を示す「歴史の舞台」が充実しており、歴史の授業において、地図上の空間の広がりを生かした展開をすることで、学習効果を高めることができる。</p> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <p>○一般図が大判化されており、1ページあたりの情報が充実している。</p> <p>○日本の一般図については、縮尺を100万分の1に統一し、標高と地形区分で彩色した地図を掲載することで、スケールを意識して、距離感や地形を的確に捉えることができるようにしている。</p>
表記・表現	<p>○グラフや地図などでは、色覚特性がある生徒にも見分けやすい色を使用している。また、文字に縁取りをしたり、グラフでは線種で見分けがつくようにしたりすることで、情報を読み取りやすくしている。</p>
総 括	<p>○国際社会の結びつきや対立、環境問題、少子高齢化など、現代の諸課題に関連する資料を積極的に掲載し、三分野の学習に活用できる主題図が多い。</p> <p>○世界の経済・国際関係や日本の人口、SDGsをテーマとした特集ページなど、現代的な諸課題に関連する資料を掲載し、様々な諸課題についての理解を促しながら、今と向き合い、現代的な諸課題の解決に取り組める地図帳になっている。</p>

# 社会科（地図）調査資料

書名 項目	<div style="text-align: center;">『中学校社会科地図』</div> <div style="text-align: right;">           発行者番号 46 発行者名 帝国         </div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○生徒が主体的に学習できるように、凡例、方位、地図記号、色、縮尺など、小学校で学習した地図の見方を振り返られるようにしている。地図の基本的な見方・使い方や、要素の重ね合わせなど、地図活用の基礎となる部分を、丁寧に説明している。高校での地理総合につながる基礎的な考え方も養える。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○学習活動を通して地理的な見方・考え方を働かせられ、地図活用の技能が身に付く問いのコーナー「地図で発見！」を全部で156問設けている。生徒が一人でも主体的に取り組めるような工夫があり、中には生徒同士の対話を意識した問いも入っている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○問いのコーナー「地図で発見！」では、生徒自らが世界の諸課題について考え、よりよい社会の在り方について検討したり、他の生徒と話し合ったりして、協働して取り組めるような課題や作業を提示している。</p> <p>○環境問題や脱炭素への動きなどの資料をはじめ、世界と日本の諸課題について深く考察できる主題図を多数掲載している。</p> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <p>○日本で起こりやすい自然災害と、その対策についてわかりやすく示している。</p> <p>○地震と火山の分布や、気象災害に関する地図や資料が充実しており、日本のどの地方の主題図においても、「防災」をテーマとする資料がある。</p>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <p>○地球温暖化や砂漠化、大気汚染など世界各地で起きている様々な問題を、地図と写真の双方から確認できる。また、それらの諸課題に対して解決を目指す人々の写真もあり、持続可能な社会への取組も一体的に確認でき、生徒の探究心をくすぐる仕掛けがある。</p> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <p>○地域の変化の様子を捉えられるように、昔と今の比較ができる資料を設けている。</p> <p>○地理的分野以外の学習でも活用できるように、公民的分野での活用に対応している主題図には「公」、歴史的分野での活用に対応している主題図のタイトル横には「歴」のアイコンを付けている。生徒が学習する際の、視点が捉えやすい。</p> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <p>○多彩な絵記号を配置することで、地域の様子や地域における人々の暮らし、地域で生産する農産物や工業製品などを端的に読み取れるように工夫しており、人々の営みを通じた日本の国土理解ができる。</p>
表記・表現	<p>○視認しやすいUDフォントの丸ゴシックを採用している。国名や都道府県名、主要都市名などの重要な地名には縁取りを付けて見やすくしている。また色使いは色覚特性のある生徒でも識別しやすいカラーユニバーサルデザインを採用している。</p>
総 括	<p>○空間認識をともなった幅広い知識や教養が身に付くように、自然、産業、歴史など、様々な情報を地図上に見やすく掲載する工夫が見られる。</p> <p>○地図から情報を読み取る力を身に付けられるように、地理的な見方・考え方を働かせられる問い「地図で発見！」を全部で156問設けている。生徒が主体的・対話的に学習に取り組める内容、表現となっている。</p>

# 数学科調査資料

書名 項目	<div style="text-align: center;"> <b>『新編 新しい数学』</b>        ~MATH CONNECT 数学のつながり~     </div> <div style="text-align: right;">       発行者番号 2        発行者名 <b>東書</b> </div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <p>○かならず解けるようになりたい問題には、♡の記号がついている。「例」と「問」がセットで細かく組み立てられていて、類題に多く取り組めるよう工夫されている。つまり、多岐の内容を同じページ内ですぐに確認できるよう「ちょっと確認」が用意されている。章末問題も「A」と「B」のように難易度別に問題が用意されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○ほかの人と考えを伝えあい考えていく「数学の学び方」が紹介されており、「深い学び」のページではその流れが横に示されている。それに沿って学びを進めていくことで、深い学びへとつながられるよう工夫されている。「数学の目でふり返ろう」のページで、これまでの学習内容とのつながりを確認できるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <p>○「Q 考えてみよう」では、解決の見通しが持てない生徒のために、①、②…のステップを用意し、生徒が自ら考え活動できるよう工夫されている。既習事項とつなぐ「同じように考えると」などの表記があり、問題を解くための流れが示されている。また、ノートの書き方の工夫やまとめ方として、「数学マイノート」が紹介されている。</p> <p><b>&lt;特記すべき教材や教科の特性&gt;</b></p> <p>○1年生の教科書では、「第0章」が用意されており、中学校数学へ取り組みやすいように工夫されている。章末問題「B」では、他教科やSDGsとの関連が示されており、教科横断的な学習の工夫がされている。数学と関連のある職業をピックアップし、数学の実社会での活用について紹介されている。</p>
資 料	<p><b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b></p> <p>○章の導入では、生徒が疑問を感じる日常の一場面を一コマで提示し、数学と結びついて考えていくように工夫されており、生徒の関心・意欲を高め、主体的な学びにつなげるようにされている。章のタイトルに、その章を通じて身につけてほしい資質・能力が示されていて、見通しを持って学習に取り組めるよう工夫がされている。</p> <p><b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b></p> <p>○かならず身につけたい問題が「クイックチェック」として各ページ下部に用意され、何ができるようになればいいかが示されている。数学と関連のある職業のインタビューがあり、「仕事のなかになどのように数学が使われているか」など、数学の学びが将来に生かせることを伝えている。</p> <p><b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b></p> <p>○あまりカラフルにしすぎないよう少ない色使いで、シンプルにレイアウトされている。各問のチェックマークで、「知識や技能」と「思考力や判断力、表現力」が分かるように工夫されている。また、図や表、グラフは色付けされ、直接書き込めるように工夫されている。</p>
表記・表現	<p>○新しい用語や記号は太字で示されている。公式や定義などはフォントが変えられている。登場人物がヒントや考え方を吹き出しで示している。SDGsと関連付けた問題が分かるようになっている。必ず身につけてほしい基本的な問題には「♡」マーク、補充の問題のなかでも少し難しい問題には「☆」マークで学習への配慮がされている。</p>
総 括	<p>○かならず身につける問題が明確に示され、基礎・基本の定着を大切にしていることが分かる。SDGsや他教科と関連した問題も多数用意されており、全国学力・学習状況調査で取り扱われるような活用問題も取り組めるよう工夫されている。問題の難易度をマークで示すことで、個に応じて難易度が調整されている。</p>

# 数学科調査資料

書名 項目	<div style="text-align: right;">           発行者番号 4            発行者名 大日本         </div> <div style="text-align: center; font-size: 1.2em;">『数学の世界』</div>
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</b>            ○「活動」→「例・例題」→「たしかめ」→「Q」→「プラス・ワン」と取り組むことで、基礎的・基本的な知識や技能が定着できるよう工夫されている。また、各節の「たしかめよう」、各章の「ふり返ろう」「力をのばそう」、巻末の「補充問題」「総合問題」により、習熟度別にも対応できる十分な問題がある。         </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>            ○巻頭の「ノートづくり」では、ノートづくりを通して数学的な思考や表現ができるよう、ノートの例とともにポイントが示されている。また、各章末の「活用・探究」の学習内容を活用したり、数学の世界をさらに探求したりする問題を通して、思考力を育むことができるようになっている。         </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>            ○数学の有用性に気づくよう、全章に「導入の活動」が設けられている。「学びにプラス」で学習をひろげたり、活用したりすることで、学びの関連性がわかるようになっている。また、「活用・探究」では、「日常生活をよりよく」や「数学で楽しむ」などで身近な場面での活用や探求をする課題が取り上げられている。         </p> <p> <b>&lt;特記すべき教材や教科の特性&gt;</b>            ○「データの活用」の領域では統計的探究プロセス「PPDACサイクル」に沿って学べるように工夫され、自ら調べたいことを見出して、計画を立て、適切なデータを集め分析し、結果をまとめるような課題を設定している。また、巻末には前年度の学習内容の振り返りや総合問題があり、学習の確認ができるよう工夫されている。         </p>
資 料	<p> <b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b>            ○「数学の世界」では身の回りにある数学に目を向け、「なぜ?」「知りたい!」という主体的な意欲を引き出し、次の学習に引き継がれる工夫がされている。「社会にリンク」や「MATHFUL」では仕事や生活の中に数学が活用されている場面を紹介し、学習意欲が高まるように工夫されており、キャリア教育にもつながる構成である。         </p> <p> <b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b>            ○「折込」や「切り取り」のページを用意し、巻末にまとめがあるなど、学習内容をすぐに振り返ることができたり、理解を深める工夫がされている。また、URL や QRコードで、図形などの変化の様子を調べられる動画コンテンツなどにアクセスして、授業や家庭学習に活かすことができる。         </p> <p> <b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b>            ○文字入りのマークを使用したり、例や例題にはタイトルをつけたりして、扱う学習内容がわかりやすいようにしている。本文は単語の途中での改行を避けたり、重要な事項は枠で囲み強調したりして読みやすい工夫がされている。また、表やグラフも直接書き込めるようになっており、学習しやすい工夫がされている。         </p>
表記・表現	<p>           ○各章の導入では、写真やイラストなどを使い、新しい学習への期待感を高める工夫がされている。「気づき」を促す言葉を、キャラクターの吹き出しで囲み、強調して示している。また、領域ごとにメインカラーを設定し、新しい学習に入る変化を視覚的に捉えさせ、意欲をもって学習に取り組める工夫がされている。         </p>
総 括	<p>           ○身近な課題に取り組み、既習事項を関連付け、数学的な見方・考え方を働かせ、「わかった!」「できた!」という理解や発見、数学的な対話を通して、豊かな数学の授業になることを目指している。より豊かな学習内容になるように登場人物や資料にも異文化理解の視点を取り入れたり、他教科との関連を示したりしている。         </p>

# 数学科調査資料

書名 項目	『中学校 数学』 発行者番号 1 1 発行者名 学図
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</b>            ○ノートを使い方を各学年の巻頭で紹介し、基礎・基本の定着を図ることのできるノートづくりを示している。また、「章のまとめの問題」では、基本、応用、活用の3つに分類されており、習熟度に応じた確認ができ、節末には基礎・基本が身につけているか確認できるように「確かめよう」が設けられている。         </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>            ○巻頭の「教科書を使った学び方」で数学的な見方について掲載し、物事を論理的に解決できるよう工夫されている。また、巻末にはレポート作成から発表までを意識したポイントや例を提示している。「まとめる」→「伝える」→「見直す」というように、学年の進行に合わせたレポートづくりの目標設定がされている。         </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>            ○様々な場面で他者の考えや意見を多様な考え方を示したり、対話の場を提示したりして、他者の考えに触れる機会が設けられている。また、「数学的活動のページ」では、話し合いをベースに、生徒が主体的に疑問の発見から新たな疑問を発見する過程を協働的に行えるように工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;特記すべき教材や教科の特性&gt;</b>            ○章末の「深めよう」では章の学習した内容を活かし、さらに深めたり広げたりすることができるような題材が掲載されている。巻末の「さらなる数学へ」では1年間で学習した内容を活かし、SDGsに関連した課題について自分たちに何ができるかを考察したり、興味深い課題を取り上げ解決したりすることができるよう工夫されている。         </p>
資 料	<p> <b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b>            ○学習を進めていく中で、生徒はいろいろな疑問を発見し、その疑問をもとに、学習を統合・発展させていく際の疑問について、「The Break」で解説し、興味・関心を喚起している。章末の「数学へのいざない」では、章の内容を深めたり広げたりする興味深い内容を取り上げ、数学の面白さや有用性を実感できるように工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b>            ○既習事項との差異や共通点を見出す「ふりかえり」や既習事項から予想し新しい学びへつなげる「深めよう」を設け、理解の定着を図りながら進めることができるよう工夫されている。また、QRコードを活用した解説や動画・アニメーション等のコンテンツが10種類用意されており、個別最適な学び、協働的な学びに対応している。         </p> <p> <b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b>            ○インクルーシブ教育に配慮し、すべての生徒が読みやすく理解しやすい教科書になるよう、本文などはUDフォントが使用され、文節での改行をすることで、文章を読む段階でつまづくことがないように配慮されている。また、色覚特性に配慮し、見やすく区別しやすい色、デザインが採用されている。         </p>
表記・表現	<p>           ○インデックスが色分けされていて、各章の色遣いに統一感がある。各章の数学的な活動を促す場面では、ページの右にどんな活動をしているのかという流れが示されていて、活動への意識が明確になる工夫がされている。中学生のキャラクターが対話している様子が登場し、考え方の視点や対話の方向性を示している。         </p>
総 括	<p>           ○数学と実生活、中学校と高校、1年生と2年生の「つながり」への工夫がされている。また、問題解決までの手立てや方針、視点が細かく記述されており、QRコードによる支援が充実し、さらにチャットボットによる生徒の自由な質問に対応できるため生徒が家庭学習でも使いやすい教科書となっている。         </p>

# 数学科調査資料

書名 項目	<div style="text-align: center;">『中学数学』</div> <div style="text-align: right;">           発行者番号 17 発行者名 教出         </div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○「例・例題」「たしかめ」「問」「基本の問題」と一定の流れに沿って学習することができるように工夫されている。生徒がやり方を確認してから「問」に挑戦できるように、「問」の前に「たしかめ」が設けられている。レベル別に問題に取り組めるように、「補充問題」「実力アップ問題」「総合問題」が設定されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○単元の利用の場面では、生活に関する問題が取り上げられており、学びのプロセスとして「問題を見いだす」「問題をつかむ」「見通しを立てる」「問題を解決する」「振り返る」「深める」と考えを深められるよう工夫されている。章末問題には、身のまわりの問題を、数学を活用して解決するための問題が設けられている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○単元の前には、「学習する前に」というページがあり、小学校の内容も含めて既習事項を確認してから、スムーズに新たな単元に入ることができるように工夫されている。短時間で確認できるように、単元の最後には「学習のまとめ」が設定されている。その際、間違えた問題には、遡って学習できるようにリンクページが示されている。</p> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <p>○すべての単元において「章のとびら」を設けており、実社会や日常生活、先端テクノロジーなど数学に関わる話題が掲載されている。「数学しごと人」のページでは、社会で活躍している人のインタビューを掲載し、数学の学びが実際に将来どのように活用されているのかを知ることができるよう工夫されている。</p>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <p>○問題は「Q」と提示され、作業・観察・実験・調査などの活動を通して、結果を予想したり、新たな法則を導き出したりする活動が設けられている。また、「数学広場」が所々に設けられ、他教科や高校数学の内容に触れることで、学びのつながりを実感できるよう工夫されている。</p> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <p>○巻末には、「補充問題」と「実力アップ問題」が多数掲載されており、レベル別に学習できるように工夫されている。3年生では、「総合問題」で複数の領域が融合された問題が記載され、高校入試対策として学習することができるように工夫されている。QRコードには図形やグラフなどの動画が関連づけられている。</p> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <p>○すべての時間に「めあて」が提示されており、問題は「Q」と提示され四角で囲まれ、解説との区別できるようにしている。配色を統一し、□や○などの形で区別することで、視覚で学習の差が生じないように配慮されている。単元ごとにメインカラーが青と緑で交互に配色され、単元の変わり目が明確にわかるように工夫されている。</p>
表記・表現	<p>○文字フォントは、ユニバーサルデザインフォントを多く使用し、視覚の個人差で学習の理解に支障がないように配慮されている。また、新出の数学用語や記号は太字で書かれており、読み方も記されている。図形の性質は、巻末にまとめられており、わかりやすく色分けされている。</p>
総 括	<p>○「章のとびら」では、数学への興味・関心を高めるように、実社会や日常生活から数学に関わる問題が設けられている。インタビューから数学の有用性や利便性を実感できるよう工夫されている。解法を一度確認してから問題に取り組めるように、「問」の前に「たしかめ」が設けられている。</p>

# 数学科調査資料

書名 項目	<div style="text-align: right;">           発行者番号 61            発行者名  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">啓林館</span> </div> <div style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">『未来へひろがる 数学』</div>
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</b>            ○「例・例題」→「問」→「練習問題」と段階的に学習を進められ、授業の展開と生徒の学習がスムーズに進むよう工夫されている。「章末問題」、「学びを身につけよう」、QRコードによる「補充問題」と多数の練習問題が設けられている。「数学広場」には入試問題に取り組むことができ、習熟度別の学習にも対応できるよう工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>            ○単元の利用の場面では、生活に関する問題が取り上げられ、段階を踏んで考えを深められるように問題解決の道筋が「ステップ①～③」と示されている。至るところに「説明しよう」「話し合おう」「まとめよう」という問題があり、複数の解法や誤答例を見ながら、自身の考えを深めることができるように工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>            ○巻頭に「話すとき」「聞くとき」の大切な視点が書かれ、ノートの取り方も丁寧に例が挙げられている。章の導入では、生徒の知的好奇心をかき立てるように日常の事象を中心に問題が作成されており、数学が生活や社会で有用に働いていることを実感しながら、生徒が興味・関心をもって学習に向かうことができるよう工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;特記すべき教材や教科の特性&gt;</b>            ○本編と数学広場の2部構成になっている。数学広場では、小学校の内容も含めて奇襲事項を確認できるページから、各単元の確認ができるページ、学んだことを日常生活へ繋げることができるページが設定され、多くのコンテンツが用意されている。授業だけでなく、生徒の家庭学習においても使いやすい工夫がされている。         </p>
資 料	<p> <b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b>            ○「学習のとびら」、「利用の節」、「数学ライブラリー」、「学びをいかそう」などで、学習内容に関連のある身のまわりの題材などを取り上げ、意欲的に学習を進めていくことができるようにされている。また、「学びをいかそう」では、各章と関連する深化・発展的な内容を取り上げ、課題学習に取り組むことができるように工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b>            ○各ページのQRコードには、問題を理解するために、動画やアニメーションが取り込まれている。演習問題のページのQRコードには、問題を解くときの大切なポイントや、詳しい解説をみることができ、授業の内容を生徒が家庭学習で復習できるように工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b>            ○ユニバーサルデザインの視点が多く取り入れられており、フォントや色使いが見やすく工夫されている。新しい用語や公式、解説などで囲みや色など区別されているので、直感的に何が書かれているのか分かるように工夫されている。また、図や表、グラフは色付けされており、直接書き込むことができるよう工夫されている。         </p>
表記・表現	<p>           ○各単元の「ひろげよう」「例」「問」「例題」などは、それぞれ色分けされており、マーク等で強調されていてわかりやすくなっている。また、新しい用語や記号などは太字で書かれ、読み方も記されている。考え方の補助となる言葉はキャラクターの吹き出しなどで記されている。         </p>
総 括	<p>           ○導入からの、例・例題→問→練習問題の流れが丁寧に組み立てられている。どこまでが例なのかなども丁寧に記載されているので、生徒が自身で学習する際にも見やすく、デジタルコンテンツが豊富であり、QRコードからタブレットの活用にも便利である。生徒が醜態的に学ぶための工夫がされている。         </p>

# 数学科調査資料

書名 項目	<div style="text-align: right;">           発行者番号 104 発行者名 <b>数研</b> </div> <div style="text-align: center; font-size: 1.2em;"> <b>『これからの 数学』</b> </div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <p>○各章のはじめに、その章に必要な学習内容の振り返りが設けられている。例題も生徒が読んで分かるように細かく書かれており、確認問題も多く設けられている。章末問題も「A」「B」と難易度別に設けられている。すべての例に音声付きの解説動画が用意されているので、繰り返し確認することができるなどの工夫がされている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○「TRY」問題や「説明しよう」問題など、学習した内容を深めたり活用したりする問題を取り入れられている。章末問題に「学んだことを活用しよう」の問題が設けられている。生徒たちの対話も多く取り入れられており、その内容が「一般化する」「同じように考える」「条件を変える」など数学的な見方・考え方が自然とできるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <p>○章の導入で身の回りの事象を中心に上げながら、会話を通して問題に自然と入れるように工夫されている。職業のインタビューが掲載されており、数学を学ぶことの意味が伝わるような内容で取り上げられている。巻末に「数学旅行」が掲載されており、身の回りの数学がどのようなことに生かされているか紹介されている。</p> <p><b>&lt;特記すべき教材や教科の特性&gt;</b></p> <p>○巻頭で「学習の進め方」があり、話し合い活動の基本がそこで示されている。巻末で紹介されている「数学旅行」でSDGsとの関りも示されている。最後のページには「学びの自己評価」があり、数学を通して身につけたい力が「自分で学ぶ力」「学び合いの力」の2つの視点で示されている。</p>
資 料	<p><b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b></p> <p>○各章のはじめに既習事項の振り返りが設定されていて、学びに導入しやすい工夫がされている。章の導入の内容も、新しい内容の必要性を感じることができるよう展開され、主体的な学びに誘導するように工夫されている。また、中学1年生の教科書は、中1ギャップ解消のため、問などの語尾を小学校の書き方に統一している。</p> <p><b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b></p> <p>○動画やアニメーションによって教科書の内容を分かりやすく見ることができたり、グラフや図形を自由にかいたり動かしたりすることなどもできるデジタルコンテンツが設けられている。問の補充もあり、「既習事項の振り返り」、「反復問題」、「発展問題」と充実した内容で、家庭学習などにも活用できるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b></p> <p>○生徒にとって見やすいように、ゆとりあるレイアウトで作られている。生徒たちの会話から問題へと導入していく流れと工夫されている。教科書独自の表記などは少なく、その点でも見やすいように工夫されている。また見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントが使われている。</p>
表記・表現	<p>○生徒や先生の会話から問題へ導入していったり、学習内容を深めたりしており、授業の見通しが持ちやすいよう工夫されている。また、対話的な活動を誘うような問題を設定したり、対話的活動を中心に考えたり、生徒が親しみやすい工夫がされている。キャラクターが吹き出しでヒントや考え方を示している。教科書独自の表記も少ない。</p>
総 括	<p>○対話的活動を要とした構成となっており、数学的な見方・考え方が身に付くよう工夫されている。練習問題も「確認問題」、章末の「問題A」、「問題B」、「活用問題」と段階的に設けられている。デジタルコンテンツが充実しており、生徒が自主的に学習できるように工夫されている。</p>

# 数学科調査資料

書名 項目	<div style="text-align: center;">『中学数学』</div> <div style="text-align: right;">           発行者番号 116 発行者名 日文         </div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○「例・例題」→「問」→「練習問題」と一定の流れに沿って学習することができるように工夫されている。巻末には基礎・基本を定着させるための「補充問題」があり、1年生では「算数の確かめ」で小学校の内容を復習したり、3年生では「総合問題」で3年間の復習をしたりできるように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○単元の利用の場面では、活用問題が取り上げられており、身近なことがらが数学の問題として示されている。問題解決の道筋を「見通しをもとう」→「考えよう」→「話し合おう」→「ふり返ろう」→「深めよう」と示されており、段階を踏んで考えを深められるように工夫されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○単元の前には、「次の章を学ぶ前に」があり、既習事項を確認した上で、新たな単元に取り組むことができるよう工夫されている。また、「学びに向かう力を育てよう」では、身のまわりの問題や発展的な問題を取り上げ、巻末には、その問題にリンクした「ふり返りシート」が用意されている。</p> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <p>○基礎・基本を定着させる問題、単元の復習をする問題、全国学力・学習状況調査を参考して作成された問題、複数の領域を融合させた問題など、目的に応じた問題が記載され、個別最適な学びを実現できるように工夫されている。問題や図形、関数の特徴を把握するためのQRコードが設けられている。</p>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <p>○日常生活や社会の事象から生まれた疑問などを解決するために、数学の問題として取り上げ、学んだことを応用させながら解決していく活動が設けられている。学んだことを他の場面で活用したり、新たな課題を見つけたりできるような表現などを工夫されている。</p> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <p>○「学び合おう」には切り離して活用できる「対話シート」が用意されており、自分の考えを整理したり、お互いの考えを共有したりするために使用することができ、思考力や表現力を高める工夫がされている。授業後は学習の記録として、そのままB5ノートに貼ることのできるサイズになっている。</p> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <p>○すべての時間に「めあて」が提示されており、1時間の流れがわかりやすいレイアウトになっている。教師も生徒も、問題がどの観点につながっているのかわかるように、「問」には「考えよう」「深めよう」「話し合おう」「説明できるかな？」など、観点が示されている。</p>
表記・表現	<p>○文字フォントは、ユニバーサルデザインフォントを使用し、視覚の個人差で学習の理解に支障がないように配慮されている。また、新出の数学用語や記号は太字で書かれており、読み方も記されている。全体的にスペースが広く、余分な情報がないため、注意が散漫になることなく学習できるように工夫されている。</p>
総 括	<p>○「めあて」や「問題」が示され、1時間の授業の流れがわかりやすいレイアウトの工夫がされている。活用問題には解決の流れが示され、「対話シート」や「ふり返りシート」を活用しながら、自分の考えを整理できるように工夫されている。問題ごとに、視点や観点が示されている。</p>

# 理科調査資料

書名 項目	『 新編 新しい科学 』 発行者番号 2 発行者名 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○実験・観察のステップが段階的で明確であり、「基礎操作」を観察・実験前に設け、基礎的な技能を習得できるようになっている。既習事項を示し、「学習と整理」で重要語句の確認を、「確かめと応用」では反復練習をできるようになっており、節内の「解説付き例題・演習」→章末「学んだことをチェックしよう」→単元末「確かめの問題」→単元末「活用問題」の流れで取り組むことで、学力の定着、向上を図ることができる。また、各問題には、QR コンテンツがついており、つまずきを確認することができる機能がある。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○探究の進め方、流れがわかりやすく、課題解決のステップが明確で、取り組みやすい内容となっている。一部には、漫画が採用されている箇所があり、思考の流れを文字とイラストで表現している。探究のステップでは、アイコンを使い、学びの過程が明確化されている。また、「ふり回り」「判断」のアイコンがあり、科学的に判断する場面が設定されており、分析・解釈する力、検討・改善する力・活用する力などの育成を図ることができる。対話的な学びが想定される場面では、対話例が示されており、生徒の思考を深めさせるきっかけを与えている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○身の回りの現象を取り上げ、学びを実生活に結びつける力が育成できる工夫が見られる。単元、各章のはじめとおわりに「Before&amp;After」の問いがあり、学習を通して自己の変容を確認することができる。</p> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <p>○節の始めに「レッツスタート！」と題し、科学の有用性を理解できる場面がある。アイコンがわかりやすく、教科書通りに進めていくことで、主体的・対話的で深い学びを実現することができ、学習活動が明確になっている。「例題」「練習」「学習内容の整理」「確かめ問題」「活用問題」、また資料など豊富な QR コンテンツが取り入れられている。</p>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <p>○漫画が一部採用されており、理科に取り組みやすくなっている工夫があり、コラムの内容が充実している。</p> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <p>○一見して学習内容のまとまりがわかり、生徒が授業の見通しが立てやすくなるよう、1見開き1時間として構成している。QR コンテンツが豊富に準備されている。動画に加えてシミュレーションや練習問題、資料等多岐にわたるコンテンツが収録されている。小中のつながりや他教科とのつながりが扱われ、学年や教科の枠を超えた学習を進められる。</p> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <p>○AB 判の採用で、写真やイラストが大きくなっている。1ページの中で、下へ向かっていく流れなので、生徒にとって、確認しやすく、わかりやすいレイアウトになっている。アイコンの活用が効果的である。</p>
表記・表現	<p>○本文など主要な部分はUDフォントを使用し、ルビがふられ特別支援教育に対する配慮がされている。また、第1学年の各節分の文字数を第2、3学年より少なくし発達段階に配慮している。</p> <p>○色覚に関する個人差を配慮し、色だけで情報を区別しないようにするなど、できるだけ多くの生徒にとって使いやすくなるよう配慮している。</p> <p>○写真や図のバランスが良く見やすい。探究の流れを統一し課題学習の形になっている。</p>
総 括	<p>○単元の流れが、生徒の経験から思考へつながる課題設定になっている。学びの過程が確認できるアシストがページ下に印刷されている。</p> <p>○文字数と図、写真のバランスが良く使いやすい。内容も踏み込んだところまで押さえてあり、学習を進める上で取り組みやすい。</p> <p>○デジタルコンテンツが充実していて、活用するタイミングや学習の場面が QR コードで示されているため、活用しやすい。</p>

# 理科調査資料

書名 項目	『 理科の世界 』 発行者番号 4 発行者名 大日本
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○単元末のまとめ、問題で学習内容の振り返り、知識・技能の定着を確認できるようになっている。例題、章末問題は、個別の状況に合わせた学習が進められる構成となっている。また、途中に探究活動も含まれていることで、既習事項と関連付けて覚えやすいように工夫されている。3年生の教科書の巻末では1～3年生の基礎内容を確認できる「学習のまとめ」が掲載され、高校入試への対応を意識できるようになっている。「基礎操作」が巻末にまとめられており、復習しやすい構成になっている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○問題を見つける際に、吹き出しがヒントになっており、思考の手助けになっている。身近な題材を用いて、課題を探していく流れとなっている。探究活動というコーナーがあり、思考力・判断力・表現力が高められる内容となっている。観察・実験では、「結果の整理」「結果から考えよう」を設け、結果・考察のポイントを明示することで、考察する手立てを与えている。単元末の「読解力問題」では、学んだことを活用する内容が出題され、思考力・判断力・表現力を育成する場面を創出している。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○課題解決型の学習で統一されている。「やってみよう」という項目では、内容を行うことで主体的に学習に取り組む態度を育成することができる。「くらしの中の理科」では、内容に関連した身近な題材が取り上げられている。</p> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <p>○1時間ごとに課題が明記されているので、何を学ぶのが明確になっている。「やってみよう」を行うことで、理解が深まり、実験が数多く紹介されている。精選された実験が掲載され、押さえるべき実験や内容が明確になっている。</p>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <p>○巻頭ページでは、内容に関連する職業の紹介を掲載し、導入ページでは身近な事例が多く取り上げられていて、学習意欲の啓発、興味・関心を高められる工夫が見られる。内容に関連したコラムが豊富であり、学習意欲を高める資料が多い。図やイラストも解説やポイントが書かれており、またそれに対する吹き出しの補足説明があり、丁寧なツールとなっている。</p> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <p>○巻頭の「理科の学習の進め方」では、学習の流れを掲載し、生徒が見通しをもって学習できるようにしてある。「やってみよう」では、導入やまとめの内容と関連した実験が豊富に掲載されている。うまく活用することで生徒の興味・関心を引き出すことができる。技能を中心に精選されたデジタルコンテンツが導入されている。</p> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <p>○写真が豊富にあり、資料集としても活用できる量となっている。また、イラストも充実しており、見やすいレイアウトになっている。特に、章の始めにたくさんの写真があり、これから学習する内容が一目瞭然となっている。シンプルにまとめてあり、学習内容が把握しやすいレイアウトになっている。</p>
表記・表現	<p>○全体的にUDフォントを使用、ルビもふられている。レイアウトや改行の位置を工夫し特別支援教育、ユニバーサルデザインに配慮している。また、1年生の本文や資料は2、3年生よりも大きな文字を使用し、小学校とのギャップを少なくし、発達の段階を考慮している。</p>
総 括	<p>○文字・写真・図のバランスが良く使いやすくなっている。興味深い資料が章の冒頭にまとめられており見やすい。</p> <p>○問題発見から、主題設定・実験観察という一連の流れが明記され、理科の学習がしやすい構成となっている。</p> <p>○生徒が活用しやすいように、吹き出しをつかい、生徒の思考へのヒントが多く掲載されいて、まとめが見やすくなっている。</p>

# 理科調査資料

書名 項目	<div style="text-align: center;">『 中学校 科学 』</div> <div style="text-align: right;">           発行者番号 1 1 発行者名 学図         </div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○「基礎基本」を観察・実験前に設けることで基礎的な技能を習得させるようになっている。実験の操作の解説では、手順が丁寧で、写真や図を活用しわかりやすい流れになっている。「Can-Do-List」を掲載し、学習の過程でどのような知識・技能を身に付けるかが明確になっており、学習者が目的を持って取り組むことができる。重要語句について簡潔にまとめられている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○毎ページに「この時間の課題」が明記されており、本時の課題を捉えやすい。また、ページに吹き出しが多数あり思考のヒントとなっている。観察・実験では、考察の視点や問題解決のポイントが示されている。「探究を深める」というトピックでは、思考力を高められる内容が記述されている。巻末の「思考をさらに深める」では、高校入試等の過去問を取り上げており、教科書の中で問題の解説を掲載している。また、立体的な図で把握しにくい問題や生徒がつまずきやすい問題を紹介し補充している。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○単元を貫く課題が、章の始めに示されており、学習の前後で同じ課題に対する答えを書くことで、自己の変容を見取ることができる。「探究のコーナー」では探究の流れが示されておりそれに沿って行うことで、生徒が主体的に学習に取り組めるように工夫している。</p> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <p>○各探究の過程に吹き出しが掲載されており、学習者がどのような理科学的な見方・考え方をすれば良いのかという視点を示している。「Can-Do-List」の掲載により、学習者が主体的に学べるようになっている。</p>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <p>○「理路騒然」というコーナーでは、発展的な内容が示されており、興味関心が高い生徒に対し、さらなる学習内容を提示する内容になっている。チャットポット（QRコード）を活用すると、学習内容の様々な疑問や質問に対してスピーディに解答を得ることができる。</p> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <p>○全紙面のWeb化により個に応じた学びを実現する工夫をしている。総ルビ、文節改行、母国語が日本語以外の生徒に向けた教科書の文面の多言語化が可能となっている。毎ページに「この時間の課題」「まとめ」「見方」「考え方」が示されており、生徒にとって、学習する上で必要な要素が盛り込まれており、学習しやすい構成になっている。QRコードで、デジタルコンテンツ教材を活用できるよう、資料が充実している。</p> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <p>○多数の吹き出しや、探究の過程の色使いが丁寧で、見やすくわかりやすいレイアウトになっている。また、観察・実験では、写真を多く取り入れ、見やすくなっている。</p>
表記・表現	<p>○グラフは見やすく、色も多く使用されている。文字には、多数のルビがふられており、誰でも学習しやすいようになっている。</p> <p>○実験のポイントが書かれており、実験を行う際のポイントが写真の中で示されていて、確認しやすい。</p>
総 括	<p>○文字数が全体的に多く、丁寧に配慮の行き届いたものである。多言語対応となっている。</p> <p>○「課題」、「まとめ」、「見方・考え方」の文字は小さく、本文に影響を与えないレイアウトとなっている。</p> <p>○構成やレイアウトが、問題解決学習の流れになっているため、生徒は学習しやすくなっている。補充資料が巻末にまとまっており活用しやすい。</p>

# 理科調査資料

書名 項目	<div style="text-align: center;">『 自然の探究 中学理科 』</div> <div style="text-align: right;">           発行者番号 17 発行者名 <b>教出</b> </div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○5段階のステップで、課題を科学的に解決していくときの知識・技能が定着しやすいように、繰り返し学習で知識・技能を身に付けられる構成になっている。節末や章末には「要点チェック」があり、節や章の要点が端的にまとめられている。単元末の「要点と重要語句の整理」では、重要語句を示し、「基本問題」で繰り返し復習できるようになっている。また、「基礎技能」を観察・実験前に設け、基礎的な技能を習得させられるようになっている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○探究の進め方を基に構成されており、「疑問」「課題」「仮説」「計画」「観察・実験」「考察」「結論」の流れで構成されており、活動内容が明確化されている。また、折り込みの「探究の進め方」を毎時間参照することで、見通しをもちながら進められる。主体的・対話的に課題を発見し、課題に対して計画を立て、観察・実験を行うことで考察しやすくなり、思考力を高められるように構成されている。考察の視点を示し、結論が明確に示されている。また、巻頭の「探究の進め方」や「わたしのレポート」で、実験・観察の結果や考察のまとめ方やレポートの書き方を示している。「活用しよう」という項目では、これまでの学習の総括を行える活動が設定されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○各章において「学習前の私」と「学習後の私」という同じ問いを生徒に考えさせ、自己の変容を見取ることができる。話し合い活動の場面が設定されており、協働的な学びを行えるようになっている。話し合いの視点も与えられ活用しやすくなっている。</p> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <p>○デジタルコンテンツが増加した。「まなびリンク」というQRコードから読みとる動画を活用できるようになった。探究の進め方に沿って行うことで、理科の探究の過程を進めることができる。</p>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <p>○「ハローサイエンス」で内容に関連した発展的な内容、興味関心を高めるような内容が明記されている。「発展」という項目では、高等学校の内容に関連している事を示している。</p> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <p>○カリキュラムマネジメントとして、理科で使う算数・数学など、マークをつかい示すことで、他教科と連携して学習できるようにしている。教科書の内容と関連のあるコンテンツ（図鑑や学習ツール、動画等）を集めたウェブサイトが、QRコードやアドレスから活用できる。「要点の整理」で内容の確認、「基本問題」や「活用問題」「総合問題」を用いて、学力の定着を図っていくことが可能となるように、章ごとの振り返りを重視した構成となっている。</p> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <p>○AB変型判により、見やすい紙面で写真や図版を大きく掲載し、レイアウトにゆとりを持たせることで、生徒の興味を高める工夫をしている。写真や図、本文のバランスが良く見やすい配置となっている。探究の流れの区切りがよく、活動が進めやすい。</p>
表記・表現	<p>○多くの人が識別しやすい色使い、UDフォントを使用している。</p> <p>○本文の文字にルビがふってあり、文字のサイズが大きく見やすい印象である。本文の重要語句の色が変えられているので、確認しやすくなっている。</p>
総 括	<p>○基本的な内容が丁寧に押さえられている。文字のサイズも大きく、色使いも良い。ユニバーサルデザインに配慮した内容である。</p> <p>○5段階の学びのステップ、学びの過程から探究活動への流れ、対話的学びの場面設定が丁寧に掲載されている。</p> <p>○QRコンテンツの充実と、要点・用語の習得への工夫が見られる。</p>

# 理科調査資料

書名 項目	『 未来へひろがるサイエンス 』 発行者番号 6 1 発行者名 啓林館
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○各章末の「Review ふり返ろう」ではその章で学習した基礎的・基本的な問題が掲載されており、知識や技能が定着しやすい構成となっている。QR コードから繰り返し学習ができるようになっており、単元末の「学習のまとめ」では、単元全体の基本事項の確認や整理がしやすいようになっている。計算問題においても例題→練習があり、QR コードで解説動画が付属している。基礎技能の目次がわかりやすく表示されていることで繰り返しスムーズな確認が可能となる。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○「探 Q 実験」を行う際に「探 Q シート」を活用することで、主体的・対話的で深い学びを実現させることができる。特に「ここをしっかりと」という部分に視点を当て「探 Q シート」を完成させることで効果的になる。その他の実験においても問題解決の流れが明記されているので取り組みやすい。「探 Q 実験」と単元末に設定された「みんなで探 Q クラブ」で重点的に探究の学習過程に取り組むことで、科学的に探究する力を育てる場面が設定されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○単元の始めに「学ぶ前にトライ！」と、終わりに「学んだ後にリトライ！」があり、自己の変容を見取ることができる。「みんなで探 Q クラブ」があり、これまで学んだことから生じた疑問に対して、さらに課題や仮説を発展させ、探究的な学習を行える場面が設けられている。</p> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <p>○QR コンテンツが豊富で、ICT 活用を通して、理解を深めることができる。R7 の全国学調を意識した動画による学びがあり、これからの時代に求められる資質・能力の育成につながる。見方・考え方をはたらかせて課題解決のためのコーナーAction が掲載されている。</p>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <p>○A B 判を生かした、ダイナミックな紙面で写真や図を活用し、学習意欲を喚起する工夫がされている。QR コードが豊富で学びを支援する環境となっている。観察・実験・実習におけるデジタル教材は、普段授業で扱えない内容も存在するため、動画視聴による学習は、単なる説明より効果的で、学習意欲の向上につながる。</p> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <p>○QR コードを掲載し「協働的な学び」をサポートするデジタルコンテンツや資料を取り上げている。タブレット端末内で、コンテンツを動かせ編集できるようになっていて、効果的に学習を進めることができる。小学校理科とのつながり、高校理科への接続等、系統的な学びや、学びの接続を大切に学習内容の表示（コラム等）が取り入れられている。写真が大きく見やすく、学習の興味関心を高める工夫がなされている。学力向上のために、基礎から応用までの問題やその解説動画があり、理解を促すことができる。</p> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <p>○UDフォントになっていて読みやすい。写真や図が大きくて見やすい。</p>
表記・表現	<p>○基本的なフォントにUDフォントを採用し、色覚の個人差を問わず、内容が判別しやすい配色・デザインを用いている。</p> <p>○目次・重要語句の記載については、本文の中でも非常に目立つフォントを使用しており、非常にわかりやすい。</p> <p>○写真やイラストの生徒は、男女の服装や役割は固定せずに、互いに協力しながら活動しているようにするなど、性別や人種、身体的特徴に配慮されている。</p>
総 括	<p>○QR コードが多くあり、動画を含めデジタルコンテンツ、シミュレーション、資料が充実していて、多くの情報を活用可能となっている。</p> <p>○「探 Q シート」を使い、探究実験など学習した理科の学びを、総まとめする事が可能となっている。</p> <p>○教科書の使い方、学び方の流れが巻頭に示されている。</p>

# 音楽科（一般）調査資料

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: right;">発行者番号 17 発行者名 教出</p> <p style="text-align: center;">中学音楽 『 音楽のおくりもの 』</p>
<p>内 容</p>	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「指揮をしてみよう」学年の発達段階と題材の音楽的特徴に合わせた指揮を身につけられる工夫がされている。</li> <li>○「Sing! Sing!」で表現の基礎技能を習得するためのストレッチがわかりやすくまとめられている。</li> <li>○「楽典」として取り扱っている用語や記号などを各巻末にまとめている。</li> </ul> <p>〈思考・判断・表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「Active!」として「ドレミの歌・エーデルワイス」の2曲が、音楽的特徴を比較することで学習をさらに深める工夫がされている。その他の題材でも、発展的な学習とワークシートの提示を行い、思考力等の涵養への工夫が感じられる。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ポピュラー音楽図鑑」今のポップスにつながる各ジャンルをわかりやすく解説している。</li> <li>○資料でSDGsに関連した音楽文化を紹介し、音楽活動の継続性を提示している。</li> </ul> <p>〈音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各巻後部「歌のアルバム」では、表現方法のポイントが右トビラに明記されており、発達段階に応じた表現の能力を身につけられる工夫がされている。</li> <li>○「音のスケッチ」では、ことばの抑揚、リズム創作、ことばとリズムの関連と段階に応じた創作の題材が提示され学習を組み立てやすい配慮がされている。</li> </ul> <p>〈生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料で著作権、劇場紹介を行い、社会とのつながりについて言及している。</li> <li>○「日本と西洋…」互いを時系列で比較し、興味をそそる工夫がされている。</li> <li>○器楽「調べてみよう」でリコーダー、篠笛、尺八という管楽器（吹く楽器の仲間たち）、ギター、箏、三味線（弾く楽器の仲間たち）のフォームや楽曲を比較鑑賞することでそれぞれの楽器の持つ特徴や良さを感じ取れるよう配慮している。</li> </ul>
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各題材「まなびリンク」QRコードで見る・聴く・記録するの3つに分けて音源やワークシートを提示してあり、指導者の学習準備をサポートしてくれている。</li> <li>○各題材右トビラ下に音符や記号の索引を各巻P88「楽典」とリンクして掲載してある。</li> <li>○QRコードを読み取ることによって、模範演奏を聴き、視聴できるなど、資料にふれられるよう工夫されている。</li> </ul>
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○丁寧な解説調の文章で統一されており、理解しやすいよう工夫している。</li> <li>○指示がわかりやすく簡潔で、練習の仕方について誤解せずに活動に取り組める配慮が感じられる。</li> <li>○巻末の「いろいろな用語、記号」で音符・休符・記号の解説が示されており学習ができるよう工夫されている。</li> </ul>
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学期の表現方法について、それぞれの特徴を、共通点や創意点を思考できるように工夫されている。</li> <li>○各巻頭「学習MAP」では各領域のカラーを各題材のページと同一にし、何を学んでいるのか一見でわかる配慮がされている。</li> </ul>

# 音楽科（一般）調査資料

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: right;">発行者番号 27 発行者名 教芸</p> <p style="text-align: center;">『中学生の音楽』</p>
<p>内 容</p>	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「指揮をしてみよう」で鑑賞から指揮の仕方が練習できるよう工夫しており、配慮されている。</li> <li>○「My Voice」では、発達段階に応じた呼吸法や体の使い方などを詳しく解説し、歌唱表現の技能が段階的に身につくよう工夫してある。</li> <li>○日本の民謡、長唄の発声を絵や抑揚を図示してわかるよう配慮してある。</li> </ul> <p>〈思考・判断・表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各巻「学びのコンパス」で各題材の鑑賞から、知覚と感受を分けて考え、見方・考え方を整理して学習できるワークシートを提示しており、学習の組み立てがしやすい工夫がされている。</li> <li>○各巻資料「音楽を形作っている要素」で諸要素を一括し、題材との関わりを示すことで、学習内容を音楽的な特徴から整理できるよう配慮してある。</li> </ul> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫を〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「My Melody」で旋律を作る活動をQRコードから実際に使えるアプリをタブレットで操作できるため、創作のハードルを下げて楽しめる工夫がされている。</li> </ul> <p>〈音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「My Melody」で創作したテーマを「Let's Create」で作品としてタブレットを使用して創作できるため、達成感のある創作活動を体験できる。</li> </ul> <p>〈生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○今、必要とされる音楽メディアの変化や著作権などを示しており、音楽文化の伝承、発想創造を支えることを理解するための工夫がされている。</li> <li>○各巻特集で著作権について丁寧に解説し、知的財産権の意識を高める配慮が感じられる。併せて生活や仕事との関連も紹介し、広い視野から関心を促している。</li> </ul>
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○QRコードによる音源や創作例、ワークシート等のコンテンツ提示が豊富で、指導者の学習準備がかなり軽減され、より深い教材研究が実現できると感じた。</li> <li>○各巻P2～諸音楽ジャンルの著名人からのメッセージを直接視聴できるQRコードを掲載してある。</li> <li>○各巻P4～「音楽って何だろう」で様々な業種の方からの音楽の価値についてまとめてあり、学びに向かう姿勢が自然と形づくられている。</li> <li>○各題材のイラストが柔らかいタッチと色調で統一されており、リラックスして知識を学べる工夫が感じられる。</li> <li>○各楽器のフォームや奏法の写真が数も増え、わかりやすく工夫されている。</li> </ul>
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習者の意欲を喚起するような優しい呼びかけ口調の文章で統一されており、解説を読むと不思議と落ち着く。</li> <li>○文章が短く簡潔でわかりやすい。</li> <li>○各教材のページの見出しが、表現、創作、鑑賞ごとに色分けされている。</li> </ul>
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表現・鑑賞・創作の各領域が発達段階に応じて載せられており、無理なく学習が進められる。また、QRコードによる音源やコメント、ワークシートの掲載も豊富で工夫されている</li> <li>○採択している題材が、現在の中学生に適したものを厳選していると感じられる。</li> <li>○世界の音楽、日本音楽を比較できるような教材配置で、広い視野から音楽を捉える配慮が感じられる。</li> </ul>

# 音楽科（器楽合奏）調査資料

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: right;">発行者番号 17 発行者名 教出</p> <p style="text-align: center;">中学器楽『 音楽のおくりもの 』</p>
<p>内 容</p>	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <p>○楽器の構え方については複数の角度から掲載されており、奏法などが分かりやすく説明されている。</p> <p>〈思考・判断・表現力等を育成するための工夫〉</p> <p>○器楽「調べてみよう」でリコーダー、篠笛、尺八という管楽器（吹く楽器の仲間たち）、ギター、箏、三味線（弾く楽器の仲間たち）のフォームや楽曲を比較鑑賞することでそれぞれの楽器の持つ特徴や良さを感じ取れるよう配慮している。</p> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <p>○「合わせて演奏しよう」ではアンサンブル教材をLet' s play、Let' s try の2つに分け、段階に応じた活動がしやすいよう配慮されている。さらに合奏の難易度を示し、生徒の主体的・協働的な学習になるよう工夫されている。</p> <p>〈音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫〉</p> <p>○「深めてみよう」の順序立てた、段階的な構成になっており、創作と関連付けてが進められる工夫がされている。</p> <p>○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらも学習できるように楽譜があり、段階的に平易な練習曲からはじめられるように工夫されている。また、運指の確認ができるようなページの工夫がされている。</p> <p>〈生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫〉</p> <p>○「ポピュラー音楽図鑑」今のポップスにつながる各ジャンルをわかりやすく解説している。</p> <p>○人とつながる取組を紹介し、社会の中の音や音楽との関わりに考えが及ぶような工夫がされている。</p>
<p>資 料</p>	<p>○各題材「まなびリンク」QRコードで見る・聴く・記録するなど、音源やワークシートを提示してあり、指導者の学習準備をサポートしている。</p> <p>○各題材右トビラ下に音符や記号の索引を各巻P88「楽典」とリンクして掲載してある。</p> <p>○器楽の学習をサポートする資料は掲載されている。（ギター、キーボード表）</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○和楽器の教材は、五線譜と奏法譜が示されている。</p> <p>○丁寧な解説調の文章で統一されており、理解しやすいよう工夫している。</p> <p>○指示がわかりやすく簡潔で、練習の仕方について誤解せずに活動に取り組める配慮が感じられる</p> <p>○楽器の学習への資料がサポートとして掲載されている。（ギター、キーボード表）</p>
<p>総 括</p>	<p>○楽器をカテゴリーごとに説明してあるので、楽器の表現方法や、特徴を踏まえて共通点を考えたり、相違点を考えたりできるような工夫がされている。</p> <p>○器楽教材は、歌唱、創作、鑑賞の各活動と関連させながら、生徒や学校の実態を踏まえて取り扱うことができる工夫がされている。</p>

# 音楽科（器楽合奏）調査資料

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: right;">発行者番号 27 発行者名 教芸</p> <p style="text-align: center;">『中学生の器楽』</p>
<p>内 容</p>	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 知識及び技能…)</p> <p>○楽器の奏法などが分かりやすく説明され、楽器の構え方等については、複数の角度から掲載させている。</p> <p>〈思考・判断・表現力等を育成するための工夫〉</p> <p>○「学びのコンパス」で活動を助けるアドバイスが明記されており、学習を組み立てやすくなっている。さらに、実際に演奏して確かめることができるようになっている。</p> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫を〉</p> <p>○「アンサンブルセミナー」として題材と「学びのコンパス」を関連づけて学習できるような配置がされている。</p> <p>○学習内容が器楽の学習を大きくとらえることで学習意欲を高めるよう配慮されている。</p> <p>〈音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫〉</p> <p>○「さくらさくら」で表現と創作を関連づけて学習できる教材が配置され、より深い学習を展開しやすいよう配慮されている。</p> <p>○リコーダーの楽譜では、平易な練習曲から練習できるように工夫されている。</p> <p>〈生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫〉</p> <p>○巻頭で著名な奏者や学者、既成の枠を超えた表現者を紹介し、学習の継続性をうながしている。</p>
<p>資 料</p>	<p>○QRコードによる音源や創作例、ワークシート等のコンテンツ提示が豊富で、指導者の学習準備がかなり軽減され、より深い教材研究が実現できると感じた。</p> <p>○「学びのコンパス」が多くの題材に配されており、題材の活動をきちんとまとめる配慮が感じられる。</p> <p>○リコーダーの様々なアーティキュレーションをわかりやすく紹介している。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○学習者の意欲を喚起するような優しい呼びかけ口調の文章で統一されており、解説を読むと不思議と落ち着く。</p> <p>○文章が短く簡潔でわかりやすい。</p> <p>○和楽器の教材では、和楽器特有の奏法譜が示されており、五線譜と照らし合わせてみることができる。</p> <p>○巻末の「音楽の約束」で音符・休符等の解説があり、掲載させている曲にその記号が学習できるよう工夫されている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○表現・鑑賞・創作の各領域が発達段階に応じて載せられており、無理なく学習が進められる。また、QRコードによる音源やコメント、ワークシートの掲載も豊富で工夫されている。</p> <p>○採択している題材が、現在の中学生に適したものを厳選していると感じられる。</p> <p>○世界の音楽、日本音楽を比較できるような教材配置で、広い視野から音楽を捉える配慮が感じられる。</p>

# 美術科調査資料

書名 項目	<p style="text-align: center;">『 美術 1 』</p> <p style="text-align: center;">『 美術 2・3 』</p> <p style="text-align: right;">発行者番号 9 発行者名 開隆堂</p>
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身につけられる資質・能力の「小見出し」や「作者のことば」によって、造形的な視点を捉えられる工夫がされている。</li> <li>○各題材に関連した巻末の「学びの資料」によって、さらに深く知識・技能を理解できるように工夫している。関連ページが題材ごとに整理され、わかりやすい。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○制作過程を段階的に示しており、「発想・構想」や「鑑賞」はマークで明示されている。</li> <li>○生徒の活動風景や考えるポイントが示され、どのように主題を生み出して構想を練っていけばよいか理解し、興味をもって学ぶことができるように工夫している。</li> <li>○写真を大きく使った広がりのある紙面構成となっており、生徒の豊かな発想を手助けする工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○美術1の巻頭には図画工作と美術との学習のつながりが視覚的に捉えられており、美術2・3の巻頭では美術を学ぶ意味が生徒にとって身近な漫画と関連させて提示されている。また、巻末には各学年と中学校美術科の学習が振り返ることができるようになっていると共に、美術と社会との繋がりを明確にしている。</li> <li>○各領域の最初には扉のページが設けられ、学習に向かへる工夫がされている。</li> </ul> <p>&lt;一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒たちにとって親しみのある作品を掲載することで興味・関心をもたせ、身近なものとして美術文化のつながりを理解できるようにしている。</li> <li>○各題材の最初に「造形的な見方・考え方」を働かせ、深い学びにつなげられる提示がされている。「はじめに」動画や数名の生徒作品例、作者のことばから、発想の手立てや制作の見通しを立てやすくなっている。生徒作品数は厳選されており、大切に扱われている。</li> <li>○学びの資料により、様々な領域の知識・技能が活用しやすく、且つ習得しやすくなっている。特に、色彩のページは大きな図版で大変見やすく、道具の使い方は多くの情報量をコンパクトにまとめられている。生徒が主体的に学ぶための手立てとして効果的である。</li> </ul>
資 料	<p>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表紙は、鮮やか且つ豊かな色彩で美術の楽しさが目で見て伝わるようになっている。また、凹凸によって作品の材料や質感を表現し、触って楽しむことができ、指先で触り、作品の質感を想像することができる。</li> </ul> <p>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○鑑賞の視点が広がり、表現に生きるような原寸や見開き図版が掲載されている。</li> <li>○資源保護のため、表紙や本文とも全てにおいて環境に配慮した再生紙が使われているが、掲載図版の色彩は鮮明で、本来の色彩が保たれている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UDフォントが使用されており、全てにおいてルビ振りがされている。また、カラーユニバーサルデザインにより、識別しやすい配色や形状になっている。</li> <li>○学習をサポートするキャラクターの登場により、深い学びや発想・構想へとつながられる工夫がされている。</li> <li>○各題材でQRコードの掲載、効果的な学習を図る各種マークが整理されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○色彩や質感が楽しめる表紙、大きな図版、生徒にとって親しみのある作品の掲載など、美術への興味・関心を高められるような工夫が多く見られる。</li> <li>○造形的な見方・考え方を楽しく働かせ、生徒が主体的に取り組めるような工夫が随所に見られる。</li> </ul>

# 美術科調査資料

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">『美術 1 』 3 8 2 ・ 3 』</p> <p style="text-align: right;">発行者番号 3 8 発行者名 光村</p>
<p>内 容</p>	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○〔共通事項〕や技能に関わる資料、美術史に関わる資料などが掲載された「学習を支える資料」には、関連する題材のページに資料のリンクが示され、知識及び技能を習得・活用しやすいよう構成が工夫されている。</li> <li>○題材の冒頭に設けられた鑑賞の問いかけや、形や色彩・材料について着目すべき「POINT」を示し、造形的な視点で捉えられるように工夫している。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「みんなの工夫」において生徒の制作における試行錯誤の課程を紹介したり、「作者のことば」やアイデアスケッチを豊富に掲載したりするなど、生徒が発想や構想を深められるように工夫されている。</li> <li>○すべての題材において鑑賞の視点を示し、美術作品や題材のよさや美しさ・おもしろさを感じ取ったり考えたりして、見方や感じ方を深め、表現活動と一体的に学習できるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒作品に添えられた「作者の言葉」や、制作における試行錯誤の課程を紹介した「みんなの工夫」などから、根気強く学習に取り組む態度が育まれるよう配慮されている。</li> <li>○「美術の力」や「うつくしい!」と題した資料を掲載して、美術の学びを人生や社会に生かすことができるように工夫されている。</li> </ul> <p>&lt;特記すべき教材や教科の特性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○3年間の学習において必要とされる知識・技能に関する内容が網羅された別冊資料が用意されている。限られたページで、生徒の主體的な学びを支える情報が示されている。</li> </ul>
<p>資 料</p>	<p>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○書き込み可能 QR コンテンツや用紙の種類を工夫した鑑賞図版など、生徒の学習意欲を高める工夫をしている。</li> </ul> <p>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○3年間の制作に活用できる技法などを精選したコンパクトな大きさの別冊資料により、個人個人の学習進度に応じて活用することができ、学習効果を高める工夫がなされている。</li> <li>○今日的な教育課題に関して幅広く配慮して表記されている。</li> </ul> <p>&lt;レイアウトの工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一つの題材のなかで「表現」と「鑑賞」の相互の関連を示すことにより、表現と鑑賞が一体的な学びとなるようにレイアウトが工夫されている。</li> </ul>
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UDフォント、カラーユニバーサルデザインを採用している。</li> <li>○各ページの内容について、SDGs 17の目標との関連が示されている。また、本体に植物油インキを使用するなど、環境への配慮が見られる。</li> <li>○道徳など、関連する教科、内容とのつながりが表記されている。</li> </ul>
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○必要内容が精選された別冊資料やQRコードにより、個別最適な資料の選択が可能である。</li> <li>○表現や鑑賞の視点を一体化しながら、題材を深く理解し学習できるように工夫されている。</li> </ul>

# 美術科調査資料

項目	書名 『美術 1 美術との出会い』 『美術 2・3上 学びの実感と深まり』 『美術 2・3下 学びの探求と未来』 発行者番号 116 発行者名 日文
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○作品ごとに「造形的な視点」という吹き出しがあることによって「学びの視点」とリンクさせ、着目させたい視点や考えさせたいことを提示している</li> <li>○「表現のヒント」、巻末の「学びを支える資料」によって「学びの視点」を達成するための技能面の補足を示している。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「鑑賞の入り口」や「作者の言葉」を通して主題を生み出す発想・構想を引き出させる工夫が見られる。</li> <li>○「表現のヒント」として主題を生み出す手立てを示すことで、思考力・判断力・表現力等を育成する工夫をしている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びの目標」に、主体的に表現や鑑賞の授業に取り組むための目標を位置付け、その目標を達成するために、題材の写真や参考作品のレイアウトを工夫している。</li> <li>○美術の学びが生活や社会につながるように、様々な職業の人物紹介や「社会に生きる美術の力」を掲載している。</li> </ul> <p>&lt;一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表現の参考にする作品と理解を深める「作者の言葉」や思考のプロセスが見えるアイデアスケッチなど、表現のヒントの工夫がみられる。</li> <li>○自分の見方や感じ方を大切にしながら、表現の幅を広げ、言語活動が充実されるように、造形活動中に交流する写真を、発想や構想の場面で示す工夫がされている。</li> <li>○知識や理論の学習に偏らないように、キャリア教育の視点や平和・人権教育など美術でつながる現代的な諸課題を取り上げている。</li> </ul>
資 料	<p>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○原寸や部分拡大、見開きの図版、再現度の高い版画の色彩など学習意欲を高める工夫をしている。</li> </ul> <p>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○作者の言葉・表現のヒント・造形的な視点の3つの見出しを設け、学習に活用できるように工夫している。</li> <li>○表現の題材の中に表現と鑑賞の学びができるように、相互に関連づける工夫が見られる。</li> <li>○「学びのはじめに」のQRコードからは、題材の導入を助ける資料が見られる構成になっている。</li> </ul> <p>&lt;レイアウトの工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題材を通して育成を目指す資質・能力を3つの目標に整理し、示す工夫をしている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文では、UDフォントを使用している。</li> <li>○全ページにおいてカラーユニバーサルデザインが採用されている。</li> <li>○共通したアイコンを採用することにより、分類を工夫している。</li> <li>○学びの目標を統一されたアイコンを採用することにより、分類しやすい工夫をしている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3社の中で唯一3冊に分かれている。</li> <li>○各ページに統一感があり、共通のレイアウトにするなど、見せ方の工夫が感じられる。</li> <li>○それぞれの内容が中学校3年間、または、その先の将来まで見通した形で示されるなど、工夫が感じられる。</li> </ul>

# 保健体育科調査資料

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: right;">発行者番号 2 発行者名 東書</p> <p style="text-align: center;">『 新編 新しい保健体育 』</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○重要語句がキーワードとして明記され、本文中でも太字で示されていて、知識の定着を図っている。キーワードと太字には、ふりがなを付けている。</li> <li>○実習で扱う内容に関しては、巻末にスキルブックとしてまとめられていて、技能の習得に必要な学習内容が一覧で示され、適宜扱えるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「活用する」では、資料をもとに考えさせ、課題に対して意見を出し合うなど、主体的で対話的な学習内容が用意され、思考力、判断力、表現力を養うことができる。</li> <li>○3年間の学習の最後に「保健の学習を振り返ろう」を設け、習得した知識をこれからの生活に活かしていけるように、表現活動が用意されている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「見つける」に示された課題や発問は、実生活に関連する内容が多く示され、主体的に学びに向かえるように工夫されている。</li> <li>○章のとびらでは、さまざまな分野で活躍する人たちを紹介し、保健体育の学習内容と将来の職業とを関連させて学ぶことができる。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○二次元コードの動画やシミュレーションなどで、知識や技能を活用できるデジタルコンテンツが充実している。</li> <li>○巻末スキルブックでは、学習した健康・安全にかかわるスキルを、適宜確認、活用することができ、知識及び技能を身に付けられるようになっている。</li> </ul>
<p>資 料</p>	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章のとびらには、生徒に身近な写真とともに、この章で学習することが明記されており、学習意欲を喚起する内容となっている。</li> <li>○キャラクターを用いて、考えさせる内容や、意識すべきポイントを効果的なコメントで示している。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「他教科リンク」のマークを用いて、保健体育と他教科の学習内容を関連付けて学習できるよう工夫されている。</li> <li>○二次元コードを用いて豊富なデジタルコンテンツを活用することで、より学習効果を高めることができる内容となっている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1単位時間の学習の流れは、見開き2ページを基本としていて、学習の流れが理解しやすいレイアウトとなっている。</li> <li>○学習項目のレイアウトが統一されていて、学びやすい構成になっている。</li> </ul>
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニバーサルデザインフォントが使用されている</li> <li>○特別支援教育、ICT活用に関する校閲がなされている。</li> <li>○写真資料やグラフが効果的に配置されている。</li> <li>○学習のまとめは、二次元コードを用いて活用する構成となっている。</li> </ul>
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1時間の学習の流れが統一され、理解しやすい紙面構成となっている。</li> <li>○学習資料の写真やイラストが豊富で、生徒の理解を深める工夫がされている。</li> <li>○デジタルコンテンツが豊富で、学習場面に応じて活用できるように構成されている。</li> <li>○生徒が実生活に活かすことができる内容の資料は、必要に応じて活用できるように、巻末にまとめて掲載されていて工夫がみられる。</li> </ul>

# 保健体育科調査資料

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: right;">発行者番号 4 発行者名 大日本</p> <p style="text-align: center;">『中学校保健体育』</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○重要語句が太字で示されており、学習の最後にキーワードとしてまとめられている。 ○章末の「学習のまとめ」には、重要な言葉を解説し、一覧としてまとめている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「学習のねらい」「つかもう」「課題の解決（やってみよう・話し合ってみよう・調べてみよう）」「活用して深めよう」という学習の構成となっていて、思考力・判断力・表現力を育成できる内容となっている。 ○「やってみよう」「話し合ってみよう」では、主体的で対話的な活動が用意されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「つかもう」では、身近な事例を扱い効果的な導入となっている。 ○教科書冒頭の口絵では、3年間の学習内容が、明るく豊かな生活、自己実現、夢の実現へとつながっていることを写真と資料で解説している。</p> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞ ○心肺蘇生の実習資料は、3ページの折り込み資料となっていて、大きな写真は実習の際に、効果的な活用ができるように工夫されている。 ○各章のとびらでは、小学校や高等学校での学習内容が示されており、「リンクマーク」を用いて、教科内や他教科とのつながりが示されている。</p>
<p>資 料</p>	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞ ○「学習のねらい」では、その時間に学ぶべき内容が具体的に明示されており、生徒自ら学習内容を意識して取り組むことができる。 ○学習内容に関連した「トピックス」や、「ミニ知識」により、より関心をもって学習内容を深められる工夫がされている。</p> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞ ○教科書冒頭に二次元コードを掲載し、適宜、授業の中で動画や資料を活用することができる。 ○各章ごとの「学びを活かそう」では、その章で学んだ内容を実生活で活かすことができるようにするために、主体的で対話的なさまざまな表現活動が用意されている。</p> <p>＜レイアウトの工夫＞ ○1単位時間は、見開き2ページを基本とし、左側には本文、右側には資料という配置で統一されている。 ○イラスト・写真資料ともに豊富に用意されている。過去の災害を掲載した写真資料は大きく鮮明で、生徒に印象強く残るような資料となっている。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○ユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ○特別支援教育、道徳教育に関する校閲がなされている。 ○学習の流れ、学習方法などが、教科書の最初に丁寧に解説されている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○ページ構成が統一され、見開きページの左側には本文、右側には資料となっており、毎時間の学習が、見通しをもって学ぶことができる構成になっている。 ○実習で扱う写真、学習を深める内容の写真が大きく鮮明に掲載されている。 ○各章ごとの「学びを生かそう」では記入欄が設けられ、主体的・対話的な活動に取り組みながら、深い学びが出来るように工夫された構成となっている。 ○学習のまとめでは、重要な言葉をまとめ、解説し、二次元コードを用いて「まとめの問題」が用意され、学習の整理に役立てられるようになっている。</p>

# 保健体育科調査資料

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: right;">発行者番号 50 発行者名 大修館</p> <p style="text-align: center;">『 最新 中学校保健体育 』</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○重要語句がキーワードとして明記され、本文中でも太字で示されていて、知識の定着を図っている。キーワードと太字には、ふりがなを付けている。</li> <li>○資料、グラフには、読み取る際のポイントとなるコメントが効果的に示され、知識・技能を習得できるように工夫された内容となっている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料・グラフ・コラムの内容が大変充実している。それらを活用することで、主体的で対話的な活動を通して、思考力・判断力・表現力を育成できる内容となっている。</li> <li>○「学習のまとめ」には、二次元コードから Web ワークシートが用意され、自らの考えを表現したり、他の人と意見を伝え合うこともでき、まとめの学習として工夫されている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章のとびらでは、小学校での既習内容、章の学習内容、高等学校での学習内容が分かりやすく示され、系統性を持って学習できるように工夫されている。</li> <li>○性に関すること、また多様性に関して、特集資料で 2 ページにわたって解説し、知識を習得させ、正しい判断力を養うことができるようにするための資料となっている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○性に関すること、多様性に関して、がん、感染症、災害・犯罪への備え、予防など、今日的な学習内容の資料が大変充実していて、生徒が実生活に活かすことができる。</li> <li>○二次元コードを用いたデジタルコンテンツは、動画解説、クイズ、ワークシートなど多岐にわたっていて、基礎的な知識の習得、さらに深い学びに広がる内容となっている。</li> </ul>
<p>資 料</p>	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章のとびらには、生徒が身近に感じることでできる写真資料を多く掲載し、学習内容を生活の場面につなげて学べ、学習意欲を喚起するための工夫がなされている。</li> <li>○キャラクターのコメントが効果的に配置され、学習内容と実生活とが、密接につながっていることを理解できる内容になっている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「章のまとめ」は、学習指導要領で示された評価の 3 観点で構成されていて、効果的に学んだ内容の確認ができ、学習効果を高めるための工夫がされている。</li> <li>○「特集資料」では、さまざまな今日的な課題、実生活に活かすことのできる内容を扱い、生徒はその知識を基に、自らの生活につなげて活かすことができる。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1 単位時間の学習の流れは、すべて見開き 2 ページで完結されていて、学習の流れが理解しやすく、見通しをもって学習することができる構成になっている。</li> <li>○学習の導入、本文、資料・グラフ、学習のまとめが一目で分かるデザインになっている。</li> </ul>
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニバーサルデザインフォントが使用されている。</li> <li>○特別支援教育に関する監修がされている。</li> <li>○資料・グラフ、紙面の色使いが視覚的にも分かりやすいデザインになっている。</li> </ul>
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き 2 ページで完結する学習項目は、すべて 3 つのステップで構成されており、見通しをもって学習課題の解決に取り組むことができるような内容で工夫されている。</li> <li>○本文の見出しが、その要点となるような工夫された表記で示されている。</li> <li>○今日的な課題や、実生活に活かすことのできる学習内容・資料が大変充実している。</li> <li>○二次元コードを用いたデジタルコンテンツは、活用の方法がさまざま用意されている。</li> <li>○「章のまとめ」は学習指導要領で示された 3 つの観点別になっていて、知識・技能を習得し、思考・判断・表現力を養い、主体的に学習に取り組めるように構成されている。</li> </ul>

# 保健体育科調査資料

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;">『 新 中学校保健体育 』</p> <p style="text-align: right;">発行者番号 224 発行者名 学研</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○重要語句がキーワードとして示され、本文中でも重要な語句が太字で表記されていて知識の定着を図っている。</li> <li>○「章のまとめ」には、「振り返ろう」「確かめよう」「生かそう」が設けられ、生徒が学んだ内容を振り返りながら知識の習得が得られるよう工夫されている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「探求しようよ」では、学習内容に関連したさまざまな補足資料が用意され、思考力、判断力、表現力を養うことのできる内容となっている。</li> <li>○「エクササイズ（課題の解決）」では、考えたり、調べたり、意見を出し合うなどの多様な表現活動が用意されている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学習の課題」は、わかる、考えるとして、その学習の中で内容を理解すべき事項と、理解したうえで考えるべき事項が意識できるよう示されている。</li> <li>○「章のまとめ」には「生かそう」が設置され、その章で学んだ内容を、実生活で活かすための具体的な事例や問いが示されている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ページ下には「情報サブリ」として、その時間に学んだ内容を広げることのできる情報が豊富に掲載されている。</li> <li>○二次元コード「章デジ」では、学習に関連したデジタルコンテンツが用意されている。</li> </ul>
<p>資 料</p>	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ウォームアップ（課題の発見）」では、生徒への問いかけがなされ、この時間で学ぶ学習内容への興味関心が高まるような、工夫された発問が用意されている。</li> <li>○3年間の学習の前に設定された、保健体育を楽しく学ぼうでは、学習した内容が、よりよく生きる、よりよく生きる世界をつくることに繋がっていることを示している。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コラム、資料が豊富に用意され、学習内容を深めることができる。</li> <li>○二次元コード「章デジ」は、その時間の学習内容に関連したウェブサイトや、ワークシートに接続することができ、調べ学習や、さらに深く学ぶために活用することができる。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学習項目において、本文と資料の配置が統一されている。</li> <li>○冒頭の「課題の発見」から、学習時間の最後の「学びを生かす」までの配置が統一されており、見通しを持って学習が進められるレイアウトである。</li> </ul>
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニバーサルデザインフォントが使用されている。</li> <li>○情報モラル、特別支援教育に関する監修がされている。</li> <li>○教科書冒頭に、さまざまな学習の方法が丁寧に解説されている。</li> </ul>
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「課題の発見」「学習の課題」「課題の解決」「学びの活用」と学習の流れが統一され、見通しを持って学習できる構成となっている。</li> <li>○生徒が身近にとらえて、考えることのできる発問が多く用意されている。</li> <li>○各学年の最後には、生徒自ら1年間の学習を振り返る表現活動が用意されている。</li> <li>○「章のまとめ」には、学習内容を振り返ることができる課題が設けられ、また、実生活に学んだことを活かすことのできる課題も用意され、まとめの内容として工夫されている。</li> </ul>

# 技術・家庭科（技術分野）調査資料

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>『新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology 』</p> <p>発行者番号 2 発行者名 東書</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○技術の原理・法則や基本的な技術の仕組みについて、本文の内容を裏付ける図などを掲載することで、科学的な根拠に基づく知識が習得されるように工夫されている。</li> <li>○図や写真と共に、学習内容に関連する情報を多数掲載するとともに、他教科との関連についても触れ、知識を深めることができようになっている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「問題の発見→課題の設定→設計・計画→製作・育成→評価・改善・修正」が一連の問題解決のプロセスを丁寧に説明している。</li> <li>○SDGs と技術の関連が変わりやすくまとめられていて、「問題の発見と課題の設定」の場面で生徒が考えやすいように工夫されている。また、問題解決までの道筋が見えるデザインになっている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が主体的に身の回りの技術などを見つめ、技術の工夫や技術による最適化について考える活動ができるように工夫されている。</li> <li>○問題解決の過程を振り返り、粘り強く取り組んだ内容や新たな問題解決に向けての課題などを確認できるように配慮されている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○技術の見方・考え方を「安全」「環境」「消費者」「防災」などのマークで示し、学習全体を通して、持続可能な社会の構築に寄与する態度が養えるよう配慮されている。</li> <li>○技術分野の学習に関係の深い仕事に就いている人たちからのメッセージを紹介し、勤労観・職業観を育むことができるように工夫している。</li> <li>○問題解決例が複数掲載され、地域や学校の実態に応じて選択して指導できるよう工夫されている。</li> </ul>
<p>資 料</p>	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○イラストや写真、レイアウトが工夫してある。大きく鮮明な写真や図版を多数掲載し、生徒の学習への意欲を喚起するようになっている。</li> <li>○各内容で具体的な製品から構造や仕組みなどを考えるようになっている。</li> <li>○各内容のまとめでは、これからの技術について考えさせられるような話題が取り上げられており、将来的にもものづくりに興味関心をもつように工夫されている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタルコンテンツが充実していて、解説動画、思考ツール、シミュレーションなど具体的なコンテンツが多く用意されている。</li> <li>○適切な箇所に QR コードがあり、個別最適な学びが実現できるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各内容とも、見通しを持って取り組めるよう見開きで構成されている。「問題の発見」「課題の設定」について、キャラクターの漫画によって興味・関心を持って検討できるように配慮されている。</li> <li>○ガイダンスを巻頭に位置づけ、中学校で学習することや技術における問題解決の流れを概観できるように配慮されている。</li> </ul>
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援教育の観点から、丸ゴシック体を用いるなど、見やすくわかりやすい紙面になるように配慮されている。</li> <li>○ユニバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザインが全てのページにわたって配慮されている。</li> </ul>
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各内容は、「理解する」、「問題解決に取り組む」「つなげる、広げる」のまとまりで構成されている。</li> <li>○「統合的な問題解決」では、新しいイノベーションにつながる問題解決になるために、四つの技術を統合するように工夫されている。</li> </ul>

# 技術・家庭科（技術分野）調査資料

書名 項目	『新 技術・家庭 技術分野 明日を創造する 』 発行者番号 6 発行者名 教図
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のまとめ毎に、具体的な実習事例や実験事例が掲載され、体験的な学習を通して知識を深めることができるようになっている。</li> <li>○学習の明確化を図るために、「めあて」と「ふり返る」項目が設定されており、具体的な目標を持って学習が行えるように構成されている。また、「キーワード」を各学習項目に設定しており、学習のポイントとして生徒が意識しながら学習することができるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○4コマ漫画を利用して、問題解決の流れがわかりやすくなっている。</li> <li>○各内容の技術における構想をする場面で、生徒が着目すべき内容を掲載し、生徒が見通しをもって問題解決的な学習を行えるようになっている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各編に「やってみよう」として、自ら学ぶ、グループで学ぶ問いかけが設けられている。</li> <li>○社会と関連させたサステナビリティの資料を掲載し、社会の問題を自らの問題として主体的に取り組めるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ガイダンスで安全をまとめ、安全への意識を高め実習に取り組むことができるようにし、別冊「スキルアシスタント」では、事故防止への配慮がされている。</li> <li>○実習例では複数の題材を示しており、時間数や技能に応じて選択でき、生徒の習熟度や進度差に対応し指導できるよう工夫されている。</li> <li>○技術の役割や影響を理解し、技術のプラス面やマイナス面について、多面的に評価することで、技術を誠実に生かし持続可能な社会を創造できる生徒を育成できるよう様々な資料を配置している。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校・中学校・高校との関連を重視している。また、どのような学習計画にも対応できるように、写真や図、イラストなどを効果的に掲載している。</li> <li>○各内容のまとめでは、これからの技術について考えさせられるような話題が取り上げられており、将来にもものづくりに興味関心をもつように工夫されている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○適切な箇所にQRコードがあり、個別最適な学びが実現できるように工夫されている。</li> <li>○生徒自身の設計や計画を記入できる「設計・計画シート」「計画・育成シート」が用意されている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○技術分野の学習に必須の内容が系統的に提示されており、生徒の理解と習得が図られるように、資料や題材例に富んだ教科書となっている。</li> <li>○学習の導入として、日常の場面を1コマ漫画で取り上げ、生徒の「なぜ」「どうして」が「学ぶ」を通して解決できる内容構成に工夫されている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニバーサルデザインフォントやカラーバリエーションの観点で全てのページに配慮されている。</li> <li>○特別支援教育の観点から、必要な漢字には見開きごとに振り仮名を振ったりすることで、読みやすいように工夫されている。文字が大きく紙面の構成が統一されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各内容は、「技術を見つめよう」、「技術をいかそう」、「未来をつくろう」のまとまりで構成されている。</li> <li>○「夢をかなえる技術」では、夢を形にしたり、工夫し創造することの大切さを伝えたりするために、領域を横断した様々な技術を紹介するよう工夫されている。</li> </ul>

# 技術・家庭科（技術分野）調査資料

書名 項目	『技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて 』 発行者番号 9 発行者名 開隆堂
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎基本の確実な習得とともに、「生活の中での真理」を追究できるようになるために、正確な写真や図解が用意されている。</li> <li>○「実験」や「調べ学習」を取り上げ、科学的な根拠を伴い技術を理解できるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ガイダンスのページで技術の見方・考え方を取り上げ、各内容で深めるようになっている。</li> <li>○「問題解決の流れ」・「問題の発見と課題の設定」の項目を掲載し、ここまで学習してきた知識をどのように問題発見、課題設定、そして課題解決に活用するのか、生徒が理解しやすくなっている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学習課題」を通して生徒が授業へ積極的に取り組むように配慮されている。「実験」や「やってみよう」などの活動を通して他者との関わり合いに配慮している。</li> <li>○実践的・体験的な学習活動を通して、生活をよりよくしようとする意欲を引き出し、自ら問題を見だし、課題を設定して解決を図る力を身に付けることができるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○技術の見方・考え方をくり返し「はたらかせる」ことを通して思考パターンを育ませ、教材のワークシートを活用することで個別最適な学習に取り組めるよう工夫されている。</li> <li>○問題解決的な学習が無理なく展開でき、系統的な学習が進められるように工夫され、その後、様々な技術を組み合わせた統合的な実習を取り上げ、社会問題に対応するための考え方を深められるよう工夫されている。</li> <li>○環境・共生に関する内容を、個々の学習場面や各内容の最後で取り扱い、学習活動や生活の中で環境や共生を大切にする実践的態度が身に付くように配慮されている。</li> <li>○適切な箇所に QR マークがあり、個別最適な学びが実現できるように工夫されている。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実践的体験的な学習活動を通して、生活をよりよくしようとする意欲を引き出し、自ら問題を見出し、課題を設定して理解する力を身に付けることができるようになっている。</li> <li>○実習例が複数掲載され、地域や学校の実態に応じて選択して指導できるよう工夫されている。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習コンテンツや各自で考えられる活動が充実し、対応している。</li> <li>○各内容の最終章では、これまでの学習をふり返り、技術の見方・考え方について考えたり、技術の役割やこれからについて考えたりできるよう配慮されている。</li> <li>○適切な箇所に QR コードがあり、個別最適な学びが実現できるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きを有効に活用し、学習項目は見開き単位でまとめられている。本文及び参考などの資料との区分も明確である。</li> <li>○イラストや図などがわかりやすく、写真は作業しているようなアングルで掲載され、理解を促すための工夫がされている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各内容とも、基礎的・基本的な事項が習得できるように、要点を押さえて系統的に記述されている。重要語句はゴシック体にして、表記のめりはりをつけている。</li> <li>○ユニバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザインが全てのページで配慮されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各内容は、「基礎・基本」、「問題解決」、「技術と私たちの未来」のまとまりで構成されている。</li> <li>○「技術の出口」では、社会の問題に技術で対応するために、様々な技術を組み合わせた考え方を深められるよう工夫されている。</li> </ul>

# 技術・家庭科（家庭分野）調査資料

書名 項目	『新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して』 発行者番号 2 発行者名 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学習のまとめ」では、学んだことを確認できる。その中の「大切な用語の確認」で既習内容に戻り、繰り返し学習することで知識の定着の工夫がされている。</li> <li>○実習例が多く掲載され、状況やレベルに合わせて実習を行うことができ、技能の定着を図ることができる。</li> <li>○身に付けさせたい基礎的な知識・技能を「いつも確かめよう」にまとめ、基礎的な知識・技能を確実に習得できるようになっている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「家庭分野の学習の進め方」では、家庭分野の問題解決的な流れを具体例とともに示し、その後の学習や家庭での問題解決に生かすことができるように工夫されている。</li> <li>○学習課題が疑問形になっていることで問題解決的な学習へと結び付くように配慮されている。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各節の始めには、目標、始めの活動、学習課題が示され、見通しと課題意識をもって学習が進められるようになっている。</li> <li>○脚注には「せいかつメモ」が掲載されていて、身近な生活に関わる豆知識について興味を高められるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○住まいの危険についてのコンテンツが素晴らしい。触れるとその箇所に○印がついて個→グループでの話し合い活動の際にも振り返ることができて良い。</li> <li>○一目で生徒の興味を引ける内容のコンテンツが多く、特に一日分の献立作成では数字や献立に苦手意識を持つことなく表やグラフで表示ができ、「やってみたい」と思わせるポイントが多い。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートに記入していた内容をタブレットの上でまとめることができる。</li> <li>○細かい技能動画で自分のペースで「やってみたい」、「細部にこだわりたい」と思える作品製作に取り組める。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTを活用した最新の買い物体験ができた。Web上の買い物画面のようだった。実生活に活かせる内容だった。</li> <li>○保育園の1日の流れが動画になっていて、物理的に幼児との交流ができない地域には最適である。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○写真資料が充実していて、イメージがもちやすく、生活経験の少ない生徒でも実感を伴って学べるように工夫されている。</li> <li>○小学校の既習内容がまとめられていて、身近な生活に関する内容が載せられていて、生徒が興味・関心をもって読めるように工夫されている。</li> <li>○インターネットを活用して効果的に学習を進められるデジタルコンテンツが充実していて、授業や家庭での実践に意欲がもてる工夫がされている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援教育の視点から、総ルビや分かち書きと google 翻訳で教科書を翻訳できる機能は素晴らしい。学習機会の確保に対応していた。</li> <li>○絵にすることでプライバシーや人権教育上の配慮が客観的に受け止められる。</li> <li>○多くのページでは、「目標」「始めの活動」「まとめの活動」などがすべて同じ位置に配置され、授業の流れが見やすいように工夫されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ガイダンスの後、B（衣食住の生活）、C（消費生活・環境）、A（家族・家庭生活）の順で内容が配列されていて、巻末に「生活の課題と実践」が掲載されている。</li> </ul>

# 技術・家庭科（家庭分野）調査資料

書名 項目	『新 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する』 発行者番号 6 発行者名 教図
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○重要語句は青のゴシックになっているので分かりやすく、章ごとにキーワードとして記載されているので、確認しやすい。</li> <li>○章ごとにめあてと振り返りが示されていて、学ぶべき内容が身に付いたかどうか確認できるように工夫されている。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導入の「見つめる」を受け、「見つめてみよう」では生徒が自分ごととして捉えて取り組むことで、学習したことと生活を結び付けて考えることができるように工夫されている。</li> <li>○各章の「学びを生かそう」の記録レポートは、問題の発見から課題の解決、次の課題へつなげる6つのステップで統一されていて取り組みやすい。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調理実習や製作では「私のアレンジ」が紹介されていて、「自分はどうやってみたい」という意欲が高められるように工夫されている。</li> <li>○「センパイに聞こう！」や「メッセージ」などのコラムで、学んだことを実生活で生かしている様子を紹介することで、生徒が実際に生活に生かせる内容になっている。</li> </ul> <p>＜特記すべき教材や教科の特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○献立作成のコンテンツがより細かいものであり、1日分の献立を立てるうえでイメージしやすいコンテンツになっている。</li> <li>○単元ごとに直接ウェブサイトにつながるQRコードがあり、タブレット学習での反転学習がしやすい。</li> <li>○家庭分野の衣・食・住に関連して、災害時の応用の仕方が各単元にちりばめられてあり、実生活ですぐに実践できる内容が多く見られた。</li> </ul>
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○住まいの中で起こる事故の見取り図や、タブレットで作業しながら話し合い活動ができるコンテンツがあり、限られた授業時数で進める中で有効に活用できる。</li> <li>○振り返りシートが充実している。</li> </ul> <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○着物の着方では手の動きや、体の動かし方が実際に見られて自分でもやってみようと思える動画になっている。</li> <li>○災害時の段ボールトイレの作り方の動画は、実生活で使えるようなアイデアであり生徒の興味を引きつける内容になっていた。</li> </ul> <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○絵が多く実用的な情報が多く、絵にすることで多様なプライバシーへの客観性が表れている。</li> <li>○教科書全体が横書きで、板書との流れが合わせやすく、調理の流れは時系列で縦書きに工夫されていて見やすい記載となっていた。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の目当てやキーワードが記載されていて、見通しをもって学習ができるようになっている。</li> <li>○食物アレルギーへの対応として、調理実習では代替の食品例を表示するなどの配慮がされている。</li> <li>○他教科や小学校での既習内容との関連をマークで示し、学習のつながりを確認しながら知識を身に付けられるように工夫されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ガイダンスの後、A（家族・家庭生活）、B（衣食住の生活）、C（消費生活・環境）の順で内容が配列されていて、巻末に「生活の課題と実践」が掲載されている。</li> </ul>

# 技術・家庭科（家庭分野）調査資料

書名 項目	『技術・家庭（家庭分野） 自立しともに支え合う生活へ』 発行者番号 9 発行者名 開隆堂
内 容	<p>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○写真や図などの資料が大きく、はっきりしていて分かりやすい。細部も拡大写真などで見やすいように工夫されている。</li> <li>○食生活や衣生活の学習において、科学的な根拠に基づいた知識を身に付けられるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全体を通して1問題発見→2課題設定→3計画→4実践→5評価・改善の順で学習が進められるようになっていて、問題解決的に学習に取り組めるようになっている。</li> <li>○話し合いの活動や思考する活動、意見を述べる活動などが効果的に設定されている。また観察や実習の際の計画を立てる場面やレポート作成、考察・発表等の場面が学習過程の各所に設定されている。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の導入では、生徒の身近な話題を用いながら生徒がそれぞれの学習に興味・関心をもって取り組めるようになっている。</li> <li>○実習や製作では、大きな写真を掲載することで、生徒の興味を引きつけられるようになっている。また、QRコードを読み取ることで動画等を使って手順等を確認でき、主体的に学習に取り組めるようになっている。</li> </ul> <p>&lt;特記すべき教材や教科の特性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○常に基礎的・基本的な内容の徹底が図られている。</li> <li>○今の生活に合わせて、作業内容や製作内容が記載されている。</li> <li>○手ぬぐいの和柄や和食・和食器、伝統野菜など「和」を意識した内容が、多く感じられた。</li> </ul>
資 料	<p>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ハンバーグの実習では、現代の食生活に合わせて加工食品も掲載されている。</li> <li>○和食中心の献立が多く、郷土料理や行事食につながる要素になっている。</li> <li>○加工食品の活用では、保存の原理別に献立があり、特にパッキングは災害時やキャンプの際に「やってみたい」と思える内容である。</li> </ul> <p>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○繊維の拡大図や断面図が大きく、保育園の見取り図も見やすい。</li> <li>○Q&amp;Aの充実により疑問に答える形で視点を多目的・多面的に持つ習慣や豆知識につながる内容だった。</li> </ul> <p>&lt;レイアウトの工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ダイバシティーや多種・多様な生き方やLGBTQに配慮した内容になっていた。こういった配慮が誰一人取り残さない学習につながる内容になっている。</li> <li>○生徒が自作した過去のレポートが掲載されていて、どのようにレポートをまとめることができるのか参考になる内容で作業がしやすい。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どものSOSを出す際の情報が掲載され、身近につながる情報を置くことで実生活と学んだことがつながる連帯感があった。</li> <li>○本文中の重要語句は太字で分かりやすくしている。本文の文字はユニバーサルデザインフォントを用いて、多くの人に見やすいようになっている。</li> <li>○目立ちやすいマークやキャラクターが効果的に示されていて、疑問を投げかけたり、つまづきやすい内容を補足したりしている。</li> <li>○他教科、他分野、小学校、高校と関連している学習には、それぞれマークが示され、分かりやすいように提示されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ガイダンスの後、A（家族・家庭生活）、B（衣食住の生活）、C（消費生活・環境）の順で内容が配列されていて、巻末に「生活の課題と実践」が掲載されている。</li> </ul>

# 外国語科（英語）調査資料

書名 項目	『NEW HORIZON English Course』 発行者番号 2 発行者名 東書
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全学年を通して、「扉」「Part」「Read and Think」「Unit Activity」で構成されていて、既習事項をスパイラルに学習できる。</li> <li>○ 1年を中心に、文章量や新出語数を調整し、標準時間内に無理なく学習できるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Unitの最後にタスク学習 Unit Activityがあり、また複数のUnitの学習後に Stage Activity（プロジェクト型学習）の自己表現活動で4技能5領域を統合的に発展させることができるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ダイバーシティメモ」や「デジタル用例辞典」では、生徒の興味関心を高める内容になっていて、意欲的に言語活動に参加できるように工夫されている。</li> <li>○ 登場人物について、多様性を配慮した設定になっていて、相手の立場に立って理解しようとする態度や広い視野でものごとを捉えられるように工夫されている。</li> <li>○ 協働して問題解決を行う活動やグループでの発表活動などを教科書全体に配置し、対話的な学びの機会を設けている。</li> </ul> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと【やりとり】、話すこと【発表】、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新出言語材料を教科書本文の流れに沿って練習することにより、場面を意識した活動が行えるように工夫されている。</li> <li>○ Sounds and Lettersでは、音と文字の関係を扱い、小学校の音を中心とした学び方から中学校での読み書きにつなげている。</li> <li>○ Real Life Englishでは、「聞く」、「話すこと【やりとり】」、「書く」の技能により焦点を当て、よりリアルな場面設定のもとで、言語活動を行うことができる。</li> </ul>
資 料	<p><b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目標文が、小学校の学習でどのように取り扱われていたのかを示すコミュニケーション活動があり、小学校で学んだことをいかして学習に取り組める工夫がある。</li> <li>○ 巻末資料には Can-Do リストがあり、生徒が自分の学習達成目標を確認することができるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材が1年生から3年生にかけて、段階的に自分の周りの世界から社会全体とのかかわりについて考えを広げることができるような構成になっている。</li> <li>○ QRコードによる、本文等の音声配信があり、タブレット端末を使用することにより、授業内でも家庭学習でも活用できる。</li> <li>○ 帯活動の small talk で対話活動ができるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大きいサイズで、余白が十分にあり見やすい。</li> <li>○ 活動のための例示写真や、魅力的な写真の量が多く活動の内容が広がる工夫がされている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1年生の最初に学習するアルファベットの文字の指導に合わせ、1年次は大文字のIや小文字のa、g、lなどを意識したフォントで構成されている。</li> <li>○ 発音記号は2年次から新出単語と合わせて記載されるが、アクセントについては1年次より記載されている。</li> <li>○ 対話の流れがわかりやすいように、吹き出しの部分のレイアウトが改善されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書本文を中心とした活動が多く、色々な国や多様な人々とのコミュニケーションについて楽しみながら、新出言語材料について学べる内容になっている。</li> <li>○ 1年生のUnit 1～4を、小学校の外国語・外国語活動の学習内容の接続期間として、言語材料や単語を余裕をもって振り返ることができるようになっている。</li> </ul>

# 外国語科（英語）調査資料

書名 項目	<div style="text-align: right;">           発行者番号 9            発行者名 開隆堂         </div> <div style="text-align: center;"> <b>『Sunshine ENGLISH COURSE』</b> </div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</b></p> <p>○Scenes では、新出表現の導入がマンガ形式で掲示され、どのような場面・状況で使われるのかわかりやすく提示されている。</p> <p>○Scenes で新出言語材料を学んだあと、Listen、Speak、Write の活動で、繰り返し言語材料を練習し、習得を目指している。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○本文終了後にその内容を再話する活動（Review &amp; Retell）では、本文の内容を整理して自分のことばで話すことが求められる。また、単元末の Action では、題材に関連したテーマで行う自己表現活動が設けられている。</p> <p>○Our Project では、「聞く→読む→書く→話す」の順序で、スピーチ等の原稿を作成できる構成になっている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <p>○とびらで学習の見通しを立てたり、各コーナーでの自己評価を重ねたりすることを通して、自分の学習を調整しやすい構成になっている。</p> <p>○QR コンテンツや Coffee Break など、本文題材に関連した情報を取り上げ、英語ならではの表現なども紹介し、自ら学ぶ生徒の育成を目指している。</p> <p>○1～3 年で少しずつ自分のことから世界に関することに興味を持てるように工夫されている。SDGs に関連した内容も、自分のことから世界に関することに興味を持てるように配置されている。</p> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○Power-up では各技能に特化したコミュニケーション活動を行う。</p> <p>○Scenes では 2 コママンガを導入した後、「聞く」「話す（やりとり）」「書く」の 3 つの活動で、新出表現の使い方に慣れることができる。</p>
資 料	<p><b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b></p> <p>○自学学習を促す QR コンテンツが充実しており、発音練習に活用できる。</p> <p>○1 年生の巻末には絵や単語がかかれた「アクションカード」が掲載され、ペア学習や会話活動時に使えるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b></p> <p>○Retell のステップが、従来の自由度の高い構成から、段階を踏んで無理なく取り組める内容となっている。</p> <p>○登場人物を統一し、各単元を通して、ストーリー性が一貫している。</p> <p><b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b></p> <p>○1 年生の「巻末資料」の単語と熟語が改行されて見やすくなっている。</p> <p>○各プログラムが同じ構成、レイアウトで作られていて、学習の見通しが立てやすい。</p>
表記・表現	<p>○1 年生前半は小学校と同じ手書き書体、後半は手書きに近い独自のフォントを使用している。2, 3 年生では一般的な書体を使用している。各学年共通で、アクセントは各単語に赤色で付記し、発音記号は巻末に掲載している。</p> <p>○巻末資料の CAN-DO リストでは、各単元ごとの目標が設定されているため、自分の達成度を記録することで主体的に学習する態度を身につけられると同時に、各単元でできるようになったことが見渡せるようになっている。</p>
総 括	<p>○各プログラム始めに新出文法を学習した後、まとまりのある英文を読む、その後自己表現活動につなげるという流れになっている。</p> <p>○いくつかのプログラムで学習した内容をもとに、Our Project で実際の場面に即した活動につなげていけるよう工夫されている。</p>

# 外国語科（英語）調査資料

書名 項目	<div style="text-align: center;"> <b>『 NEW CROWN English Series 』</b> </div> <div style="text-align: right;">           発行者番号 15 発行者名 <b>三省堂</b> </div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Take Action!では3つの領域があり、実際の場面や状況に応じたやりとり、会話を継続する活動、必要な情報をつかむ活動、情報を整理して要点を捉える活動が組み込まれている。</li> <li>○年3回の Project の自己表現活動では、各単元で習得した複数の技能を統合して活用することで総合的な英語力が習得できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各レッスンが Goal Activity に向かってとびらから段階的に積み重ねていく構成になっている。</li> <li>○バックワードデザインで目標設定し、少しずつ大きくなるゴールをクリアしていくことで生徒自身がどんな力が身についたか実感できる設定がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文が「防災」「安全できれいな水」「平和」「平等」など、SDGs に関連した様々な課題に対応して、社会問題に向き合う人間性を育成するような工夫がされている。</li> <li>○ Project 活動の自己表現での課題が、「将来の夢」や「10年後の自分へメッセージ」など、生徒が主体的に取り組みやすい課題になっている。</li> <li>○現代的な人物が登場していて興味関心をひく内容になっている。</li> </ul> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Take Action!では目的や場面、状況に応じて聞いたり、話したり、読んだりする活動を行い、海外の生活を疑似体験できるような設定がされている。</li> <li>○ Goal Activity での活動で示されているコミュニケーション場面が想定しやすく工夫されている。</li> </ul>
資 料	<p><b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末 What Can I Do?に、領域ごとの育成したい目標を示し、単元の最初に活動内容や目標を明示し、学習の見通しが立てられる。</li> <li>○QR コードを活用し発音を採点することができ、ネイティブに近い発音を習得できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Role-play sheet を活用することで Take Action!の内容をさらに深めることができるように工夫されている。</li> <li>○掲載されている QR コードで単語や本文の音声、アニメーション、発音図鑑などを再生ができ、授業の予習や復習に役立つよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○会話の場面では登場人物と吹き出しの配置がわかりやすい。写真資料などが多く、効果的に使われている。</li> <li>○各レッスンが同じページ割りで毎回同じ流れでつくられており、学習の見通しが立てやすい工夫がされている。</li> <li>○Side Story が4コマ漫画のような作りになっている。</li> <li>○挿絵がコマ割りしてあり、流れがわかりやすく工夫されている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年の教科書は手書き文字に近いユニバーサルデザイン系の書体を使用している。段階的に変化し、2、3年生は併用している。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ノンフィクションのストーリーが多く、生徒の興味を喚起している。</li> <li>○他教科で学んだ内容を外国語の学びと結びつけることができる単元が多く、異なる視点から学び、理解を深めることができる設定がされている。</li> <li>○身近なことから高学年になるにつれて国際的な内容を扱うことによって国際社会に対応できる人間性を育てようとする内容になっている。</li> </ul>

# 外国語科（英語）調査資料

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: right;">発行者番号 17 発行者名 教出</p> <p style="text-align: center;"><b>『ONE WORLD English Course』</b></p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</b>          ○Lesson の冒頭に「単元の目標」を示し、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にし、Lesson の最後に自己チェックできるようになっている。          ○Lesson 構成は、扉ページで話題・題材への興味・関心を誘い、Part1,2(短めの本文と「聞く」「話す／書く」活動を通して、特に重要な基本文の理解と定着を図る)と、part3(長めの本文を「読む」活動と「書く」活動を通して、より深い学習と発信力の伸張を図る)、Task (本文の内容理解確認の活動と、技能統合的な活動)、Grammar (文構造、文法事項のまとめ)となっている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○内容把握の際、Scene と Check があって、ポイントを絞りやすく読み取らせるための工夫がされている。          ○複数 Lesson のまとめと発展学習として、Project 学習が設定され、4 技能 5 領域でのパフォーマンス活動で思考・判断・表現の力を養うことができる。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○3 年間で扱う題材が、身近な生活から社会に関わる姿勢について考える題材まで、系統的・発展的に配列され、興味を喚起する内容になっている。          ○SDGs との関連課題の題材が目次に明示され、学年の発達段階に沿って発展的に配置されている。</p> <p><b>&lt;聞くこと、話すこと、〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>          ○Activities Plus として、帯活動で活用できる Input 教材がある。ペアワーク等を通してやり取りの機会を増やしている。          ○Think&amp;Try では登場人物になりきったり、本文の続きを創作して書いたりと様々な活動の工夫がある。          ○Task で 5 領域を統合した活動に発展させている。</p>
<p>資 料</p>	<p><b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b>          ○小学校で学んだ事項は、Springboard1～6 で振り返りながら、英語学習に移行する流れを意識させ、既習事項を生かしつつ発展学習へと向かう見通しを持たせている。          ○Part を読み進めると、最後に話の結末が分かるような内容で、興味を喚起している。          ○巻末 CAN-DO 自己チェックリストで各領域の目標が提示され、各単元末に達成状の振り返りができる。</p> <p><b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b>          ○Tips で技能習得のポイント解説が示されている。          ○QR コードは、個の状況に応じて個別学習・家庭学習に活用できる。          ○Can-do リストに 3 学年の関連が記述されている。</p> <p><b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b>          ○Lesson ごとの最後に Grammar の説明がわかりやすく示されている。          ○ブログ形式や、セリフの吹き出しなど、状況を読み取りやすいレイアウトになっている。          ○メール、記事、手紙などの枠のデザインと色分けが見やすく分かりやすい。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○手書き文字に近く判読しやすいフォントを開発し、1 年 Lesson3 までの本文で扱っている。          ○アクセント記号は 3 学年ともすべて付記。発音記号は 1 年が巻末、2、3 年は併記。          ○言語活動で活用する語彙は Tool Kit, Tips に掲載され、新出語彙 Words &amp; Phrases で発信語彙の内特に覚えたい語を太字で表記している。</p>
<p>総 括</p>	<p>○各単元の 3 つの Part を通して学んだことを巻末の Activity Plus で活用させ、定着を図り、Project で 5 領域の統合的な活動に発展させている。          ○各 Lesson 終末の Grammar のところでは、文構造や文法など、英語の仕組みをていねいにまとめている。</p>

# 外国語科（英語）調査資料

書名 項目	『Here We Go! ENGLISH COURSE』 発行者番号 38 発行者名 光村
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元が「扉」「Part」「Goal」で構成され、主人公達の中学校3年間でひと続きになったストーリー展開が構成されている。また、各ユニットで学んだことを生かして You Can Do It! につなげられるよう工夫されている。</li> <li>○「話すこと（やりとり）」では題材と自分をつなげて話す About You のコーナーが設けられていたり、各ユニットの「Goal」では、参考になる本文と文章構成のガイドによって「書くこと」の力を伸ばす工夫がされていたりするなど領域別の工夫がなされている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「Part」の部分で目的や場面、状況などを捉え、本文を読み、場面に沿って新出事項を実際に使用することで理解を深め、「Goal」で単元目標に応じた言語活動に取り組む構成となっている。</li> <li>○「You Can Do It!」では、既習事項を活用し、4技能を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を伸ばせるよう構成されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校3年間のストーリー展開となっているため、話題が「自分ごと」につながり、実際に使ってみたくなるように構成されている。</li> <li>○「Idea Hunt」では、生徒が既習の本文から自己表現に生かすためのヒントが示されたり、「TIPS」では、読み方や聞き方の例を具体的に示したりしている。</li> </ul> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと【やり取り】、話すこと【発表】、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○4技能5領域の言語活動をバランス良く配置し、わかりやすいアイコンで活動の領域を示している。</li> <li>○「Unit」の各パートは、インプットからアウトプットへ繋がれるように構成されていて、バランスのとれた力を養うことができる。</li> </ul>
資 料	<p><b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Story Retelling のためのイラストやヒントとなる語を乗せ、各ストーリーを即興で自分の言葉で話す練習ができるように工夫されている。</li> <li>○各ユニットに一つストーリーの番外編を描いた「Extra Story」があり、生徒の「続きが気になる」気持ちを原動力に、推測をはたらかせて読み進める力をつける工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○領域別の学び方や活動への取り組み方、家庭での学び方などを紹介した「英語の学び方ガイド」、巻頭の「ICTを活用しよう」で学習に効果的なICT機器の活用方法を場面別に紹介し、GIGAスクール時代の英語学習を後押ししている。</li> <li>○帯教材である LET'S TALK では、3年間を通して自分のことから身の回りのこと、そして自分の考えを述べるステップを踏めるように構成されている。また、即興で会話することから、スピーチへ繋がれるように段階を踏んでレベルアップする作りにもなっている。</li> </ul> <p><b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「Unit」の各パートは、左ページの本文で「聞く・読む」活動、右ページの言語活動で「聞く・話す・書く」活動と一貫している。</li> <li>○大判のイラストやはっきりした写真を用いてインパクトのある紙面構成となるよう工夫している。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発達段階に応じて、文字の種類や大きさ、文字組を調整することで、さまざまな種類の英語の書体に徐々に慣れていけるように配慮している。</li> <li>○特別支援教育の専門家の校閲を受け、全ての生徒にとってわかりやすく、読みやすい教科書になるよう配慮している。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書のストーリーを映像化した実写ドラマが用意されており、生徒の興味・関心を高め、主人公たちの3年間と自分の学校生活を重ね合わせることができ、リアルなセリフや展開、英語表現としての自然さ、教材としての適切さがバランスよく組み込まれている。</li> <li>○3年生になると英文も多くなるが、ラウンド学習で何度も繰り返して学べるように対応している。</li> </ul>

# 外国語科（英語）調査資料

書名 項目	『 BLUE SKY English Course 』	発行者番号 61 発行者名 啓林館
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元が「とびら」「Part」「Read &amp; Think」「Listen &amp; Think」「Think &amp; Write」「Think &amp; Speak」で構成されていて学期末に技能統合型の「Project」が設定されている。スパイラルに学べるように工夫されている。</li> <li>○Focus on Form で各単元ごとの文法が詳しくまとめられている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の「Part」で目的・場面・状況を捉え、Target で用法を理解し、「Express Yourself」で簡単な自己表現で活用させ、「Read &amp; Think」「Listen &amp; Think」でテーマに沿った英文を読んだり聞いたりすることで自分の考えを持てるように工夫がされている。</li> <li>○2年、3年を通して、記事、グラフ入り説明文、SNS メッセージなど様々なタイプの英文を読み取り、考えさせ、Output につなげる工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の興味・関心を引きつける題材や、今日的課題についての題材、日常的な話題から社会的な話題まで、多彩な題材を扱っている。生徒の世界を広げ、深い学びが実現できるように工夫されている。</li> <li>○Let's Talk、Let's Listen では目的・場面・状況がはっきりとした具体的な場面を取り扱っており、活動に取り組みやすくなっている。</li> </ul> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元で4技能の課題に取り組むことができるように工夫されている。</li> <li>○各 Unit の目標が、Input と Output の2本柱で設定しており、Input には「聞くこと」もしくは「読むこと」、Output には「話すこと」もしくは「書くこと」についての目標が示されている。</li> <li>○各パートの「Enjoy Chatting」では、本文の内容に関連した問いになっていて、即興的にやりとりをする力を育成できるように工夫されている。</li> <li>○学期末に技能統合型の Project が設定されている。</li> </ul>	
資 料	<p><b>&lt;学習意欲を喚起するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末「CAN-DO List」に、領域ごとの育成したい目標を示し、学習の達成度を自己評価できるように工夫されている。</li> <li>○「英語の学び方」というページが設けられていて、英語習得のポイントが示されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学習効果を高めるための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元ごとに QR コードが掲載され、本文や単語の音声、本文のアニメーション、Target の解説動画などがタブレットなどで再生できるように工夫されている。</li> <li>○各 Unit、「会話体の本文」→「資料文 (Read &amp; Think)」→「自己表現(Express Yourself)」と、テーマを少しずつ深めていき自己表現に発展させていく自然でスムーズな流れとなっている。</li> <li>○巻末資料に Word Box がついており、単元ごとにまとめられている。</li> </ul> <p><b>&lt;レイアウトの工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大きなサイズ (A4 判) でイラストや写真が効果的に掲載されている。</li> <li>○余白部分や行間スペースなど、文章が読みやすくなる工夫がされている。</li> <li>○各単元が全て同じ構成になっている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生は最後の Let's Read 以外は手書き文字に近い UD フォント、2年生以降は Century Schoolbook を使用している。</li> <li>○1年生はアクセントを各単語に青色で付記し、発音記号は巻末に掲載している。2,3年生はアクセントと発音記号を併記している。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各 Unit が基本的に3つのセクションで構成されていて、単元の順番に沿った計画だけでなく、ラウンドシステムにも対応している。</li> <li>○1年生の Unit1~Unit5 まで目標設定は小学校で慣れ親しんだ「聞く」、「話す」を中心に設定しており、円滑な小中連携を図っている。</li> </ul>	

# 道徳科調査資料

書名 項目	<div style="text-align: right;">           発行者番号 2            発行者名 東書         </div> <div style="text-align: center; font-size: 24pt; font-weight: bold;">『新しい道徳』</div>
特 色  内 容	<p><b>&lt;道徳の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○どの内容項目をどの教材で学習できるのか、各学年の巻頭と巻末に内容項目別の一覧表が配置されている。また、全教材冒頭に学習のテーマが設定されている。他教科との関連がある教材では、教材冒頭に他教科関連マークをつけている。</li> <li>○新聞の投書欄を教材化し、さまざまな人の意見を基に多面的・多角的に考えられる教材や、一つの内容項目を複数の人の立場から考えさせる教材を通して、多面的・多角的に物事を考えられる教材を用意している。</li> <li>○防災教育を通して道徳的判断力を育む教材が各学年に配置されていたり、地域貢献活動を取り上げる教材を配置したりすることで、自立した人間として他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性を育成できるよう配慮されている。</li> </ul> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年に「いじめのない世界へ」と「いのちを考える」というユニットが配置されており、複数教材を通して、多面的・多角的にいじめ問題や命の大切さについて考えることができるよう配慮されている。</li> <li>○各学年に「道徳×情報モラル」教材が設定されており、情報モラルに関するコラムを配置することで、情報モラルの知識も学習できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全学年を通して、共通して登場するキャラクターを扱う教材を配置している。その中で、一つのできごとに対する複数のキャラクターの立場や思いを通して、生徒が発達の段階に応じて考えを深められるよう工夫されている。</li> <li>○各教材末の発問に「ぐっと深める」を設定し、生徒をより深い学びへと導くことができるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全学年に掲載されている「道徳×防災」教材では、立場を分けて議論する活動が設定されている。また、各学年巻末の「心情円」を活用することで、話し合いの活動を円滑に行うことができるように工夫されている。</li> <li>○各教材に「つぶやき」を設定し、考えたことを生徒がメモできるよう配慮されている。メモしたことは話し合いにも活用できるよう工夫されている。</li> </ul>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年に動画や朗読音声を視聴できる二次元コードが掲載されており、朗読音声はスピードを調節して聞けるよう工夫されている。</li> <li>○挿絵や写真は見やすい大きさに掲載されている。特に感動、畏敬の念を扱う教材では、人間の力を越えたものを感じられるように写真が大きく掲載されている。</li> <li>○掲載している挿絵や写真はダイバーシティに配慮がされている。</li> </ul>
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書サイズはA B版を採用しており、UDフォント、カラーユニバーサル観点から配慮されていて見やすくなっている。</li> <li>○原則、小学校までに学習した漢字を使用したり、中学生にとって難しい表現を避けたりすることで、「読み」でつまづかないよう配慮されている。</li> <li>○各教材と内容項目との関係が、目次欄や各教材の冒頭にマークで示されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教材で学習のテーマが設定されており、その教材で考える内容がぶれないように工夫されている。また、主な発問が2問に絞られているので授業のポイントが一目でわかるようになっており、「ぐっと深める」発問を補助発問として活用することで、生徒がより深く考えられるよう配慮されている。各学年の巻末には、切り取り式の自己評価用紙と心情円があり、活用できるよう工夫されている。埼玉に係る教材等として、滑川総合高校書道部を取り上げた教材が2学年に掲載されている。</li> </ul>

# 道徳科調査資料

書名 項目	<div style="text-align: center;">『とびだそう未来へ』</div> <div style="text-align: right;">           発行者番号 17 発行者名 教 出         </div>
特 色 内 容	<p><b>＜道徳の目標に関わる工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教材の冒頭に、学習指導要領に示された4つの視点のどれに該当するかを色と絵柄で区別したマークがついている。あわせて「導入」の問いを設け、教材を通して考えていく道徳的価値を意識づけることができるように配慮されている。</li> <li>○生徒の生活実態に沿った教材や、現代的な課題を扱った教材など、広い視野から「考え、議論する」のに適した教材を多数掲載している。また、巻頭のオリエンテーションでは、多様な考えを交流し合って考えを深めていく学習過程を例示している。</li> <li>○教材末に「学びの道しるべ」を設定し、3つの問いを通して段階的に道徳的諸価値の理解を深められるよう配慮されている。また、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるように、集団や社会について考えられる教材を各学年で掲載している。</li> </ul> <p><b>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年で具体的な生活場面から情報モラルについて考える教材を掲載している。また、教材に続けてコラムを掲載することで、情報機器を通したよりよい人間関係について主体的に話し合うことができるように工夫されている。</li> <li>○各学年に「いじめをなくそう」ユニットを設定し、いじめの加害者・被害者だけでなく、傍観者や観衆にも目を向け、考えを深められるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>＜発達段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○共通した登場人物を扱う教材を全学年に配置し、ストーリーに連続性をもたせ、学校を舞台とした友情を描く教材を配置することで、生徒が発達段階に応じて考えを深められるよう工夫されている。</li> <li>○登場人物が判断を迫られる場面が中心となっている教材が数多く掲載されており、問題意識をもって多面的・多角的に考えられるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書内に適宜記入欄を設けたり、キャラクターによる発言例を示したりするなどして、自分の考えをまとめ、それをもとに話し合う言語活動を充実させるための工夫をしている。</li> <li>○役割演技や、日常の体験を想起して演じる「やってみよう」を設定し、体験的な学習を通して、道徳的諸価値の理解を生活や習慣に結び付ける工夫がされている。</li> </ul>
	<p><b>資 料</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材内容の理解を助けるために、生徒のイメージを広げる挿絵や写真、図を適所に配置している。写真から考える教材なども掲載している。</li> <li>○複数の話者による会話文では、それぞれの行頭に話者のイラストを入れることで判別しやすくする工夫がなされている。</li> <li>○教科書の学びをさらに深める資料が、教科書の二次元コードから読み取れる。</li> </ul>
	<p><b>表記・表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書のサイズはB5判を採用しており、UDフォント、カラーユニバーサルデザインの観点から配慮がされ、見やすくなっている。</li> <li>○学習内容の4つの視点が、目次では色で、教材冒頭ではマークを大きくすることで示されている。</li> <li>○中学で学習する常用漢字にはすべての教材で初出箇所に振り仮名をつけている。</li> </ul>
<b>総 括</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年の全教材に「導入」と「学びの道しるべ」が設定されており、学習前と学習後の考えや心の変容を生徒自身が実感できるように工夫されている。また、登場人物が判断を迫られる場面が中心となっている教材が多く掲載されており、生徒が主体的に、物事を多面的・多角的に考え、議論する学習ができるように工夫されている。埼玉に係る教材等では、1学年に秩父のすまんじゅうづくりについて、3学年に『旅立ちの日に』という曲に込められた思いについて掲載されている。</li> </ul>

# 道徳科調査資料

書名 項目	『きみがいちばんひかるとき』 発行者番号 38 発行者名 光村
特 色 内 容	<p> <b>&lt;道徳の目標に関わる工夫&gt;</b>            ○各学年の「道徳の学習を始めよう」では、1年間の見通しをもって道徳科の授業に臨めるように、学び方を示している。対話を重視し、多面的・多角的な見方で道徳的な価値について考えていく学習であることを明示している。            ○すべての教材に、教材中、または教材末に学習のてびき「考えよう」が設けられ、生徒が自分に引き寄せて考えたり、問題解決に向けて話し合ったりすることができるようになっており、授業で何を考えればよいのかが明確になっている。            ○自他の価値を認め合って学べるよう、教材の中に話し合い活動を位置づけ、相手の意見を引き出す問い返しの言葉や話型等が丁寧に示されている。また、多様な考えに触れることで、生徒が新たな価値観を築けるよう、教材を工夫している。         </p> <p> <b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b>            ○「生命の尊さ」を扱う教材を、各学年3箇所位置づけ、それぞれの教材で、生命の連続性、有限性、偶発性に触れながら、かけがいのない命を大切にしようという心を育む工夫をしている。            ○情報モラルに関する教材を各学年で扱っており、題材後の「まなびをプラス」では、別の視点から情報モラルについて考えられるように工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫&gt;</b>            ○発達の段階と教材に合わせて、すべての教材に学習のテーマ「考えよう」が設けられ、生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。また、巻末付録に設けられた「学びの工具箱」では、学年に応じた思考ツールを紹介している。            ○各学年に学年間での連携を意識した教材が扱われ、段階的に生徒の思考が深まるよう工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b>            ○各学年の後半に位置づけた「まなびをプラス」における「『〇〇』の本質を探ろう」では、1年生で「感動」、2年生で「尊重」、3年生で「学び」の本質について話し合い、みんなで納得のいく答えを作り上げる内容となっている。            ○巻末の折り込みに、「まなびの記録」が設けられ、授業ごとに記録できるようになっている。また学期末や学年末に自分の考えを振り返れるようになっている。         </p>
資 料	<p>           ○さまざまな分野で活躍する専門家が語りかける読み物、等身大の生徒が登場する読み物、漫画形式の教材など、生徒の興味・関心に対応するよう配慮されている。            ○中心的な発問の場面に必ず挿絵が配されている。また、説明内容を解説するための写真や図表、グラフなども随所に設けられている。            ○二次元コードから、資料や朗読を読み取ることができるようになっている。         </p>
表 記・表 現	<p>           ○各教材と内容項目との関係が、教材の冒頭に明示されており、視点を示すマークの下には内容項目が明記してある。            ○教科書のサイズはB5変型判を採用しており、UDフォント、カラーユニバーサル観点から配慮されていて、見やすくなっている。            ○中学校以上配当の常用漢字すべてに振り仮名がある。         </p>
総 括	<p>           ○各学年、年間2か所に「チャレンジ」という選択的な学習のてびきがあり、役割演技で実感を伴う議論ができるものや、生徒自身が問いを作り、考えを深められる教材もある。また、学期末や学年末に記録した「まなびの記録」をもとに、自身の変化や成長を自覚でき、自己肯定感が高められるように工夫されている。各教材末の「見方を変えて」「つなげよう」では、最後に自己を振り返るよう工夫されている。巻末の付録には、思考ツールを紹介する「学びの工具箱」を各学年に設けている。         </p>

# 道徳科調査資料

書名 項目	『 中学道徳 あすを生きる 』 発行者番号 116 発行者名 日 文
特 色 内 容	<p> <b>&lt;道徳の目標に関わる工夫&gt;</b>            ○読み物教材や活動内容等を示す本冊とあわせて別冊の道徳ノートが付属しており、年間を通して使用することで自分の成長が実感できるようになっている。話合いなど協働的な学びの積み重ねを記入することができるよう工夫されている。            ○いじめ、情報社会、自立と共生、環境と未来、安全な生活の5つを、生徒に考えさせたいテーマとして設定し、それぞれのテーマに関するマークを目次や教材一覧表に載せることで、多様性の尊重とSDGsに関連させながら生徒の学びを深められる工夫がされている。            ○各教材冒頭に「学びのキーワード」があり、見通しを持って主体的に授業に臨めるよう工夫されている。教材末尾には、自分の生き方にプラスしたいことを考える「自分にプラスワン」があり、道徳的価値をより深く理解できるようになっている。         </p> <p> <b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b>            ○いじめ問題をユニット化し、生徒が自分事として考えられるように工夫されている。直接的に扱った教材と間接的に考える教材で構成され、より深く、多面的・多角的に考えられるように工夫されている。            ○ユニット「よりよい社会を考える」が各学年に年間複数配置されており、集中的に多面的・多角的に考えられるように工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫&gt;</b>            ○「学びを深めよう」のページには、問題解決的な学習や体験的な学習など流れと資料が示されている。生徒は学びの見通しを持って授業に取り組み、思考の広がりや深まりにつなげることができるように配慮されている。            ○学校の年間行事、発達段階を踏まえて教材が配置されている。また、3年間を見通し、系統的、発展的に学習できるように工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b>            ○各教材に「学びのキーワード」が示されており、気づきのきっかけが示されている。ここから自分の考えを持ち、「考えてみよう」を手がかりに議論することで、考えを深められるようになっている。            ○「学びを深めるヒント」では、話合いの手法や整理方法が示され、対話的・協働的な学びが実現できるよう工夫されている。         </p>
資 料	<p>           ○教材の理解につながる写真、挿絵が掲載されている。グラフから考える教材や漫画を活用した教材など多様な教材が掲載されている。            ○教材の主人公となった人物からの「あすへのメッセージ」が掲載されている。また、メッセージ動画が付属している教材もある。            ○すべての教材に二次元コードがあり、心情メーターや補足資料が見られる。         </p>
表記・表現	<p>           ○教科書のサイズはB5判を採用しており、すべての教材が右ページ始まりの見開き構成になっている。文章の途中でページをめくることにならないよう調整されている。            ○全ページにわたって人権への配慮がなされている。表紙や挿絵、登場人物にも偏りや固定化がないよう編集されている。            ○ユニバーサルデザインに配慮した紙面構成になっている。         </p>
総 括	<p>           ○1年間、3年間を見通した系統的、発展的な教科書となっている。各学年で発達段階に配慮したテーマが設定されており、生徒が自分事として捉え、主体的・対話的で深い学びにつなげられる。「いじめと向き合う」、「よりよい社会を考える」はユニット化され、集中的に、多面的・多角的に考えられるようになっている。別冊の道徳ノートに自分の考えや話合いの内容を記入することで、自分の成長を実感し、協働的な学びを積み重ねられるよう工夫されている。         </p>

# 道徳科調査資料

書名 項目	『新版 中学生の道徳 明日への扉』 発行者番号 224 発行者名 学研
特 色 内 容 資 料 表 記・表 現	<p> <b>&lt;道徳の目標に関わる工夫&gt;</b>          ○生徒の発達に合わせて授業を展開できるよう4つの視点に基づいた教材が、適切に配置されている。教材の前に主題名が記されておらず、「キーフレーズ」として示すことで、生徒が主体的に課題を発見し、道徳的価値を自覚できるよう工夫されている。          ○SDGs、多様性、キャリア教育はユニット学習が設定されている。1つのテーマを、内容項目が異なる複数の教材で連続して学ぶことで、広い視野を持って多面的・多角的に考えが深められるよう工夫されている。          ○主体的に考え、他者と活発な意見交換ができるように教材の後に適宜「深めよう」が設定されている。また、巻末に「未来への扉」があり、1年間を振り返り、次年度へとつなげる工夫がされている。       </p> <p> <b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b>          ○「いのちの教育」を最重点テーマとし、内容項目「生命の尊さ」に関する教材が各学年3教材ずつ掲載されている。また、様々な内容項目で、その尊さに気づくことができる教材が掲載されている。          ○情報モラルや防災教育、いじめ問題に関する教材が各学年掲載されており、生徒が自分事として考えられるよう工夫されている。       </p> <p> <b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫&gt;</b>          ○巻頭の「道徳科で学ぶこと考えること」では、考えを深める4つのステップ、多様な学び方、思考ツールの使い方、ICT活用などを掲載し、深い学びに導く方法、学びの過程や結果を可視化することで、主体的に学びが深められるようになっている。          ○学年の始めに目標や意欲が書き込める欄や、各教材の気づきが記録できるメモ欄があり、気づきや学びが可視化され、自らの成長が感じられるようになっている。       </p> <p> <b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b>          ○「考えを深める4つのステップ」として問題解決的な学習の手立てを示し、生徒が考えを深める学習過程が工夫されている。また、特設ページ「クローズアップ」で教材をさらに多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。          ○話し合いが活性化するような発問や、気づきを喚起する記述が掲載されている。また、生徒が気づきや考えを記入する欄が設けられ、思考が整理できるようになっている。       </p>
資 料	○いじめ防止、多様性に関する教材をコミック形式で掲載し、また埼玉に係る教材等を多数選定することで、生徒の興味関心につながる構成になっている。 ○二次元コードが示されている教材では、動画や写真、補足資料などをウェブサイトで見ることができる。 ○教材に合った写真や挿絵が多く掲載され、教材の理解を促す工夫がされている。
表 記・表 現	○教科書のサイズはA B判を採用しており、写真、イラスト、図表なども豊富で、読みやすさや見やすさが重視されている。 ○教材に関連する現代的な課題がマークで示されている。また、問いかけや気づきを喚起させる発問が欄外のボックス内に掲載されている。 ○色、マークなどユニバーサルデザインでの配慮がなされている。
総 括	○教材の前に主題名が記されておらず、「キーフレーズ」として示すことで、生徒が主体的に課題を発見し、道徳的価値を自覚できるよう工夫されている。生徒が自分の考えを記入できる欄が多くあり、生徒が自らの学びを可視化することができ、学びをより深めることができるようになっている。埼玉に係る教材等が多数掲載されている。深谷市出身のパラアスリート村岡桃佳選手や、寄居町立男倉中学校が舞台となった教材が掲載されており、生徒の興味関心につながる構成となっている。

# 道徳科調査資料

書名 項目	<div style="text-align: center;">『 中学生の道徳 』</div> <div style="text-align: right;">           発行者番号            232            発行者名            あか図         </div>
特 色 内 容	<p><b>&lt;道徳の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○重点的に考えたい4つのテーマ、「『いじめ』を考える」「情報モラル」「共に生きる社会」「キャリア」をユニット化している。様々な視点から現代的な課題に対して、対話を通して生徒の思考を深められるような工夫がされている。</li> <li>○教材ごとに考えの道すじが示され、さらに学習活動がイメージできるように発問を2つに厳選しているため、生徒がねらいに向かって主体的に考えを深めていくような工夫がされている。</li> <li>○教材での学びを踏まえて、自分自身や道徳的価値について問い直しができるように「自分との対話」が設けられ、また、巻末に「学習の記録」が設置されていることで、自分自身の1年間の成長に気付くきっかけを与えられる工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめをしない、させない、見過ごさないために大切な心を育む教材をユニット化し、5、6月に重点的に学習できるように設置し、全学年で継続して学びを広げ、深められるようになっている。</li> <li>○情報化社会でどのように考え、生きたいかを様々な視点で考える教材や様々な人が共に暮らす社会が抱える課題に向き合う教材が、それぞれユニット化されている。</li> </ul> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末に「学習の記録」が設置されており、学期ごとに、また1年間で、自分自身の授業の取組を振り返ることができるようになっていて、自分自身の成長に気付くきっかけとなる工夫がされている。</li> <li>○「自主、自律、自由と責任」「思いやり、感謝」「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」を重点項目として、全学年を通してそれぞれ3教材ずつ掲載されている。</li> </ul> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年に3か所「マイ・プラス」が設置してあり、問題解決的な学習や体験的な学習、役割演技や話し合いなどを取り入れることで、多面的・多角的な視点で想像したり考えたりできる工夫がされている。</li> <li>○教材によって文末に「自分を見つめて考える」または「いろいろな見方で考える」と「考えを深める」という発問が設けられ、対話的な学びを促す工夫がされている。</li> </ul>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書に掲載されている二次元コードから、教材に関する補助教材として、写真や動画、参考となる外部ページを見ることができ、学びを深める工夫がされている。</li> <li>○「Thinking」というコラムページが各学年8～10本掲載されており、教材での学びから視野を広げる工夫がされている。</li> <li>○各学年に地域教材が巻末にあり、興味関心を広げられるようになっている。</li> </ul>
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書のサイズはB5判を採用しており、UDフォントを使用し、書体や文字の大きさが読みやすいように配慮されている。</li> <li>○各教材の冒頭に内容項目を見分けるための4色に分かれたマークが示されており、色で内容項目4つの視点のみを表し、わかりやすく分類・表示している。</li> <li>○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じて脚注で補足説明されている。</li> </ul>
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○役割演技、問題解決的な学習、体験的な学習など、多様な学習活動を実現させるために「マイ・プラス」が設置され、様々な視点から考えを深められる工夫がされている。また、教材の文末に授業の流れを意識した発問として「自分を見つめて考える」「いろいろな見方で考える」「考えを深める」が設置されており、ねらいに迫った授業が展開できるように工夫している。埼玉に係る教材等として、渋沢栄一、川越市の「時の鐘」、秩父市についての紹介が掲載されている。</li> </ul>

# 道徳科調査資料

書名 項目	<div style="text-align: center;">『 道徳 中学校 』</div> <div style="text-align: right;">           発行者番号            233            発行者名            日 科         </div>
特 色 内 容	<p><b>&lt;道徳の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <p>○学習指導要領に示されている4つの視点と22の内容項目順に教材が配置されているため、各学校の年間指導計画に基づいて組み替えたり、その時期の学級の状態によって自由に教材を並び替えたりすることができる工夫がされている。</p> <p>○教材によっては、「考えよう」「深めよう」という発問があり、それによって自分の考えを深めたり、他の生徒の考えを聞いたりすることにより、物事を多面的・多角的に捉えることができるような工夫がされている。</p> <p>○人としてより良く生きようとすることについての教材を多数選定しており、さらに生徒自身が、より良い自分を探求するために、「ウェルビーイングカード」を付録につけ、授業で活用できるように対象教材に活用マークをつけている。</p> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <p>○いじめ問題に真正面から向き合う直接教材と、いじめにつながりかねない日常の場面に注目する間接教材の2種類があり、また、ダイバーシティー、LGBTなど個性の在り方について考えさせる教材が掲載されている。</p> <p>○情報モラルでは、SNSでの誹謗中傷、ファクトチェック、生成AIの問題点など、情報を活用する際の道徳的課題について考えさせる教材が掲載されている。</p> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <p>○1年生は「自己理解」、2年生は「自己啓発」、3年生は「自己実現」と、それぞれのテーマに向き合うため、キャリア教育の視点から各学年4～6教材、キャリア形成をテーマにした教材が掲載されている。</p> <p>○共通した登場人物を扱う教材を全学年に配置し、ストーリーに連続性をもたせ、学校を舞台とした友情、異性への関心を描く教材を掲載している。</p> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○教材の文末に「考えよう」「深めよう」の発問を設置し、自分の考えを深めていけるようにしている。また、多くの発問で「話し合ってみよう」と対話を促す工夫がなされ、「考え、議論する」ことができるように工夫されている。</p> <p>○「ウェルビーイングカード」を活用することで、自分の意見を伝えやすくすることや、クラスメイトとの対話がしやすい環境を作るなどの工夫がされている。</p>
資 料	<p>○オリンピック選手や著名人、先人たちなど、様々な分野・業績を残した人物を扱った教材が掲載されている。</p> <p>○二次元コードが設けられている教材では、教材に関する補助教材として、写真や動画、参考となる外部ページを見ることができ、学びを深める工夫がされている。</p> <p>○教材に合った挿絵や多くの大小様々な写真があり、見やすく提示されている。</p>
表記・表現	<p>○教科書のサイズはA B判を採用しており、UDフォント、カラーユニバーサル観点から配慮がされ、見やすくなっている。</p> <p>○生徒の興味・関心やイメージをもって課題に向かうために、漫画や動画などの表現方法を使う工夫がされている。</p> <p>○漢字や難解な言葉には振り仮名が付され、必要に応じ脚注で補足説明されている。</p>
総 括	<p>○教材を学習する際に「何について学ぶのか」の先入観を持たせないため、教材には内容項目は載せていない。ウェルビーイングカードが活用できる教材では、自分が大切にしたい価値を、カードを使って意識し、その価値について生徒同士で議論することができるような工夫がされている。また、各教材末尾に「考えよう」「深めよう」を設けることで、教材の読み取りで終わらないように工夫している。埼玉に係る教材等として荻野吟子や渋沢栄一について掲載している。</p>